

指宿市埋蔵文化財調査報告書（5）

県営畠地総合土地改良事業東部ⅤⅠ区に  
伴う埋蔵文化財確認調査報告書

# 宮 之 前 遺 跡

1981年3月

鹿児島県指宿市教育委員会



## 序 文

宮之前地区は、地表におびただしい土器片の露出散布が見られる所で、埋蔵文化財包藏地であります。

この遺跡の調査は県宮南薩摩地帯総合土地改良事業実施に伴い「宮之前遺跡発掘調査事業」として、事業費700万円（文化庁補助350万円、県補助175万円、市費175万円）で実施したものであり、その調査概要を報告書としてまとめました。

報告にありますように、調査の成果として本地区は多種多様な出土遺物や住居跡など、貴重な文化財が埋蔵されていることが明らかにされました。については、この調査結果が土地改良事業実施にあたって、遺跡保存のため適切に活用されるよう念願いたします。また、本報告書を通して埋蔵文化財に対するいっそうのご理解をいただくとともに、学術文化の向上に役立てば幸いと考えます。

なお、この調査にあたっては、文化庁の文化財調査官の指導を受け、また、県文化課からは、調査員を派遣して発掘調査を直接担当していただきました。

ここに、厳寒の時期に大変なご尽力くださった調査員はじめ、指導者、作業協力者並びに協力いただいた土地所有者の方々に深く感謝申し上げます。

昭和56年3月31日

指宿市教育委員会  
教育長 水方忠雄

## 例　　言

1. この報告書は指宿市教育委員会が国庫補助を得て実施した昭和53年度埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営畠地総合土地改良事業東部第V工区に伴う事前調査として実施した。
3. 発掘調査責任者は指宿市教育委員会で発掘調査は鹿児島県文化課が行なった。
4. 本書の執筆は次のとおりである。

第Ⅰ章 ..... 中島哲郎

第Ⅱ章 第1・2・4・5-1節 ..... 弥栄久志

第3節 ..... 成尾英仁

第5-2・3・4節 ..... 中島哲郎

第Ⅲ章 ..... 弥栄・中島

5. 実測・図面等の作成は弥栄・中島が中心となり一部は鹿児島県教育庁文化課の埋蔵文化財係が補助した。なお写真関係も弥栄・中島が行なった。
6. 地質関係は指宿高等学校教諭 成尾英仁氏に依頼した。
7. 本書に用いたレベルの数値は全て海拔高である。
8. 遺物の整理・復元・実測は主として鹿児島県文化課収蔵庫の協力を得た。

## 本 文 目 次

第Ⅰ章 遺跡の環境と周辺遺跡 .....	7
第1節 遺跡の位置と環境 .....	7
第2節 周辺遺跡 .....	9
第Ⅱ章 発掘調査の経過と概要 .....	11
第1節 発掘調査の経過 .....	11
第2節 発掘調査の概要 .....	18
1 各地点の調査 .....	18
第3節 宮之前遺跡の地形と地質 .....	21
1 地形 .....	21
2 基本層序 .....	21
3 各トレンチの層序 .....	22
第4節 遺構 .....	28
第5節 遺物 .....	29
1 土器 .....	29
2 石器 .....	76
3 輻石加工品 .....	78
4 鉄器, 金銅製品 .....	80
第Ⅲ章 まとめ .....	91

## 挿 図 目 次

第1図	指宿地方の位置図	7
第2図	指宿市内の主要遺跡	8
第3図	調査地域の地形図	13
第4図	各トレンチの配置図	20
第5図	宮之前遺跡の標準地層図	22
第6図	宮之前遺跡付近の地形・地質図	23
第7図	各トレンチの土層図(1)	24
第8図	各トレンチの土層図(2)	25
第9図	各トレンチの土層図(3)	26
第10図	各トレンチの土層図(4)	27
第11図	第2地点住居址全体図	30
第12図	1号住居址	31
第13図	2号住居址	32
第14図	3号・4号住居址	33
第15図	5号・6号住居址	34
第16図	7号・8号住居址	35
第17図	第5地点の遺物出土状況全体図	36
第18図	第5地点の遺物出土状況図(1)(2)(3)	37・38
第19図	第2地点の遺物図(1)	39
第20図	第2地点の遺物図(2)	40
第21図	第5地点の遺物図(1)	41
第22図	第5地点の遺物図(2)	42
第23図	第5地点の遺物図(3)	43
第24図	第5地点の遺物図(4)	44
第25図	第5地点の遺物図(5)	45
第26図	第5地点の遺物図(6)	46
第27図	第5地点の遺物図(7)	47
第28図	第5地点の遺物図(8)	48
第29図	第5地点の遺物図(9)	49
第30図	第5地点の遺物図(10)	50
第31図	第5地点の遺物図(11)	51
第32図	第5地点の遺物図(12)	52
第33図	第5地点の遺物図(13)	53

第34図	第5地点の遺物図 (14)	54
第35図	第5地点の遺物図 (15)	55
第36図	第5地点の遺物図 (16)	56
第37図	第5地点の遺物図 (17)	57
第38図	第5地点の遺物図 (18)	58
第39図	第5地点の遺物図 (19)	59
第40図	第5地点の遺物図 (20)	60
第41図	第5地点の遺物図 (21)	61
第42図	第5地点の遺物図 (22)	62
第43図	第5地点の遺物図 (23)	63
第44図	第5地点の遺物図 (24)	64
第45図	第5地点の遺物図 (25)	65
第46図	第8地点の遺物図 (1)	66
第47図	第8地点の遺物図 (2)	67
第48図	第8地点の遺物図 (3)	68
第49図	第8地点の遺物図 (4)	69
第50図	第8地点の遺物図 (5)	70
第51図	石器実測図 (1)	81
第52図	石器実測図 (2)	82
第53図	石器実測図 (3)	83
第54図	石器実測図 (4)	84
第55図	石器実測図 (5)・軽石加工品実測図 (1)	85
第56図	軽石加工品実測図 (2)	86
第57図	軽石加工品実測図 (3)	87
第58図	軽石加工品実測図 (4)	88
第59図	軽石加工品実測図 (5)・石器実測図 (6)	89
第60図	鐵 鐵	90
第61図	金銅製品	90

### 表 目 次

第1表	指宿市内の主要遺跡	9
第2表	これまでの経過	12
第3表	土器遺物表	70
第4表	石器の計測	77
第5表	軽石加工品の計測	79

## 図 版 目 次

図版 1 宮之前遺跡全景・説明会	93
2 第1地点の土層・第11地点の土層	94
3 第2地点の1号住居址の遺物出土状況・第5地点の遺物出土全景	95
4 第5地点の出土状況	96
5 第8・10地点の出土状況	97
6 第2地点の住居址全景・1号住居址	98
7 2・3号住居址	99
8 4・5・6号住居址	100
9 7号住居址・1号住居址の出土遺物	101
10 1号住居址の出土遺物	102
11 第5地点の出土遺物 土器	103
12 "	104
13 "	105
14 "	106
15 "	107
16 "	108
17 "	109
18 "	110
19 "	111
20 "	112
21 "	113
22 "	114
23 "	115
24 "	116
25 第8地点の出土遺物	117
26 "	118
27 "	119
28 "	120
29 第5地点の出土遺物 石器	121
30 "	122
31 "	123
32 "	124
33 第5・8地点の出土遺物 軽石加工品・石器(3)・鉄鐵・環	125

# 第Ⅰ章 遺跡の環境と周辺遺跡

## 第1節 遺跡の位置と環境

宮之前遺跡の所存する指宿市は、薩摩半島南東部に位置し、東経130度31分より40分、北緯31度12分より18分の間にある。北は田貫川を境にして喜入町と接し、西は標高350m～400mの山々を境にして頬桂町と接し、南は池田湖を似て開聞町および、良港として名高い山川町と接している。東は19kmにおよぶ断層海岸線をなして錦江湾に臨み、対岸の大隅半島の西側を一望できる。

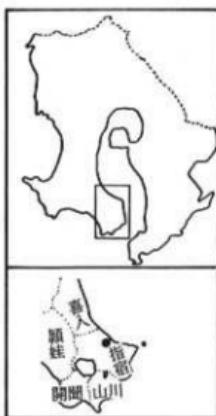
指宿地方の地形は、山地・丘陵および台地・平野そして、湖沼と大きく四地形に分けられる。これらの地形は、火山活動および小河川によって形成されたものである。火山活動は旧期火山および新期火山と分けられる。旧期火山によって輝石安山岩類山地や、台地・丘陵の基盤を形成し、新期火山の噴出物（入戸火砕流、桜島の噴出物、鬼界カルデラの噴出物および、直接的地形形成要因となる池田湖火山灰、開聞岳噴出物等）で形成している。これらの火山噴出物は火山地形および、古代史を調べる上で貴重な資料を提供してくれる。また、霧島火山帯に含まれるこの地方は、地名が「湯豊宿」に由来すると言われ、現在でも温泉の豊富な所でもある。

気候的にも亜熱帯性に入り、植生はクロマツと常緑闊葉樹を主にし海岸線では、メヒルギ（天然記念物）、ソテツ・ピロウ等の自生をみる地方である。そのためか一見、南国の感じさえ与える地方でもある。

今回調査した地域は、国鉄指宿・枕崎線の宮ヶ浜駅より出手に入る地域で、国道226線と接する県道頬桂・宮ヶ浜線が走る地域で、この線が調査区内を東西に二分するかたちをとる。行政的には、指宿市西方に所在する。

宮ヶ浜は指宿氏が居城した松尾城の城下町として盛り、現在でも石垣・土蔵等が残っており、いにしえの武家社会を知る一面を残す地域である。

地形的には、丘陵および台地で、これらを大小に開析する谷が入り込む地域で、調査区の南側には渡瀬川が流れ、北側は標高80m位の丘陵部があり、これを境にして前年度調査した鳥山工区が広がる。東側は台地状に広がり、末端部は斜面となり宮ヶ浜の市街地に続き、西側は開析谷により急斜面となっている。中央部では、平坦面をなす。遺跡の中心部は小高い丘陵部に広がり宮之前部落と隣接する。これらの地域では地形に沿って階段状の畑地をつくり、鹿児島特産の芋を主にして、園芸作物等を産出している畑地帯である。調査地域内の小字名は16に分れ、隣接の部落は宮之前・赤崎・垂門である。



第1図 指宿地方の位置



第2図 指宿市内の主要遺跡

## 第2節 周辺遺跡

指宿市内の遺跡は、考古学の先駆者により数多くの遺跡が発見されている。また、昭和50年度より行われた県営畠地帯総合土地改良事業に伴う埋蔵文化財確認調査において多くの遺跡を発見している。遺跡は、旧石器・縄文・弥生・古墳の名時代にわたり、全国的にも有名な遺跡もある。当時の指宿地方は、火山活動の中心的地域にもかかわらず、古代人の生活の舞台として営まれている。今日、科学的な処理によって時代差を知ることができるが、当地方においては火山活動によって噴出した火碎流および火山灰等の堆積物により遺物の相対的な年代を明確に知ることができる。特に橋牟川遺物包含地での時代区分はその一例と言えよう。

各時代の代表的なものは、小牧3A、小牧第II工区の旧石器や縄文早期の前平系土器を出土する岩本遺跡および後期の指宿式土器を出土した大渡遺跡、そして、弥生・古墳時代のものとして、橋牟礼川遺物包含地等をあげることができる。また、歴史時代においても、指宿氏が居城していた松尾城跡もその類に入る。

第1表 指宿市内の主要遺跡

遺跡名	所在地	時代	地形	備考
1 宮之前	西方	古墳・奈良	台地	成川式・須恵器・住居址
2 岩本	小牧	縄文前期	"	前平系土器
3 小久保	小牧小久保	縄文前・晚期	"	晚期II式土器
4 露重	小牧露重	旧石器	"	小型のナイフ形石器
5 尾越・堀添	小牧尾越・堀添	旧石器	"	ナイフ形石器・犬頭器
6 中尾	小牧中尾	旧石器	"	小型の石器
7 小牧3A	岩本	縄文前・旧石器	"	吉田式・犬頭器・ナイフ形石器・台形石器
8 烏山(1)	新西方烏山		"	土師器・須恵器
9 烏山(2)	"		"	土師器・須恵器
10 烏山(3)	"		"	土師器・須恵器
11 細田東後	新西方細田東後		"	土師器・須恵器
12 舟木	新西方舟木迫		"	土師器・須恵器
13 烏山	新西方烏山		"	石斧・敲石
14 渡瀬	新西方渡瀬	縄文中・後期	"	阿高式・市来式・指宿式
15 幸屋	新西方幸屋		"	土師器・須恵器
16 おばこざこ	西方尾長谷川187420	弥生・後期	"	壺・壺形土器・高坏・石斧
17 外城市	西方外城市	弥生・後期	"	
18 松尾城址	西方6803	中世	"	城址・堀
19 中川	西方中川	弥生・後期	"	住居址

遺跡名	所在地	時代	地形	備考
道上	西方道上	弥生・後期	台地	壺・甕形土器
光明寺址	十町追田	奈良	"	扁額「円通南仏書」
指宿高校校庭	十町236	弥生・後期	"	弥生土器
矢石	十町二月田矢石	弥生・後期	扇状地	甕形土器
清見城址	池田清見城	中世	山地	
大円寺址	十二町小田大円寺	奈良	台地	穴地蔵・千手觀音木像
南追田	十町南追田	弥生・後期	"	
橋牟礼川遺物	十二町丈六下里橋牟	縄文中・後・晚	扇状地	黒川式・夜臼式・市来式・阿高式
包含地	礼川	弥生中・後期		成川式・人骨・住居址
南丹波	十二町南丹波	弥生後期	扇状地	壺・甕形土器・凹石
摺ヶ浜	十二町摺ヶ浜	弥生後期	"	壺形土器・高坏
朝鮮ヶ岡	十二町朝鮮ヶ岡	弥生後期	台地	甕形土器
大山崎	十二町大山崎	縄文後期	台地	市来式・指宿式
大渡	十二町大渡	縄文後期	"	市来式・指宿式・人骨

#### 参考文献

- 指宿市誌 河野治雄(先史時代) 指宿市役所 1968年  
 指宿史談 成尾英仁(指宿の自然とおいたち)指宿史談会 1979年  
 鹿児島県遺跡地図 鹿児島27 鹿児島県教育委員会 1973年

## 第Ⅱ章 発掘調査の経過と概要

### 第1節 発掘調査の経過

県営畠地帯総合土地改良事業に伴い、事業区の埋蔵文化財の確認調査を実施し、事業の推進と文化財保護との調和を図るため、昭和50年度より実施してきた。（昭和52年度より指宿市教育委員会が補助事業の主体者となる）

昭和52年度に2回にわたる分布調査を実施し、その結果をふまえ、鹿児島県農地整備課・南薩畠灌事務所・指宿市教育委員会・鹿児島県教育庁文化課とが協議を重ねた結果、昭和55年度国・県の補助事業として指宿市教育委員会が主体者となり確認調査を実施した。今回の調査は昭和55年10月6日～昭和56年1月14日まで発掘調査した。その後の遺物の整理作業と報告書の作成は、昭和56年1月16日から3月31日まで行なった。

#### 発掘調査の組織

調査主体者 指宿市教育委員会

責任者 教育長 市方忠雄

担当 社会教育課長 堀口次雄

文化係長 小牟礼隆憲

主事 大岩本 稔

〃 和田カツ子

発掘調査員 鹿児島県教育庁

文化課主事 弥栄久志

〃 調査員 中島哲郎

なお、発掘調査にあたり、多くの方々の協力と指導助言に記して感謝申し上げます。

鹿児島県文化課々長 山下典夫、同専門員 本藏久三、主任 諏訪昭千代

同埋蔵文化財担当職員

鹿児島県指宿教育事務所

〃 南薩畠灌事務所

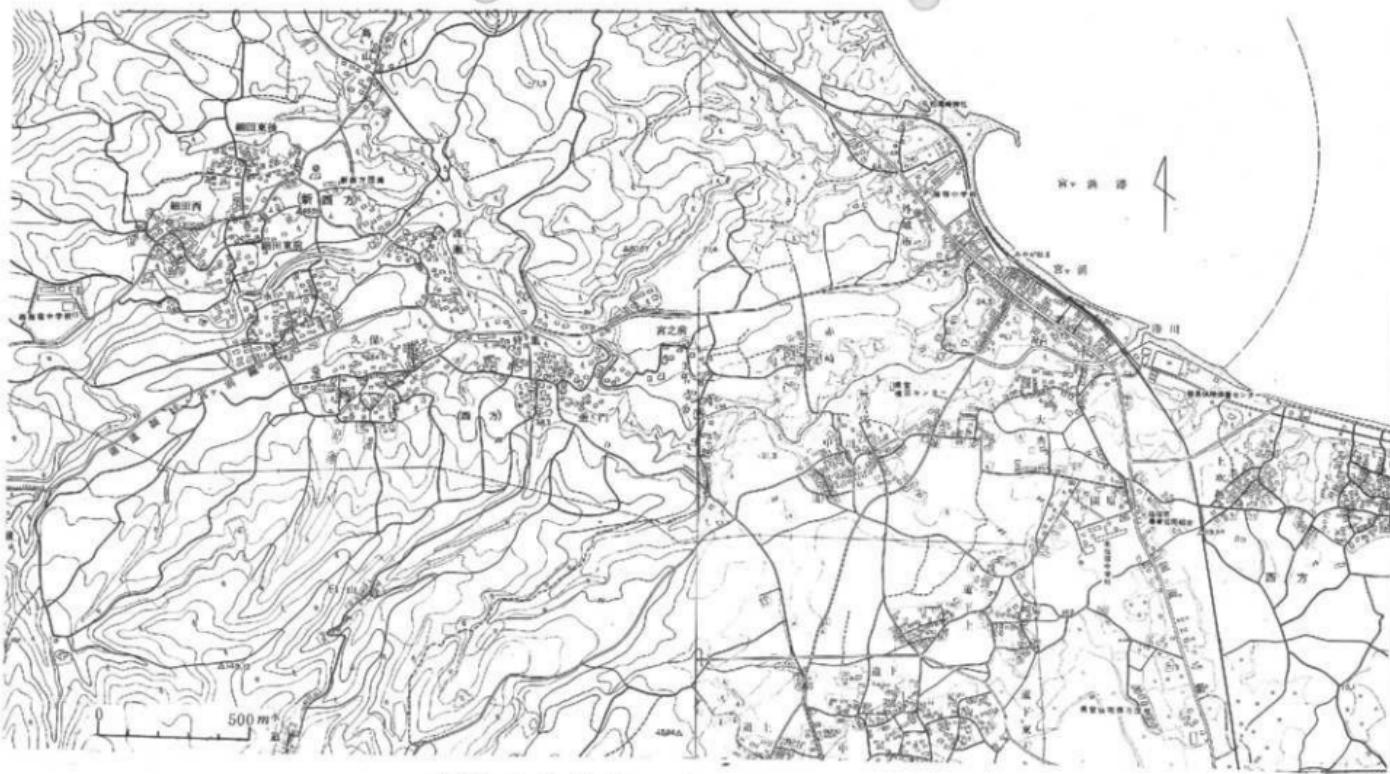
指宿市耕地課・同土木課

鹿児島県文化財審議委員 河口貞徳

〃 立指宿高校教諭 成尾英仁

第2表 これまでの経過

調査年度	調査地区	発見遺跡	時代・時期	調査者	備考
50年度	新西方地区 (主体者文化課)	岩本遺跡	古墳時代 弥生時代中期 縄文時代晚期	文化課 吉永正史 中村耕治	・設計変更保存 整理中
51年度	岩本工区 (主体者文化課) (小牧第I)	第I地点	縄文時代	文化課 出口浩 長野真一	・保存・整理中
		第II地点	古墳時代 縄文時代前期		文化課で記録保存 (出口浩・西田茂) 整理中
		第III地点	縄文時代早前期 旧石器時代		文化課で記録保存 (長野真一・中島哲郎) 整理中
		第IV地点	縄文時代前期		・保存・整理中
		第V地点	縄文時代前期		" "
		第VI地点	縄文時代前期		" "
		第VII地点	古墳時代		" "
		A地点	古墳時代 弥生時代中期	文化課 長野真一 中島哲郎	・概報あり ・A-C遺跡は一部記録保存
52年度	岩本工区 (主体者 指宿市教委)	B地点	旧石器時代 弥生時代		・設計変更・保存 整理中
		C地点	弥生時代 縄文時代晚期 縄文時代前期		
53年度	小牧工区 (主体者 指宿市教委) (小牧第II)	出水迫遺跡	弥生時代 縄文時代 旧石器時代	文化課 弥栄久志 中島哲郎	・報告書あり
		尾越・堀添遺跡	旧石器時代		
		中尾遺跡	旧石器時代		
		露重遺跡	旧石器時代		・54年報告
		小久保遺跡	縄文時代 旧石器時代		
54年度	鳥山工区 (主体者 指宿市教委)	西原道畑遺跡	縄文時代	文化課 弥栄久志 中島哲郎 井ノ上秀文	・55年報告
		西原迫遺跡	弥生・縄文時代		
		早馬迫遺跡	弥生時代		
55年度	宮之前工区	宮之前遺跡	古墳・奈良時代	文化課 弥栄久志 中島哲郎	・今回報告



### 第3図 調査地域の地形図

## 日 誌 抄

昭和55年10月 6日 (月)

本日より調査開始、器材運搬、トレーナー設定、1地点、2地点

10月 7・8・9日 (火・水・木)

1地点、2地点の調査、2地点に住居址の可能性を拡張する。

10月11日 (土)

調査地点設定の打ち合せ

10月13日 (月)

1地点、2地点の調査 2地点は遺構検出

10月14日 (火)

台風のため外作業中止

10月15日 (水)

2地点、3地点の調査

10月16・17日 (木・金)

1地点、2地点、3地点の調査 2地点は写真撮映

10月18日 (土)

今後の調査のための打ち合せ

10月20日 (月)

1地点、3地点の調査

10月21・22日 (火・水)

1地点、2地点、4地点、5地点の調査

10月23日 (木)

1地点、4地点、5地点の調査

10月24日 (金)

雨のため外作業中止

10月25日 (土)

遺物の検出

10月27日 (月)

2地点、4地点、5地点の調査 5地点は遺物多く

10月28・29・30日 (火・水・木)

2地点、5地点の調査 5地点は拡張し遺物取り上げも行なう

11月 1日 (土)

器材の運搬 収蔵庫より指宿へ

11月 4・5・6日 (火・水・木)

2地点、5地点の調査 5地点は10, 11-F, 10-D, E区の堀り下げ

11月7日（金）

雨天のため外作業中止、遺物整理

11月8日（土）

今後の調査の検討

11月10・11日（月・火）

2地点、5地点の調査 2地点は写真撮影も行なう

11月12日（水）

5地点、6地点の調査 6地点は本日よりはいる。

11月13日（木）

5地点、6地点、7地点の調査 6地点は須恵器出土

11月14日（金）

5地点、7地点、8地点の調査 8地点は本日よりはいる。

11月15日（土）

今後の調査の検討

11月17・18日（月・火）

5地点、7地点、8地点、9地点の調査 8地点は須恵器が多く出土、7地点は埋めもどし

11月19日（水）

5地点、6地点、8地点、10地点の調査 6地点は埋めもどし

11月21日（金）

1地点、3地点、5地点、9地点、10地点の調査 1、3、9地点は埋めもどし

11月22日（土）

図面整理

11月25・26・27日（火・水・木）

2地点、5地点の調査 2地点は住居址実測、5地点は平板図作成、遺物取り上げ

11月28日（金）

雨のため外作業中止、遺物整理、図面整理

11月29日（土）

図面整理

12月1日（月）

2地点、5地点の調査 実測ならびに平板図作成遺物取り上げ

12月2日（火）

雨天のため外作業中止 遺物整理

12月3日（水）

1, 2, 3, 5, 9, 10, 11地点の調査 1, 3, 9地点は埋めもどし

12月4日（木）

2, 5, 10, 12, 13地点の調査 10地点終了, 13地点は本日より

12月5日 (金)

2, 5, 13, 14, 15地点の調査 15地点は本日より

12月6日 (土)

図面整理

12月8日 (月)

2, 5, 8, 13, 14, 15地点の調査 13, 14, 15地点は終了

12月9日 (火)

8地点の調査 平板面作成, 遺物取り上げ, 土器洗い本日よりはいる。

12月10日 (水)

5, 8, 15地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月11日 (木)

2地点, 5地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月12日 (金)

雨天のため外作業中止 土器洗い, ナンバーリング, 図面整理

12月13日 (土)

図面整理

12月15日 (月)

2地点, 5地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月16日 (火)

2, 5, 11, 12, 13, 14地点の調査, ナンバーリング

12月17日 (水)

2, 5, 10, 12, 13地点の調査, 12, 13地点は埋めもどし

12月18・19日 (木・金)

2地点, 5地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月20日 (土)

図面整理

12月22・23日 (月・火)

2地点, 5地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月24日 (水)

2地点, 5地点, 8地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月25日 (木)

2地点, 5地点の調査, 土器洗い, ナンバーリング

12月26日 (金)

5地点調査

昭和56年1月6・7・8・9日（火・水・木・金）

2地点、5地点の調査、実測ならびに一部埋めもどし、土器洗い。

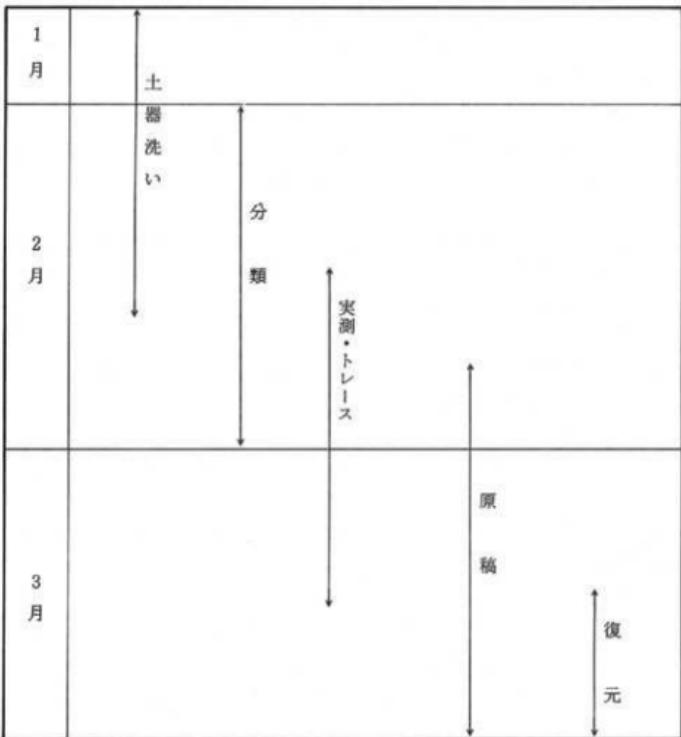
1月10日（土）

図面整理

1月12～14日（月～水）

2地点、5地点の調査、実測ならびに一部埋めもどし、14日で外作業終了

内業は1月16日より収蔵庫で行ない、3月31日で終了した。



## 第2節 発掘調査の概要

### 1 各地点の調査

#### 第1地点

第1地点は幅2mでL字形にトレーニングを設定した。小字は春日であるが同字の東端にあたり標高35.00mに位置する。基盤は池田火山灰で現地表面まで腐植土と開聞岳噴出物の互層になっている。現地形は小高い丘になっているが池田火山灰の上面は変化に富み北西部にむかって傾斜している。高いところの差は1m50cm以上もある。開聞岳噴出物は二つのコラ層がブロック状にみられるほか、同岳の特徴である小疊混りの火山灰でやや腐植化している。

遺物は開聞岳のコラ層の下に成川式土器片が出土しているほか、開聞岳噴出物下層に縄文晚期の土器片が小量出土した。包含層は厚く北西に傾斜しており遺物の上下差がかなりあり、流れ込みの状況であった。

#### 第2地点

第2地点は小字九玉原にあり標高35m70cm前後のところにある。発掘地点は九玉原の西側にあたり、表層下に住居址が検出された。住居址は6基検出されているが2～5号は切り合い状態で発見されている。

トレーニングは南北に15m×2mに入れた。表層は30cm位で剥がれ、第V層と第VI層すぐのぞき遺構が発見されたので拡張した。遺構の検出はイモ穴が多く、部分的に検出の困難なところもあった。

#### 第3地点

第3地点は小字前床原にあり、標高は33m18cmである。トレーニング設定は幅2mで東西10m、南北20mのトレーニングをクロスさせ調査を行なった。ここは北側に浅い凹地が広がっており、農道で段になっている。

層位は表層の下に開聞岳の噴出物、その下に池田火山灰の腐植土があり、包含層は開聞岳の噴出物である。

遺物は成川式土器片が主であり、1.5m下に出土する。量は少なく、遺物の上下差が大である。遺構は検出されなかった。

#### 第4地点

第4地点は第2地点の東隣で2ヶ所にトレーニングを入れた。ここは盤下げがあったらしく、両脇の畑よりも1～1.5m低い畠である。

遺物は旧表土層の下に池田シラスが露出しており、安定した層にはなかった。遺構も検出されなかった。

#### 第5地点

第2地点、4地点と同じ九玉原にある。ここは標高33m～34mの丘である。ここは南北に50mのトレーニングと20mのトレーニングを南北に2本入れ、東西に10mトレーニングを1本入れた。

表層中にも遺物が多量にあり、表層のすぐ下に包含層がある。包含層の土層は第V層で開聞

岳の噴出物の腐植土層である。遺物は成川式土器と須恵器が主である。

遺構としては住居址が2基検出された。この2基は切り合い状態で検出され、7号住居址のみ拡げた。この住居址は池田火山灰を切り込んで竪穴をつくっている。

#### 第6地点

第6地点は標高27m49cmの字九玉原である。ここは九玉原でも一段低いところである。トレンチは $2 \times 5$ mあり、1.8mまで掘り下げた。

遺物は第5層中にあり、深さ1.5m位で多く出土した。遺物は須恵器の破片が主で、成川式土器片も出土した。

#### 第7地点

第7地点は宇佐貴原で標高28m90cm位の台地で、本調査地区の中央部にあたる。トレンチは $10 \times 2$ mを南北に2本入れた。

遺構の検出、遺物の出土はなかった。

#### 第8地点

第8地点は2、4、5地点と、6地点の中間の高さで標高29m20cm位の畠地である。自然の傾斜地を段々状に畠をつくった一部と考えられる。

トレンチは南北10m、東西10mのトレンチを2m幅でT字形に入れた。遺物は第V層に出土し、南北に傾斜して出土した。須恵器と成川式土器が多く出土した。

#### 第9地点

第9地点は字赤崎で標高25m50cmのところである。トレンチは南北に $2 \times 5$ m入れた。遺物はなく、遺構も検出されなかった。

#### 第10地点

第10地点は字九玉原で標高24m50cmの台地である。遺物は約1.5m下に多量に出土した。遺物自体は小さく割られ、完形品はない。

トレンチは幅2mで南北に10m入れた。

#### 第11地点

第11地点は字春日で標高29mの台地である。トレンチは幅2mで10m南北に入れた。

擾乱層が厚く、包含層はなかった。

#### 第12地点

第12地点は字後追前で標高33mの台地である。包含層は表層下1.5m～1.8mのところにあり、遺物は1、2点出した。トレンチは $2 \times 5$ mである。

#### 第13地点～第18地点

第13地点は $2 \times 10$ m、第14地点は $3 \times 3$ mをL字に、第15地点は $2 \times 10$ m、第16地点は $2 \times 10$ m、第17地点は $3 \times 3$ m、第18地点は $4 \times 4$ mのトレンチを入れた。どれも遺物の出土はなかった。



第4図 各トレーニング・センターの配置図

### 第3節 宮之前遺跡の地形と地質

#### 1 地形

宮之前遺跡は指宿市北部の鹿児島湾よりに位置し、前年調査された鳥山調査区の南東に隣接している。付近一帯は図のように海拔高度20~30mの低く平坦な台地が広がっており、わずかに南東部に湊川により開析された小谷が見られ狭い水田がある。遺跡外の北西には断層により直線状に切斷された小丘がみられる。台地は、一般に平坦で、末端部分では、10~20mの急崖となっているが、遺跡の立地する宮之前、赤崎の両集落付近では、南へゆるやかに傾斜している。遺跡中央部には、小さな埋没谷が認められたが、台地内には、大きな谷は存在しない。これは、台地の基盤をつくる堆積物が、池田火砕流とよばれる。約5000年前の火山噴出物で比較的若く、流水による浸食がそれほど進んでいないためと考えられる。池田火砕流は、指宿地方一帯を広くおおい、いわゆる火砕流台地（シラス台地）を形成しているが、遺跡付近の小台地もその一部である。池田火砕流の上には、黒色の腐植土が厚く発達し、また開聞岳からの火山噴出物もみられる。これらは、池田火砕流や池田湖火山灰（従来の小牧火山灰）の堆積を平行におおっている。

#### 2 基本層序

遺跡では表層の耕作土から最下層の池田湖火山灰まで5層が区分された。比較的表層に近い部分から遺物の出土をみたため深層までの確認はしなかった。ただ場所によっては、流入により黒色腐植土が厚く発達している。遺跡の層序は、基本的には、鳥山遺跡のそれと相違はない。各層の名称および特徴は、概略次のようである。

I層 表土、耕作土、場所によってはかなりの深さまで耕作の影響が及んでいるが、一般的には、30cm位の厚さである。耕作の相違によりa b二つに区分できる場所もある。

II層 黒色腐植土。真黒色を呈する腐植土で粘質ではなくサラサラしている。径2~5mm程度の安山岩質の角張った火山礫が点在している。

III層 含火山礫明茶褐色土。径5mm前後のやや角張った安山岩質火山礫を含み、明るい茶褐色を呈する。場所によっては、認められない。

IV層 a 固結明紫色火山灰。明紫色~灰紫色を呈するごく細粒の火山灰で、固くなっている。層はブロック状であり、ごく一部のトレントのみで認められる。厚さは2~3cmで薄い。

4 b 固結紫色火山礫質火山灰。紫色を呈する火山灰と、5mm以下の安山岩質火山礫とが、数層のフォール、ユニット（降下単位）をつくっている。単層の厚さは5cm前後である。場所によっては30cm位の厚さで、連続しているが、大部分は10~20cmの厚さでブロック状になっている。この層の中には、竹葉やシダなどの植物片が多量混入している。指宿地方で「紫コラ」と俗称される。開聞岳火山噴出物に相当する。

V層 含火山礫火山灰質腐植土。火山灰質の層で、径1cm以下の亜角礫状の安山岩質火山礫赤

赤褐色スコリアが点在している。黄褐色を呈することが、腐植のため稍黑色をしている。場所によっては、この層の上部はとくに濃い黄褐色となっている。

#### 遺物包含層

VI層 明黒褐色腐植土、やや明るい黒褐色を呈する腐植土層。下位のⅤ層より腐植の程度が、弱いため区分した。

#### VII層 黒色腐植土。

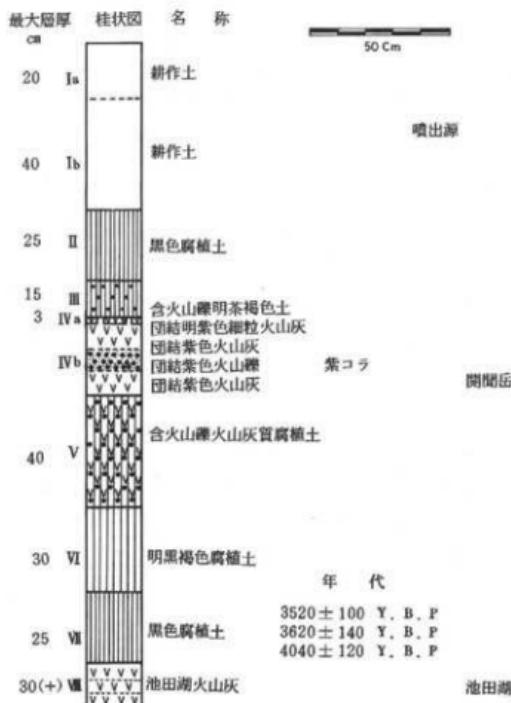
真黒色を呈する腐植土で、やや粘質を帯びている。池田湖火山灰を母材とする腐植土で、場所によっては、きわめて厚くなっている。

火山礫やスコリア軽石等は、認められない。

#### VIII層 池田湖火山灰

従来小牧火山灰と称せられていた成層火山灰

で、帶黄色のやや固い粗粒火山灰である。厚さは、2~2.5mはあるものと推定される。



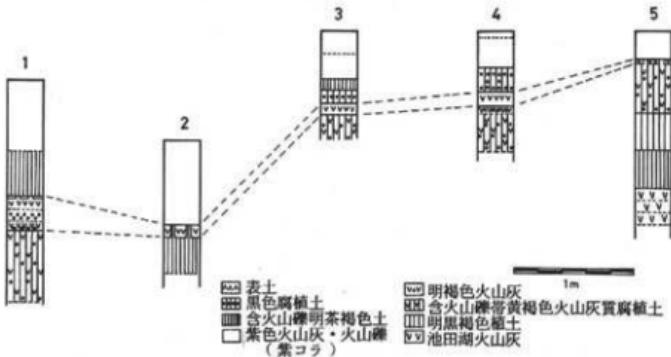
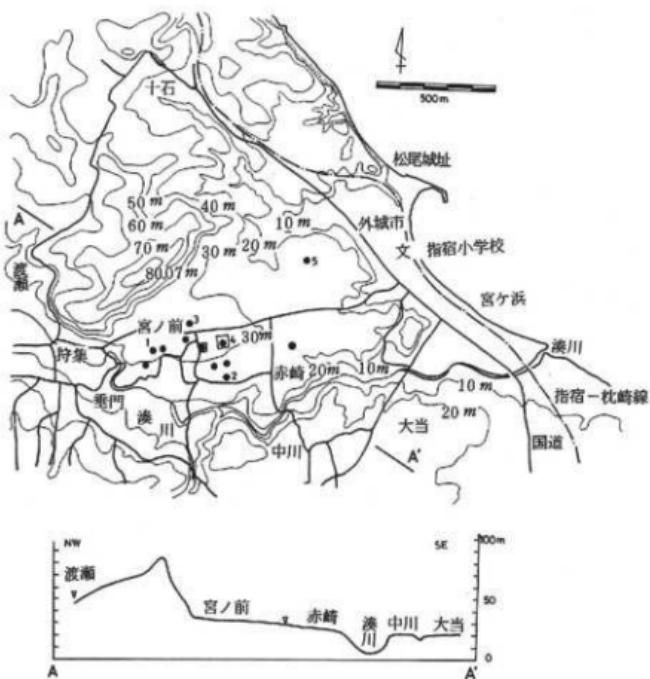
第5図 宮之前遺跡の標準地層図

#### 参考文献

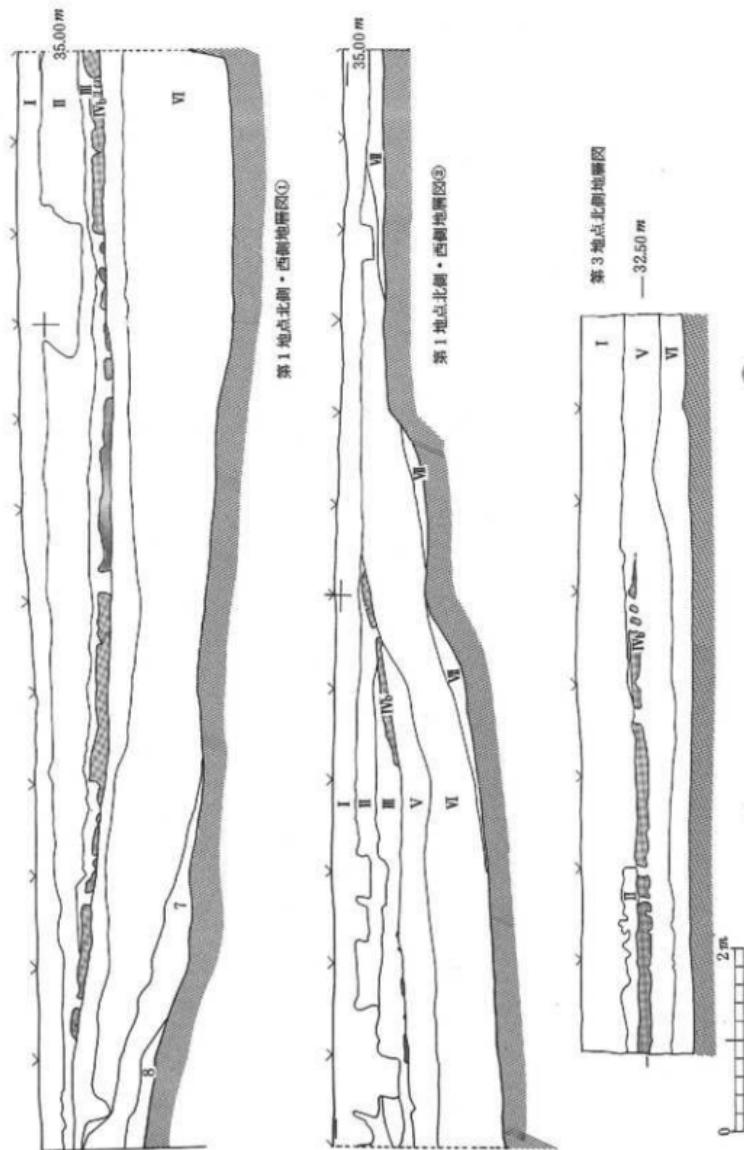
- 成尾英仁、小林哲夫(1980)：池田カルデラの火山活動史 火山25.4 古川博恭、  
中村直人(1969)：開聞岳噴出の火山灰層の14C年代 地球科学 23.6

#### 3 各トレンチの層序

次は基本的なトレンチの土層図である。



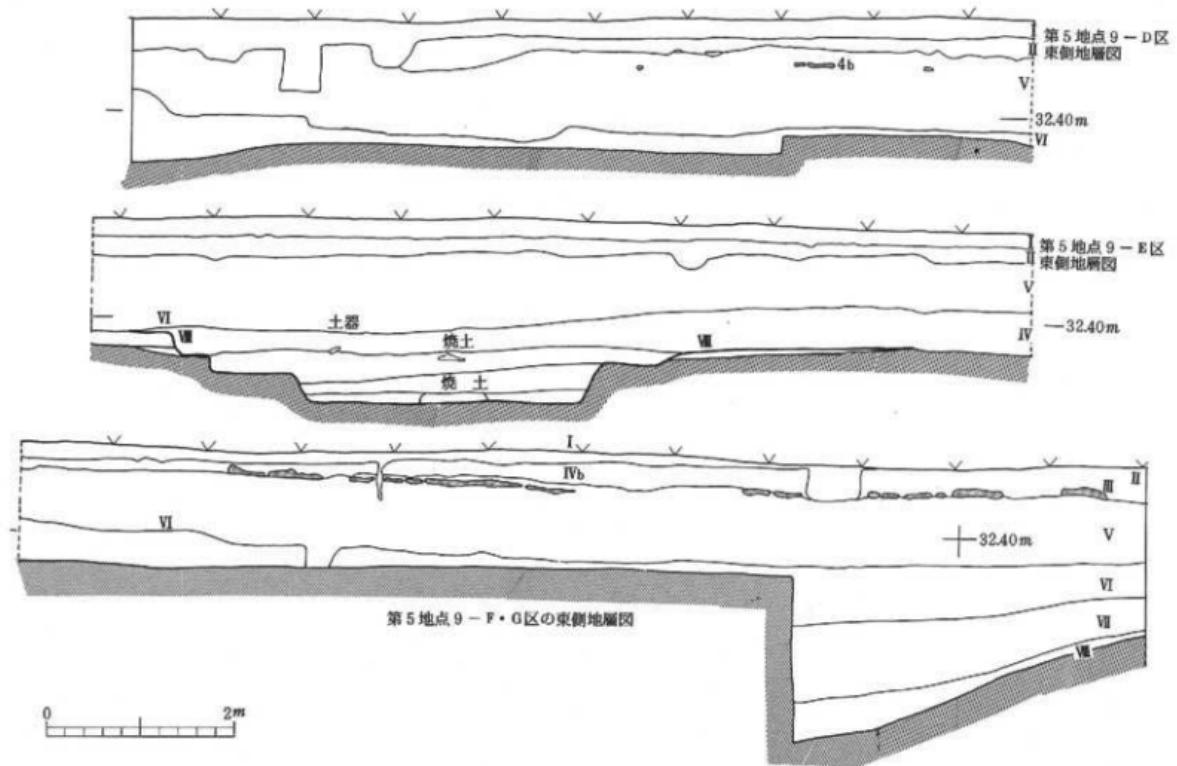
第6図 宮之前遺跡付近の地形・地質図



第7図 各トレンチの土層図(1)

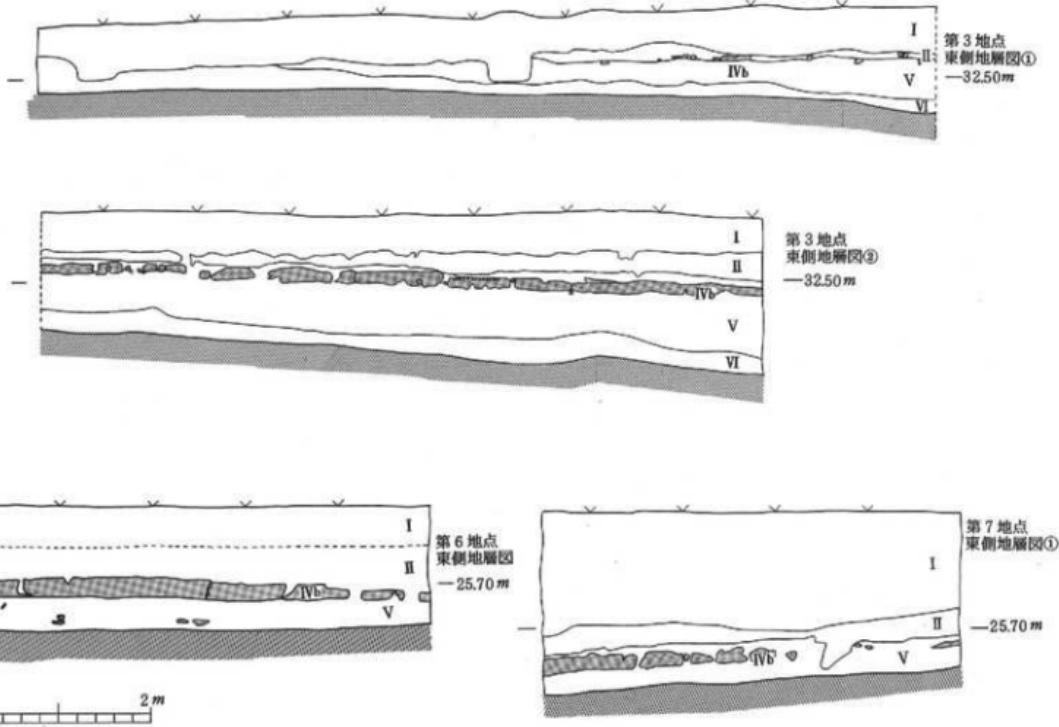
第8図 各トレンチの土層図(2)

-25-



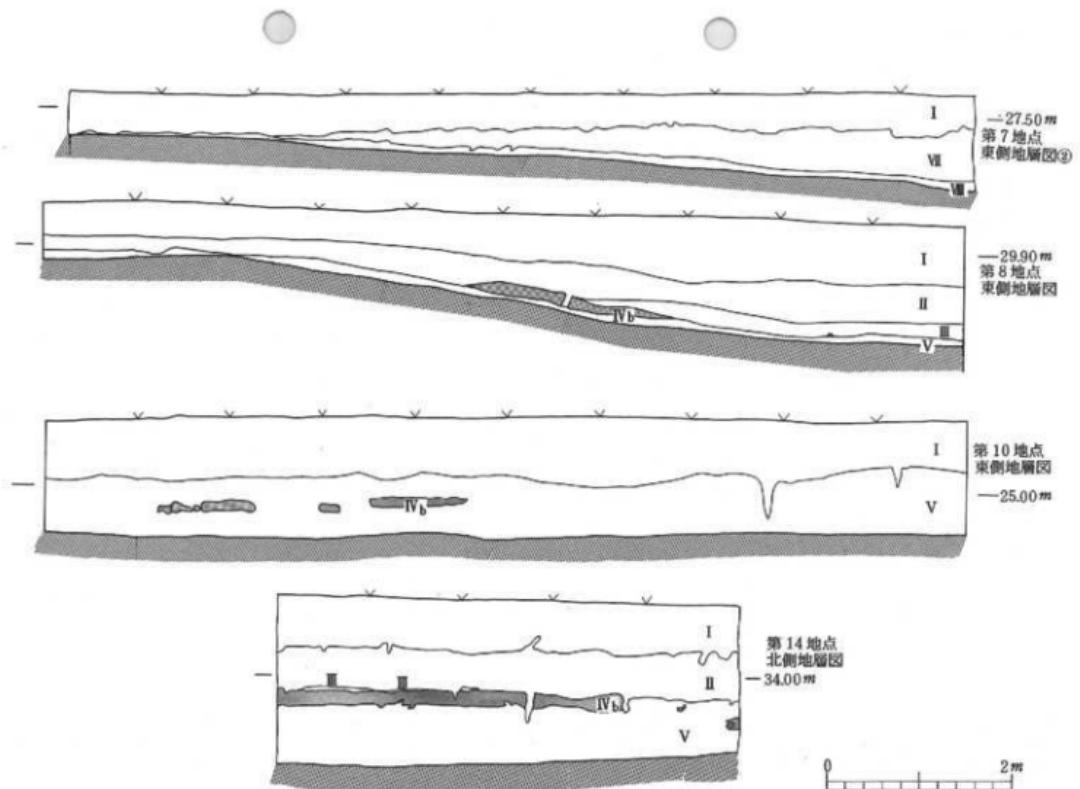
第9図 各トレンチの土層図(3)

—26—



第10図 ハトケンチの地層図(4)

-27-



#### 第4節 遺構

遺構は第2地点に6基の住居址と第5地点に2基の住居址が発見された。

##### 1号住居址（第11、12図）

1号住居址は第2地点に検出され、区としては2-G、3-Gにあたる。東壁4m60cm、西壁4m30cm、南壁4m25cm、北壁4mの方形で深さ20~30cmの堅穴住居址である。

柱穴は4本が基本であるが1ヶ所に3本の柱穴があり、2回の建てなおしがみられる。北壁中央部には110×90cmの浅い凹地がみられる。柱間は堅穴住居址の形にそって比例され、東側の柱間が広い。

遺物は成川式土器片が主で、須恵器の蓋も1点出土している。また鉄鏃も1点西北部に出土した。鉄鏃は比較的小形のもので菱形のものである。この住居址は須恵器の保存が悪く破片であるため時期は不明であるが、成川式土器片から考察して7世紀終末から8世紀前半にあたるものと考えられる。

##### 2号住居址

2号住居址は2-G、3-G、2-F、3-F区に発見された。東南壁5m40cm、西北壁が5m80cm、南西壁が5m20cm、北東壁が5m60cmの台形をした方形の深さ20~30cmの堅穴住居址である。この住居址は中央部が直径3m60cmで深さ80cmの円形堅穴部をもつ。柱穴は4本で円形堅穴部の外辺に直径20~30cmで深さ60cmのものが4本みられる。

この2号住居址の様に外が方形で中が円形のものは第7号住居址も同様である。この住居址には壁下に幅10~15cm、深さ10~20cmの壁帶溝がみられる。

遺物としては成川式土器が主であるが、6世紀末~7世紀初頭の須恵器も出土している。

##### 3号住居址

2地点の3-G・F区に検出した。5m20cm×4m80cmの方形で深さ20~25cmの堅穴住居址である。柱穴は4本ある。2号住居址と重なっている柱穴は補強のあとがある。というのは地盤が弱いため柱穴の中に池田シラスがリング状にかためてあった。

4号住居址から切られているため東西部は不明であった。時期としては成川式土器が埋土中にあったがしっかりした遺物はなかった。

##### 4号住居址

2地点の3-F・G区に検出した。

5m80cm×5m20cmの方形で深さ20~30cmの堅穴住居址である。柱穴は4本である。この住居址は柱穴より中央は一段低くなってしまおり低い部分は方形である。2号住居址の円形で深い中央部と違いがみられる。柱間は4m30cmと4mである。東北部は拡張できなかった。遺物は成川式土器が出土した。2・3・4・5号の切り合いでは最も新しい。

##### 5号住居址

4号住居址より切られている。4号と同型で方形堅穴住居址である。

##### 6号住居址

一 区に検出した。方形窓穴住居址の北西部である。

#### 7号住居址

7号住居址は、調査区の北西端9・10-E区に位置している。 $P_2$ ・ $P_6$ を主軸に定めれば、N125°Eにとる。東壁辺5.76m、南壁辺の復元長は55mである。この箇所は、5層中に多量の遺物の出土が見られた所である。東壁および北壁は原形をとどめているが、南東コーナーは8号住居址で切られているためいびつな方形をなす。壁面は二段になり、住居址中央部に楕円形の長径約3.15m、短径約3mの凹部があり、東壁面には長方形の凹部の施設が見られる。楕円形の側辺には $P_{11}$ が7個検出され、楕円形内にも2個見られ、施設中央部には焼土が検出され、炉址と思われる。7号住居址の構造は2号住居址と同様の造りと思われる。尚、 $P_{11}$ の計測は次のようになる。 $P_1$ は長径25cm、短径23cm、深さ14cm。 $P_2$ は長径23cm、短径19cm、深さ27cm。 $P_3$ は長径16cm、短径13cm、深さ9cm。 $P_4$ は長径32cm、短径25cm、深さ19cm。 $P_5$ は長径31、短径17cm、深さ26cm。 $P_6$ は長径30cm、短径28cm、深さ27cm。 $P_7$ は長径22cm、短径15cm、深さ18cm。 $P_8$ は長径28cm、短径19cm、深さ11cm。 $P_9$ は長径41cm、短径24cm、深さ30cm。

遺物はすべて浮いた状態であった。

#### 8号住居址

8号住居址は7号住居址の北西コーナーを切ったかたちで検出された。南東および北西にコーナーと思われる箇所が検出されたが、全形は未調査のため不明である。

### 第5節 遺物

#### 1. 土器

本遺跡は成川式土器が主体に出土した。

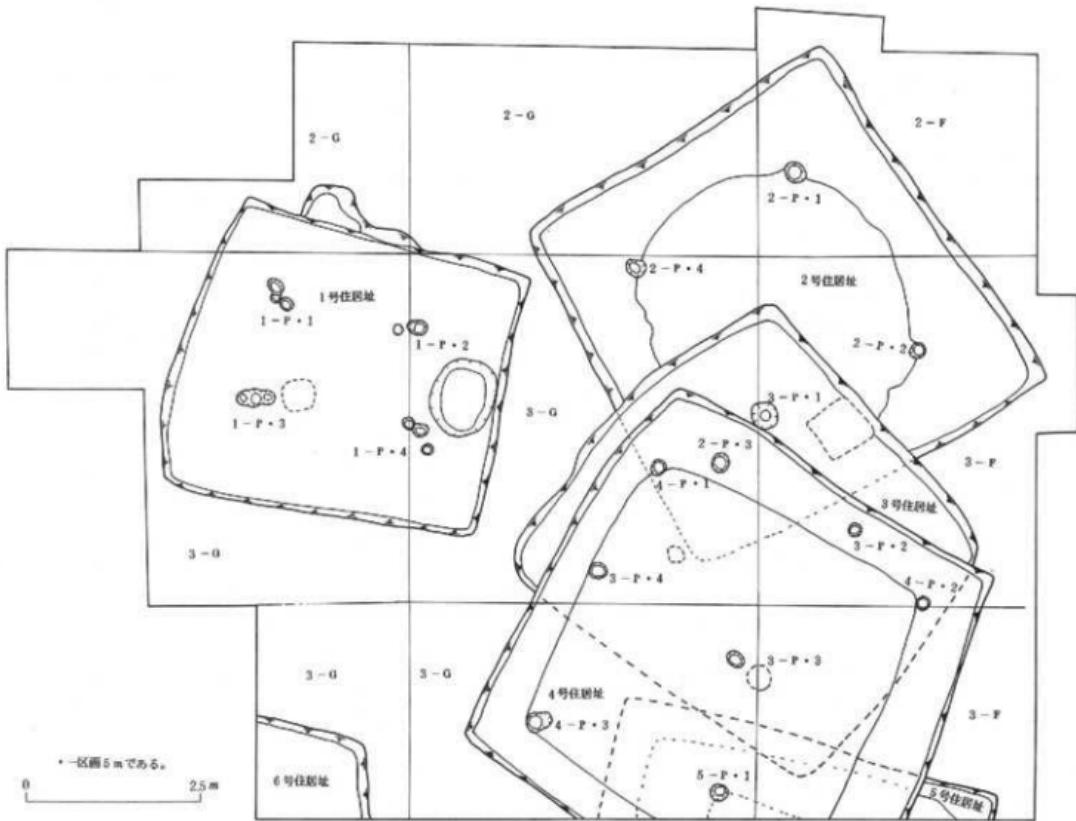
1~17は住居址が6基検出された2地点の遺物である。これらは住居址内に検出された遺物であるが床面に接着した遺物は6・11・13であった。6は壺の完形品に近いものである。これは1号住居址の中央部に割れて出土した。口縁は直行し、頸部に突帯をめぐらす土器である。他は床面より若干浮いたものが多かった。

18~43は壺形土器の口縁部である。口縁部は直行ないし内反するものだけで外反はみられない、細い突帯が一本めぐらされ、ヘラ調整痕がみられる。全体的に茶褐色を呈し胎土は良い。また器面にもヘラ調整がみられる。

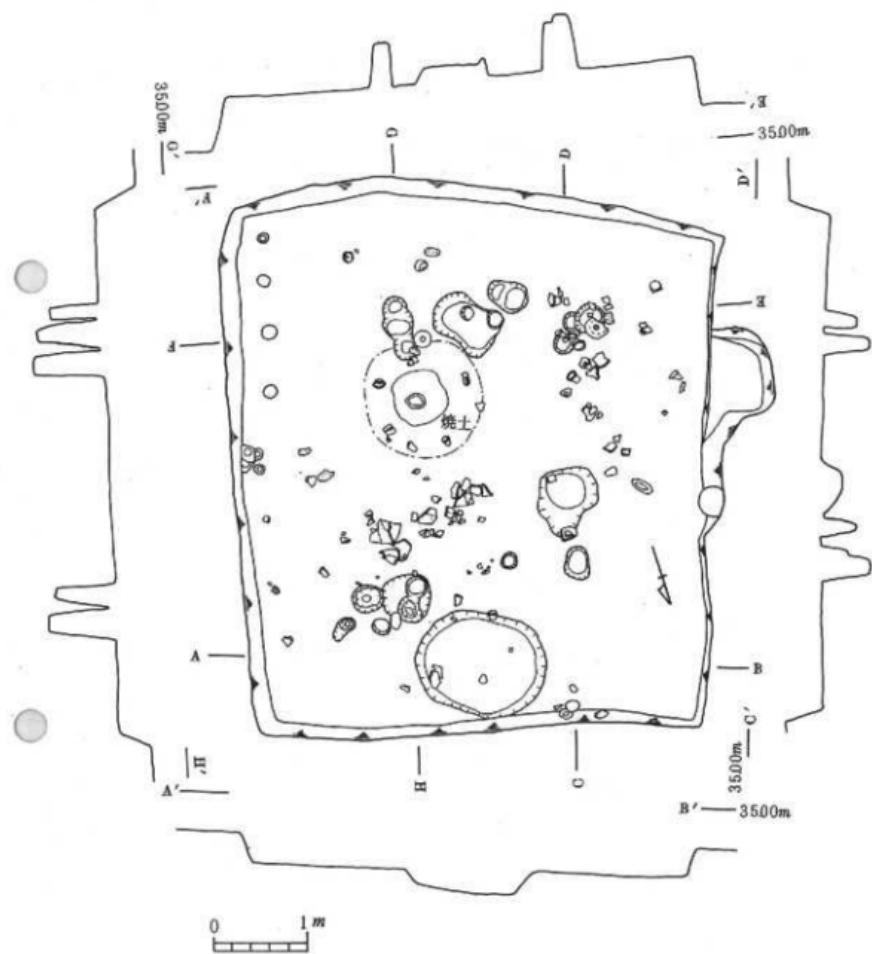
44~86は壺形土器の底部である。これらの底部はラッパ状につくられている。63~75は中央部に突起がみられる。また84~86はラッパ状底部の中を埋め込んでいる。これら壺形土器の底部は尖底・丸底状の器に脚台を付けてつくっているため中央部の突起があるものとないもののがみられるのであろう。胎土・焼成は良い。

87~117は壺形土器の口縁ないし頸部である。頸部に突帯をめぐらすものとめぐらさないものがある。突帯の文様はヘラ状の施文具のものや、竹管のものがある。頸部から口縁部にかけては直行し、口縁部ではやや外反するのが特徴である。

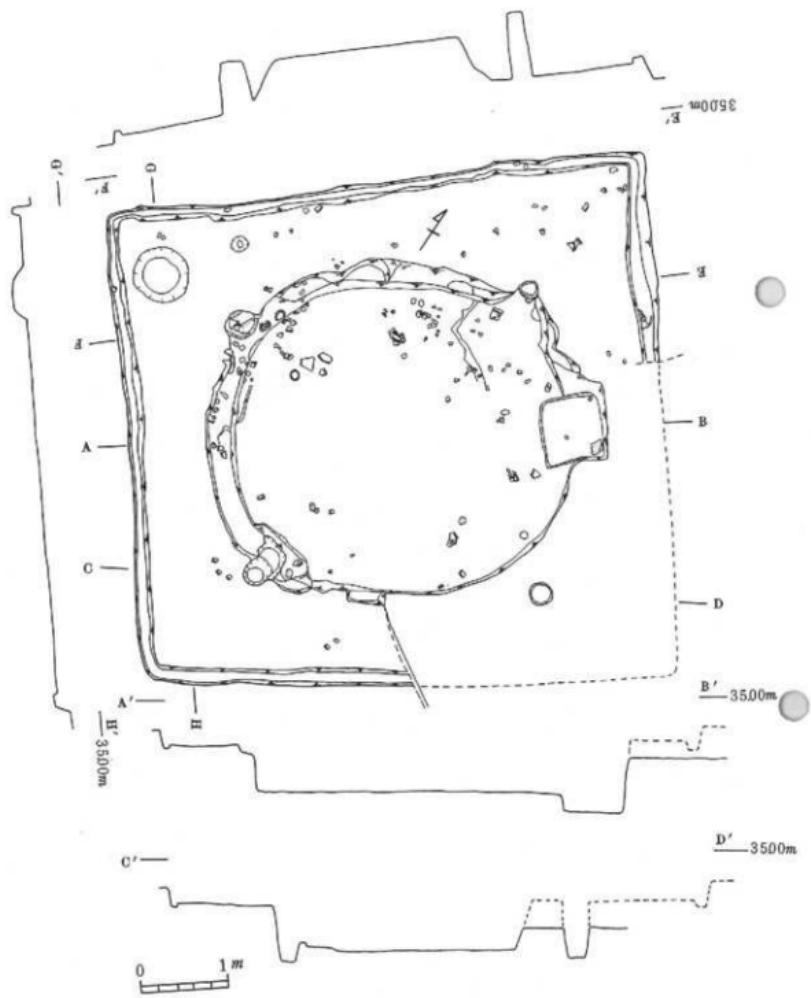
118~163は壺形土器の肩部である。広い突帯をめぐらし、その上にヘラで刻目を沈線状に



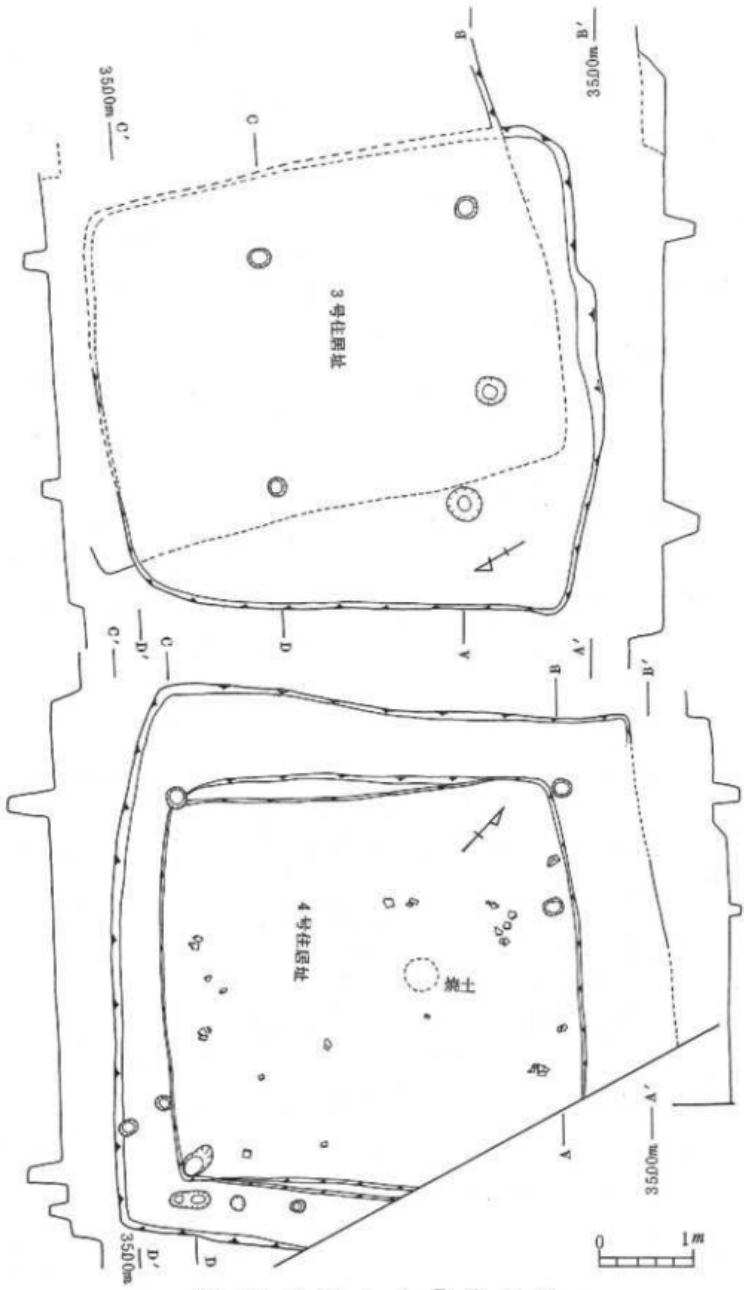
第11図 第2地点住居址全体図



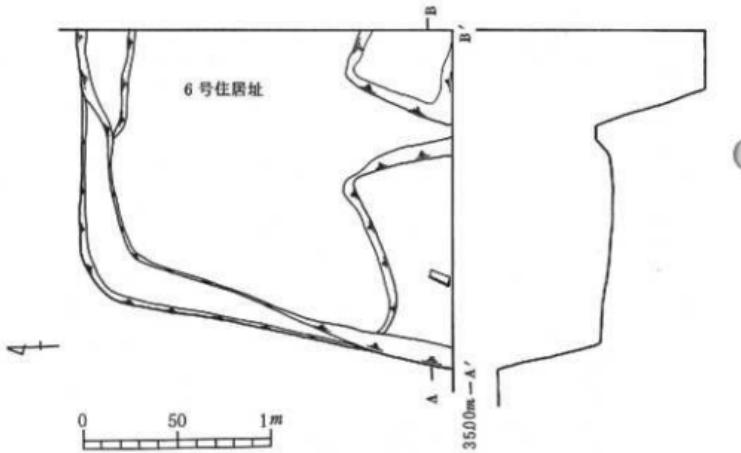
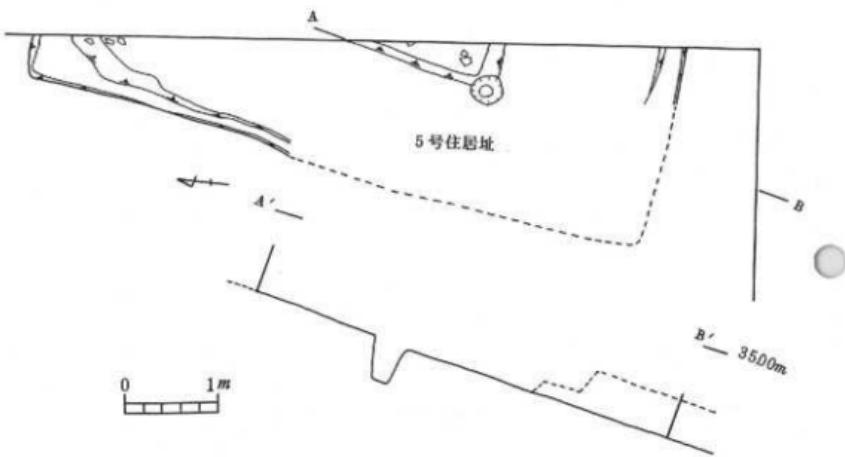
第12図 1号住居址



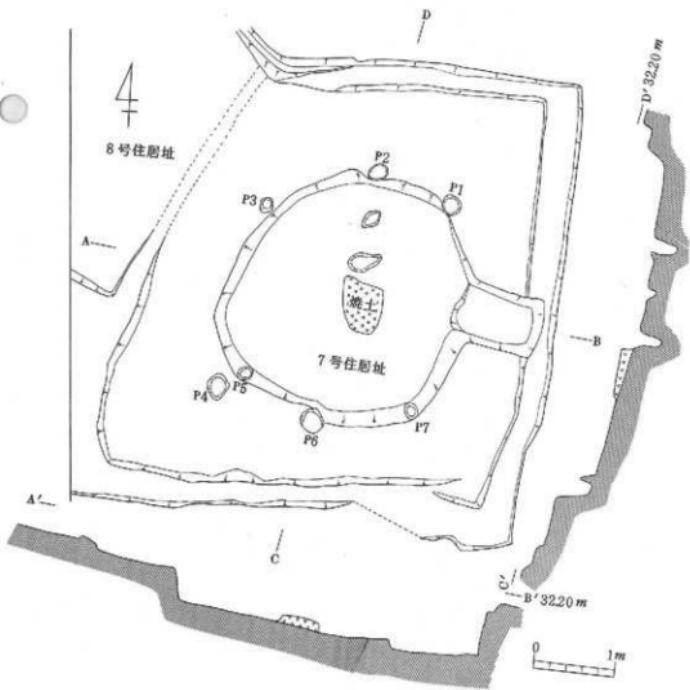
第13圖 2号住居址



第14回 3号・4号住居址



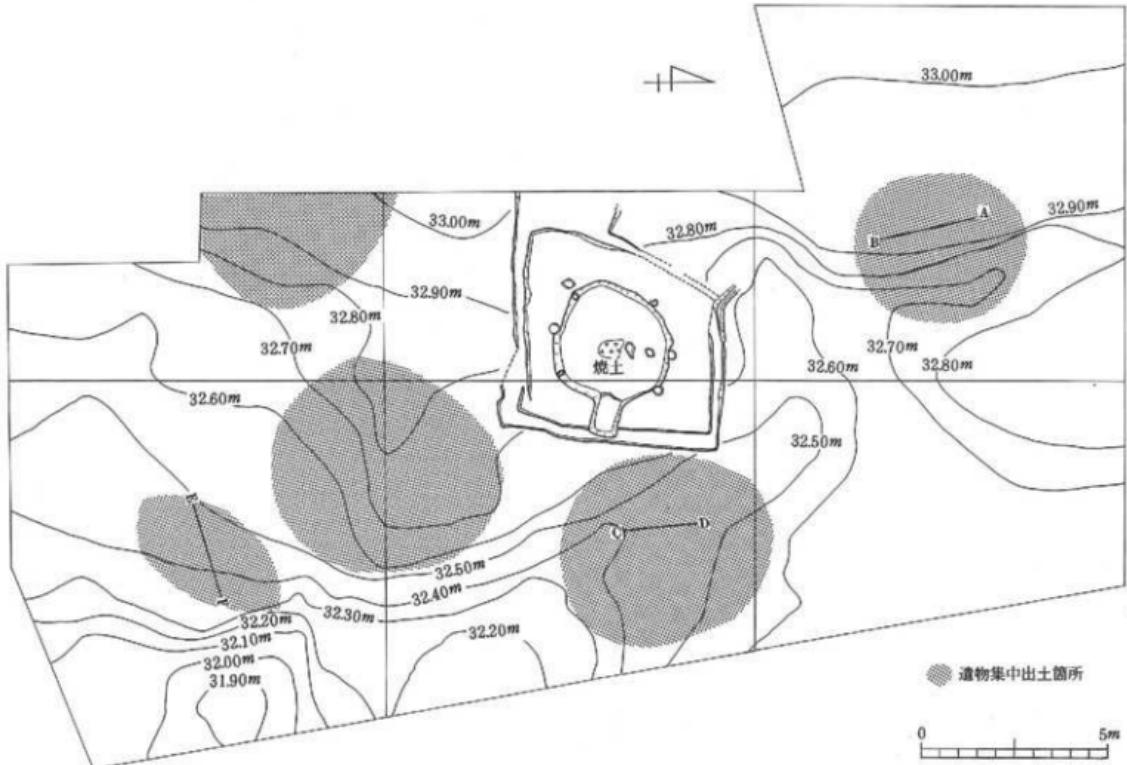
第15図 5号・6号住居址



第16図 7号・8号住居址

第17図 第5地点の遺物出土状況全体図

-36-



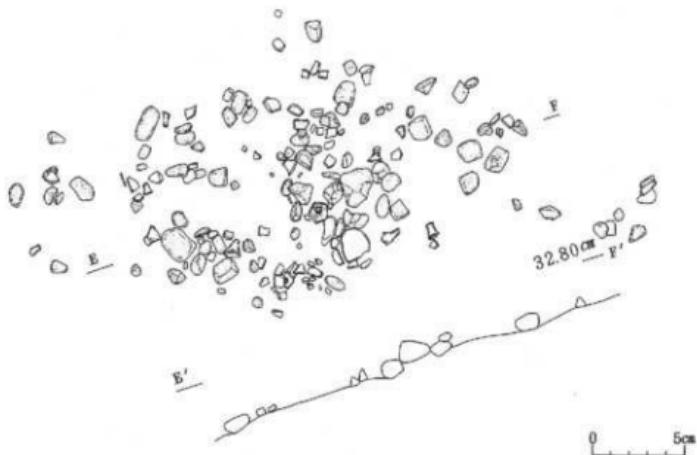


A' ————— B' 33.10 m



0 1m

第18図 第5地点の遺物出土状況図(1)(2)



第18図 第5地点の遺物出土状況図(3)

施すもの、ヘラに布をまいて沈線状に施すもの(布目痕がみられる)、竹管と沈線と組みあわすもの(竹管には丸と半円状のものがある。)、竹管だけのものがある。

広形突帯は主に肩部に多くみられる。

164~192は壺形土器の底部である。底部は尖底ぎみの丸底から丸底、平底に近い丸底がある。全体的に土器片は厚い。

193~212は鉢形土器ないし手づくね土器である。鉢形土器には平底のものと脚台付きのものがある。手づくね土器は小型の土器である。

213~226は壺形土器である。丹ぬりのものが多い。

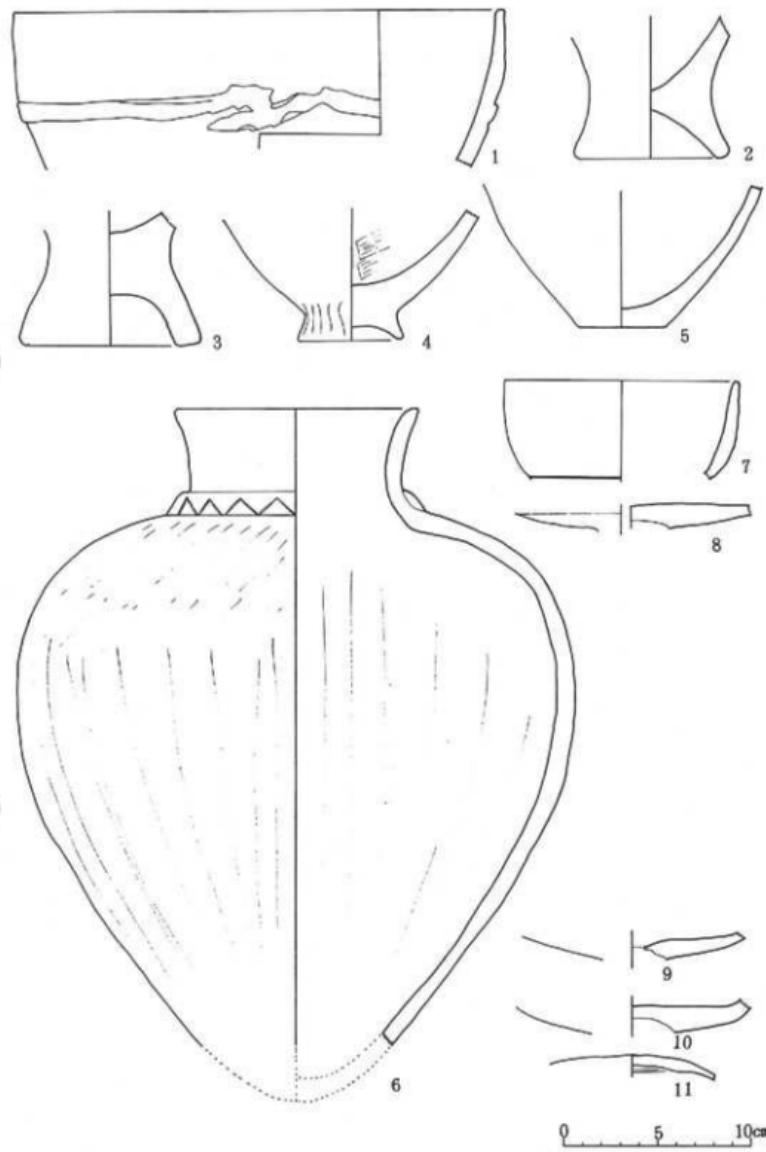
230は不明である。

231・232は土匙である。232はヘラで研磨調整している。

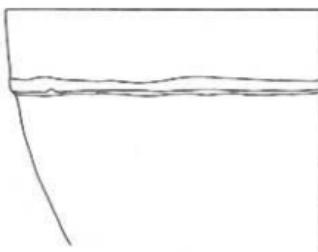
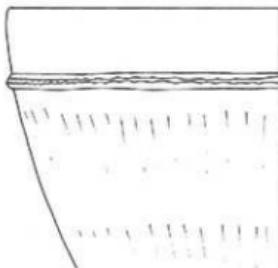
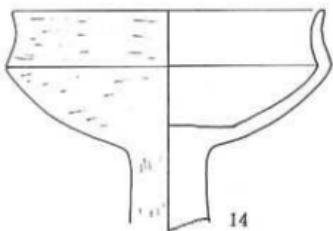
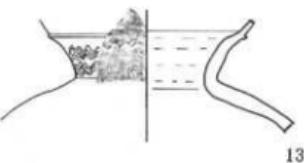
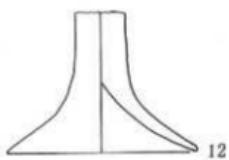
233~282は高坏である。丹ぬりのものが多い。内に横状突起をつけるものや、脚部にスカシを入れるものもある(277~282)。

283~299・318~319は須恵器の壺である。300~302・324~341は須恵器の蓋である。

303~307・342~371は須恵器の坏身である。311~315は須恵器の高坏である。313・314はスカシがある。316~371は須恵器の壺である。373~377は須恵器ににせている土着の土器で坏である。

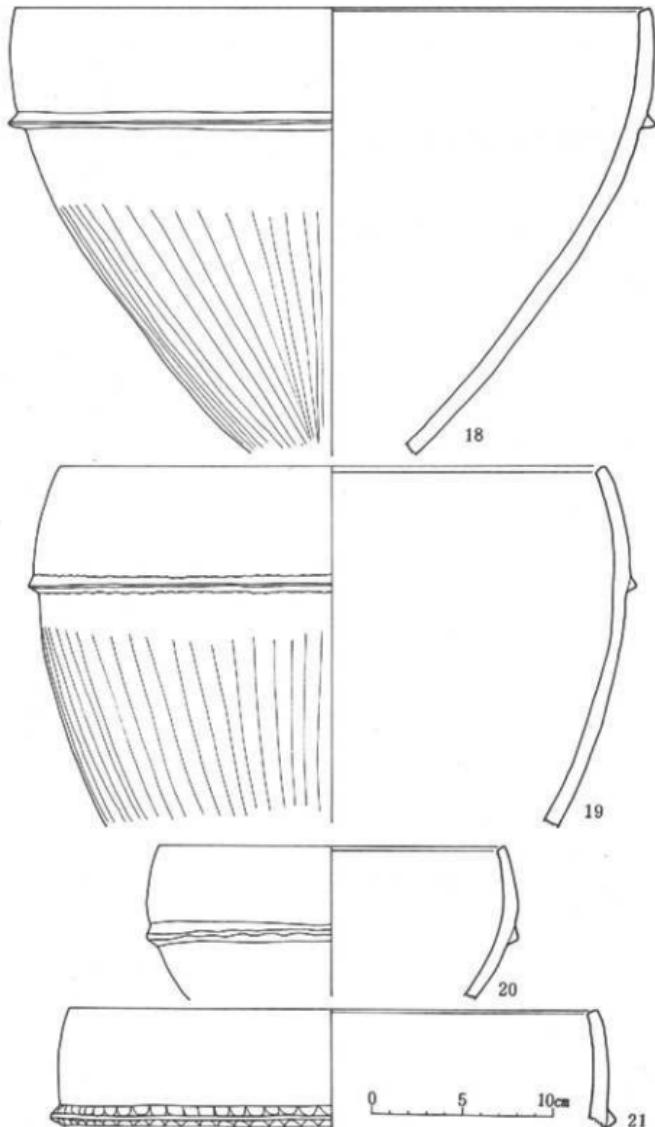


第19図 第2地点の遺物図(1)

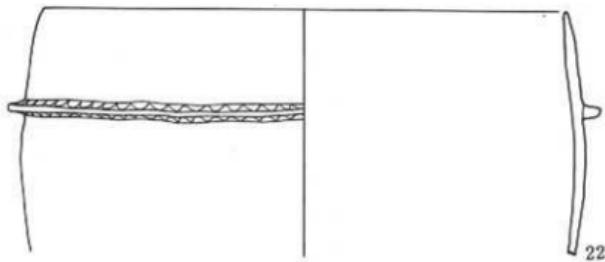


0 5 10cm

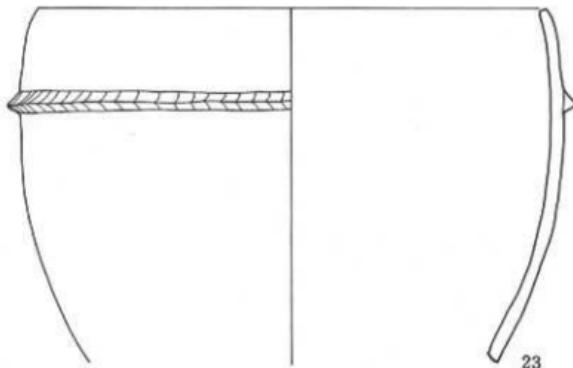
第20図 第2地点の遺物図(2)



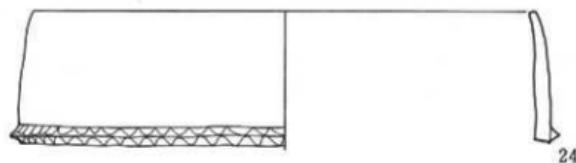
第21図 第5地点の遺物図(1)



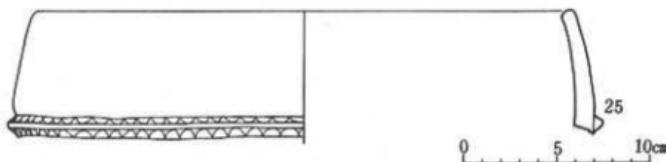
22



23

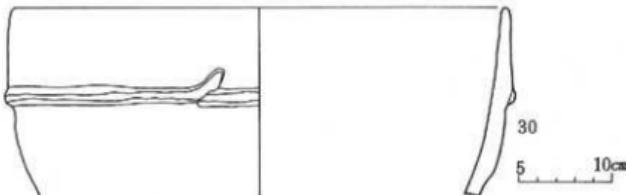
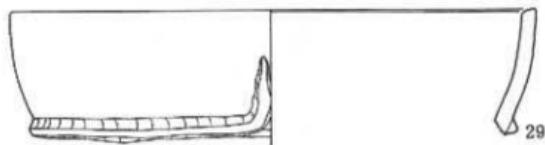
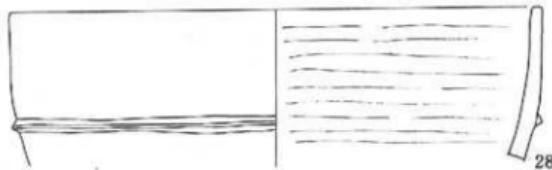
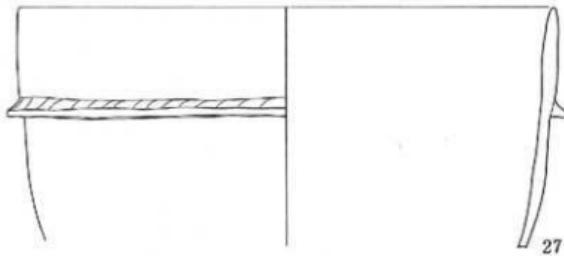
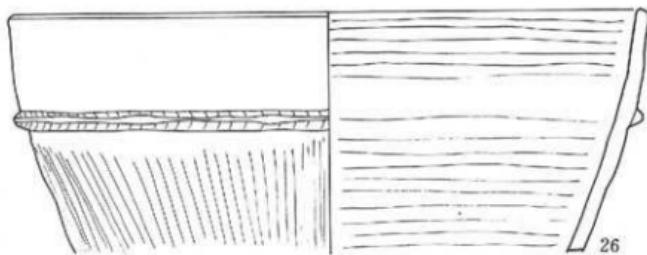


24

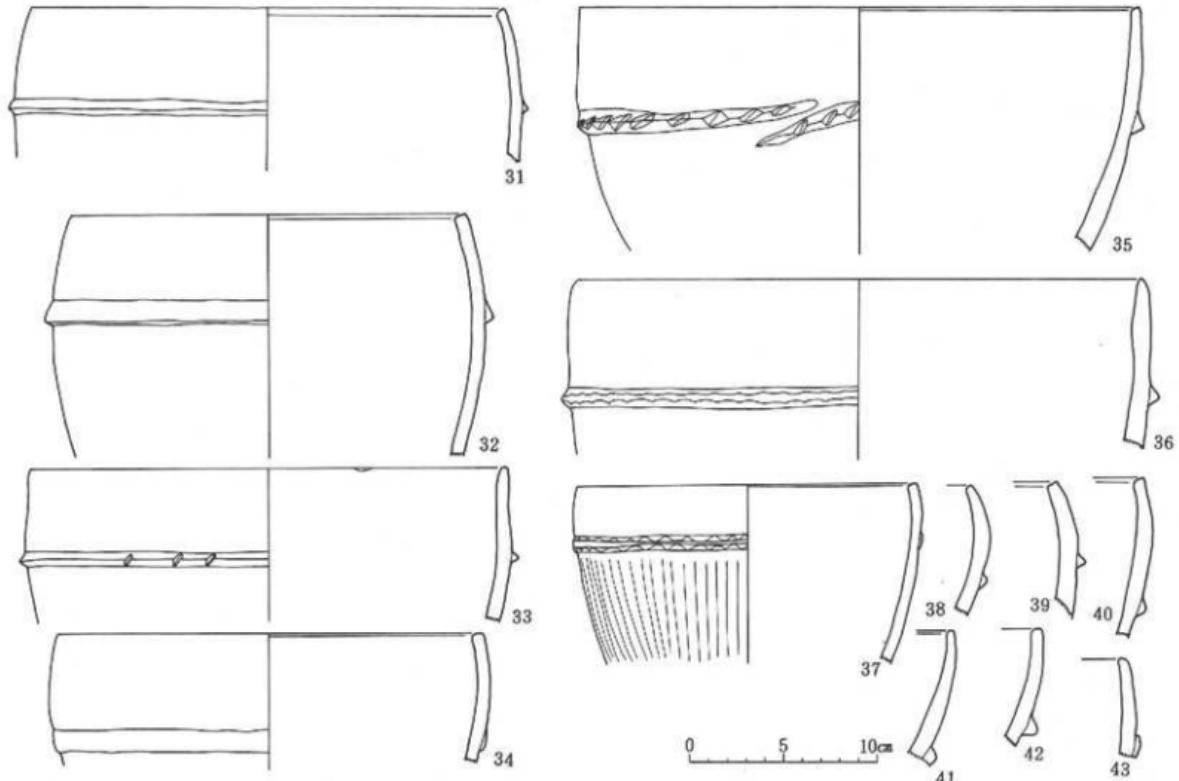


0 5 10cm

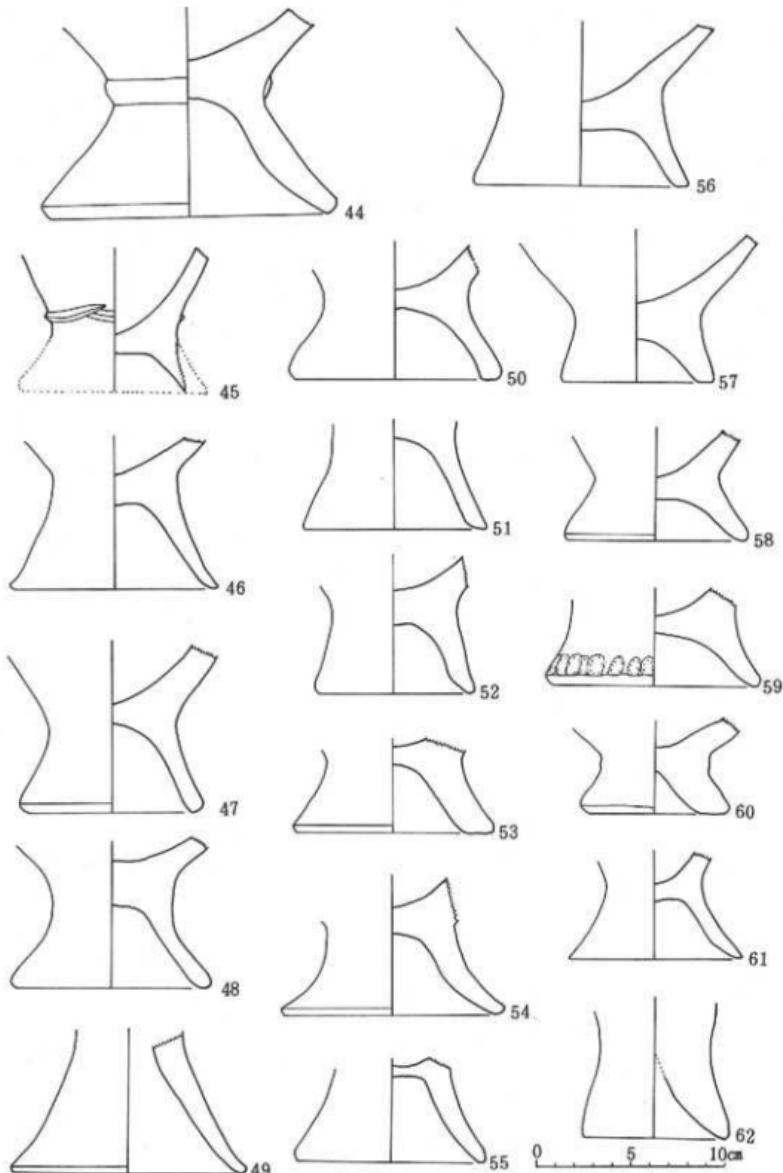
第22図 第5地点の遺物図(2)



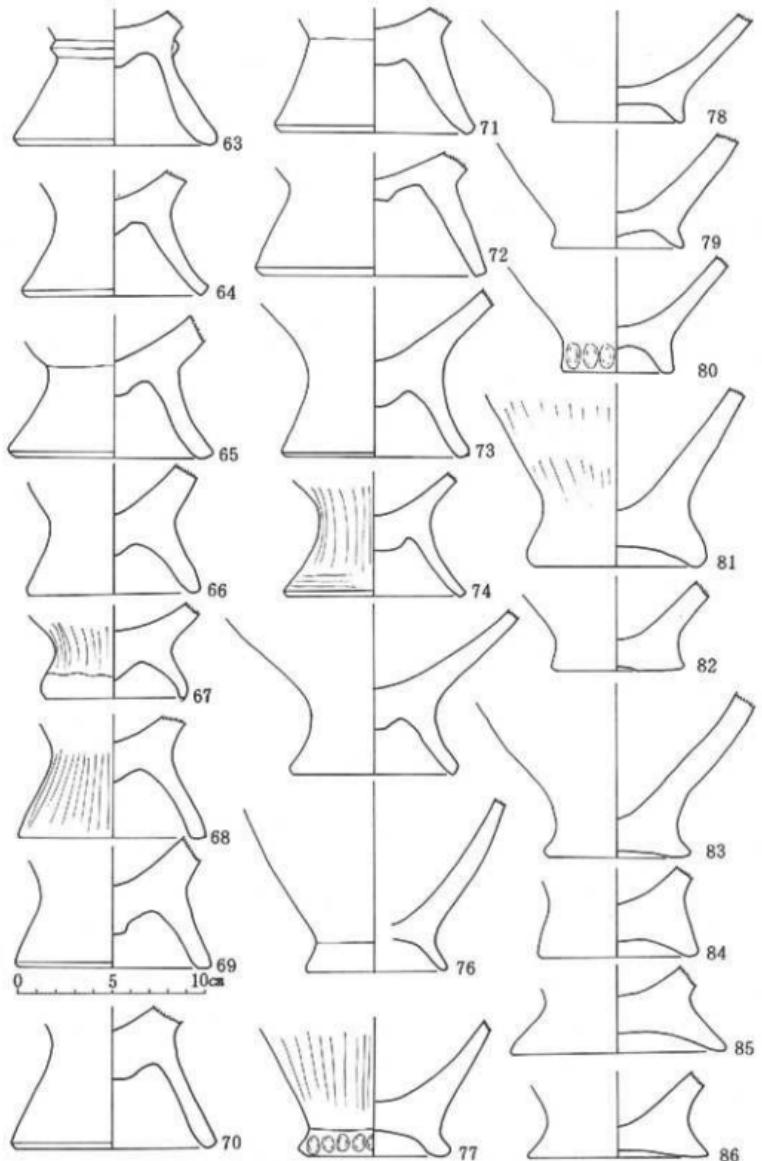
第23図 第5地點の遺物図(3)



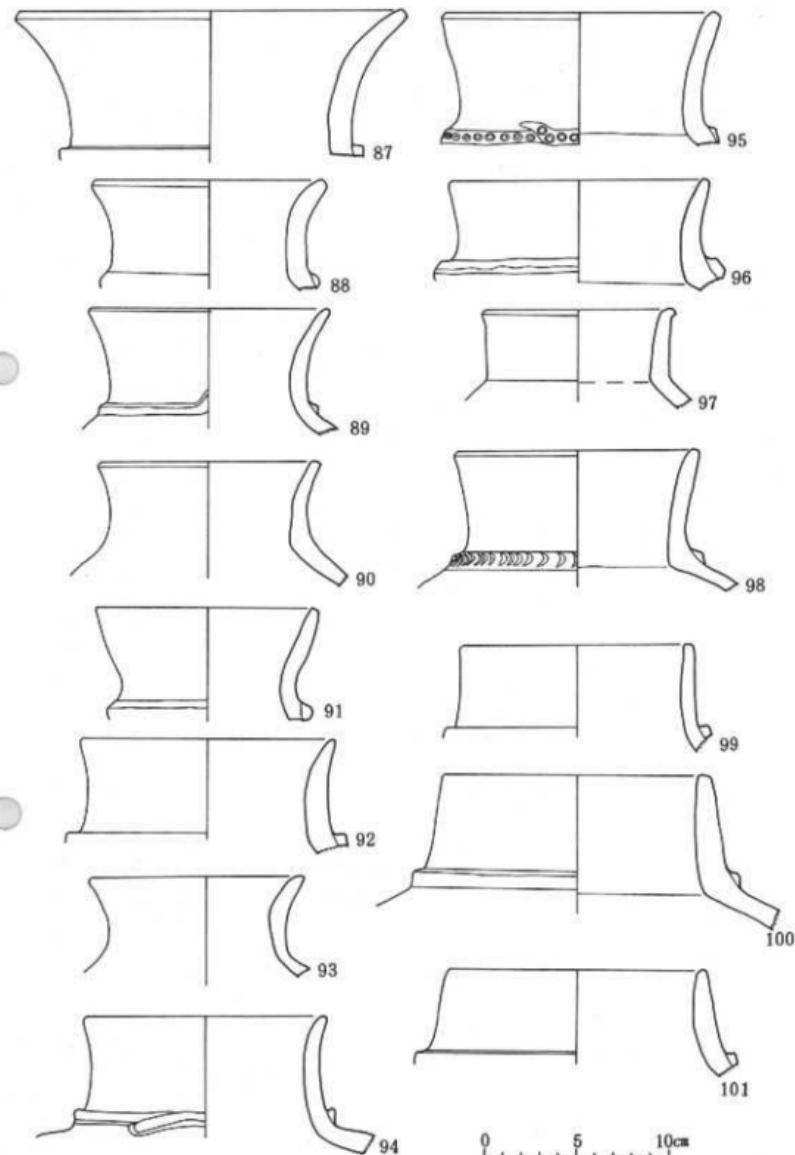
第24図 第5地點の遺物図(4)



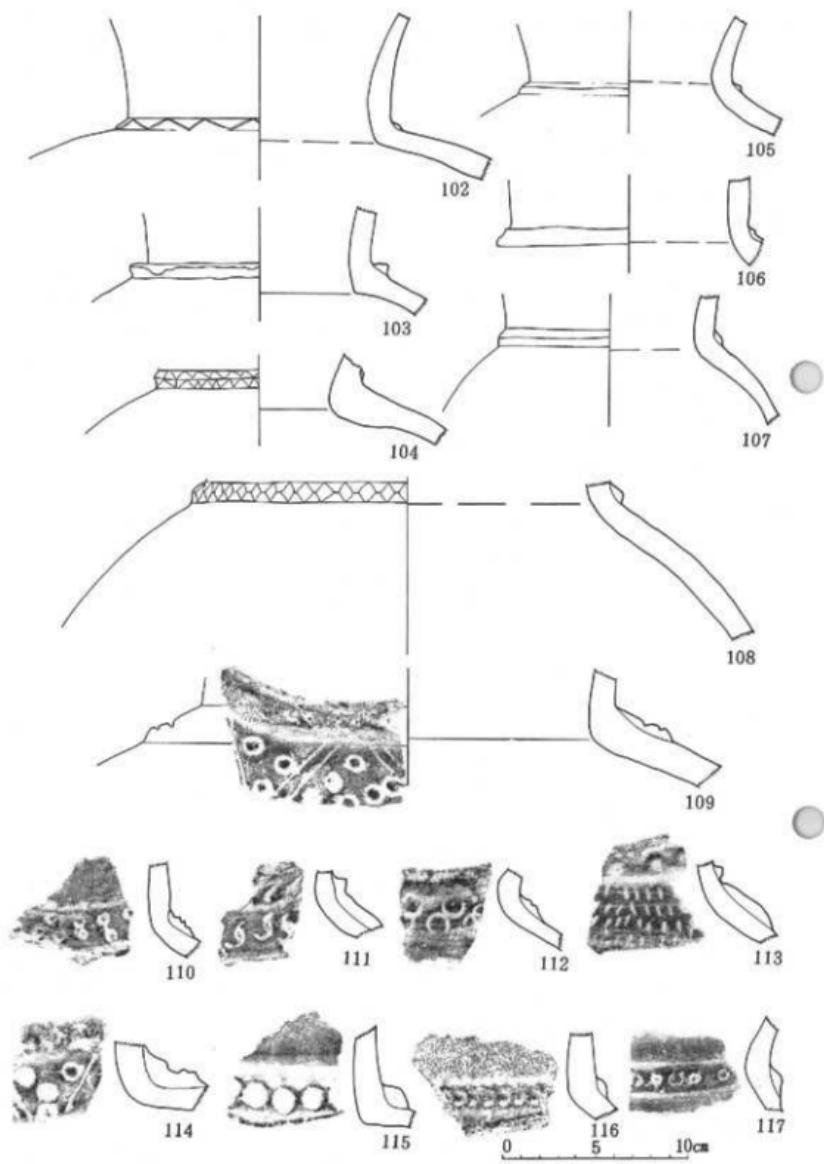
第25図 第5地點の遺物図(5)



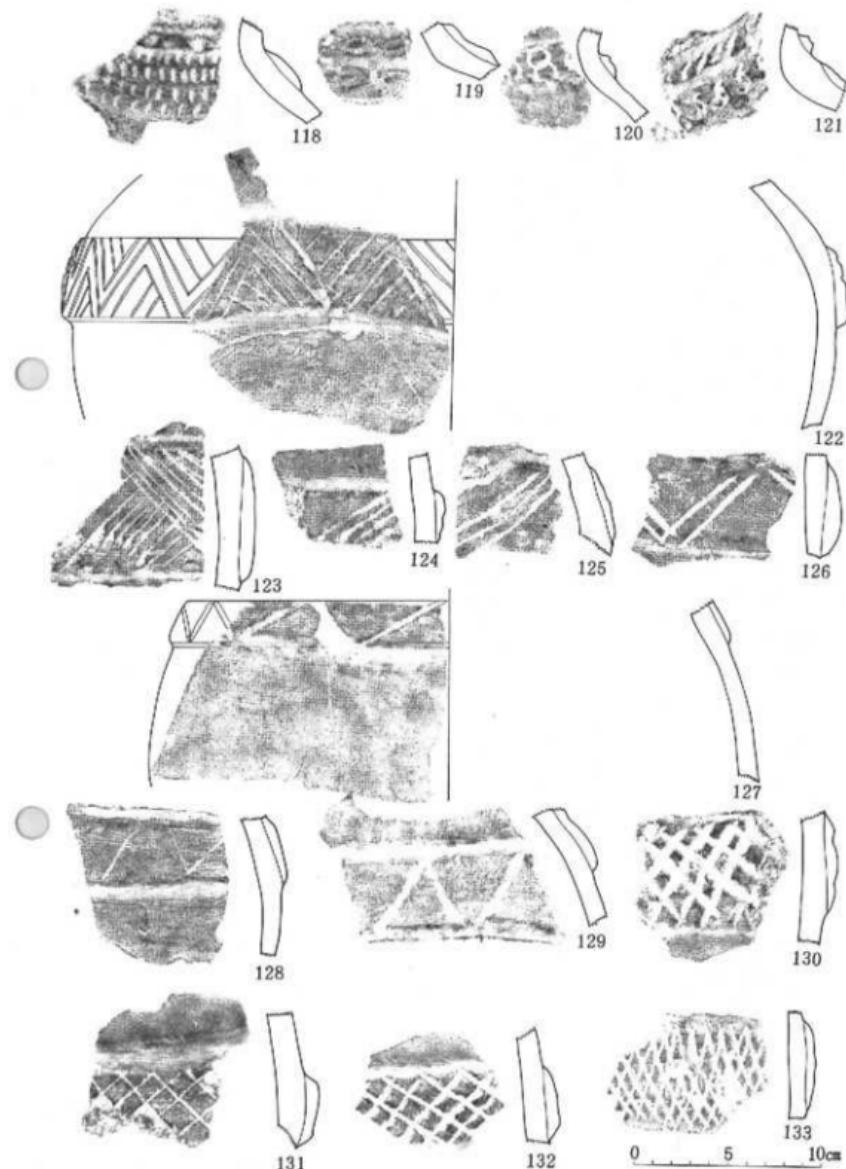
第26図 第5地点の遺物図 (6)



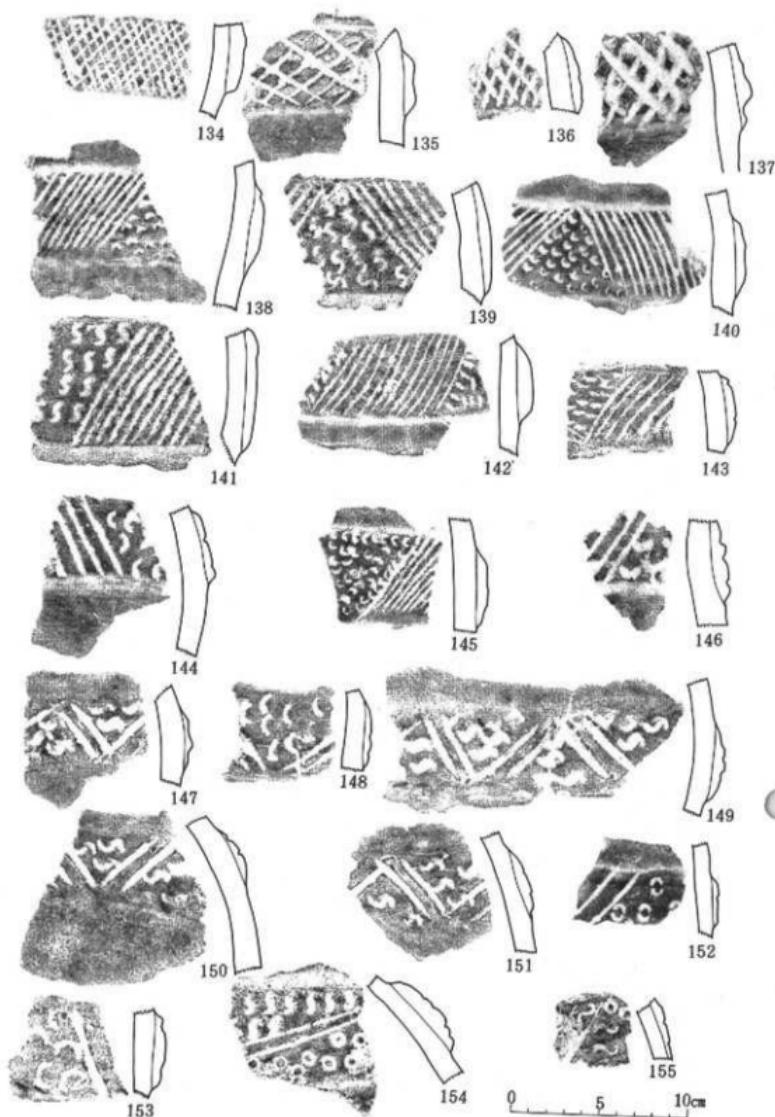
第27図 第5地点の遺物図 (7)



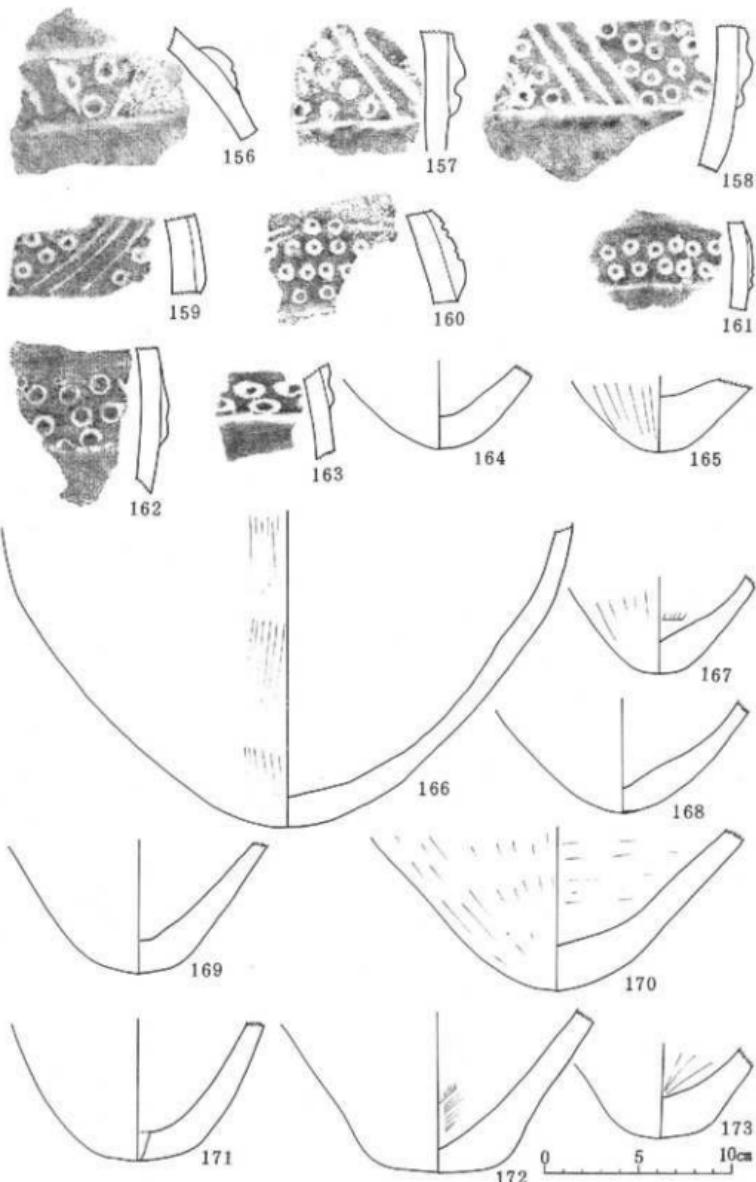
第28図 第5地点の遺物図 (8)



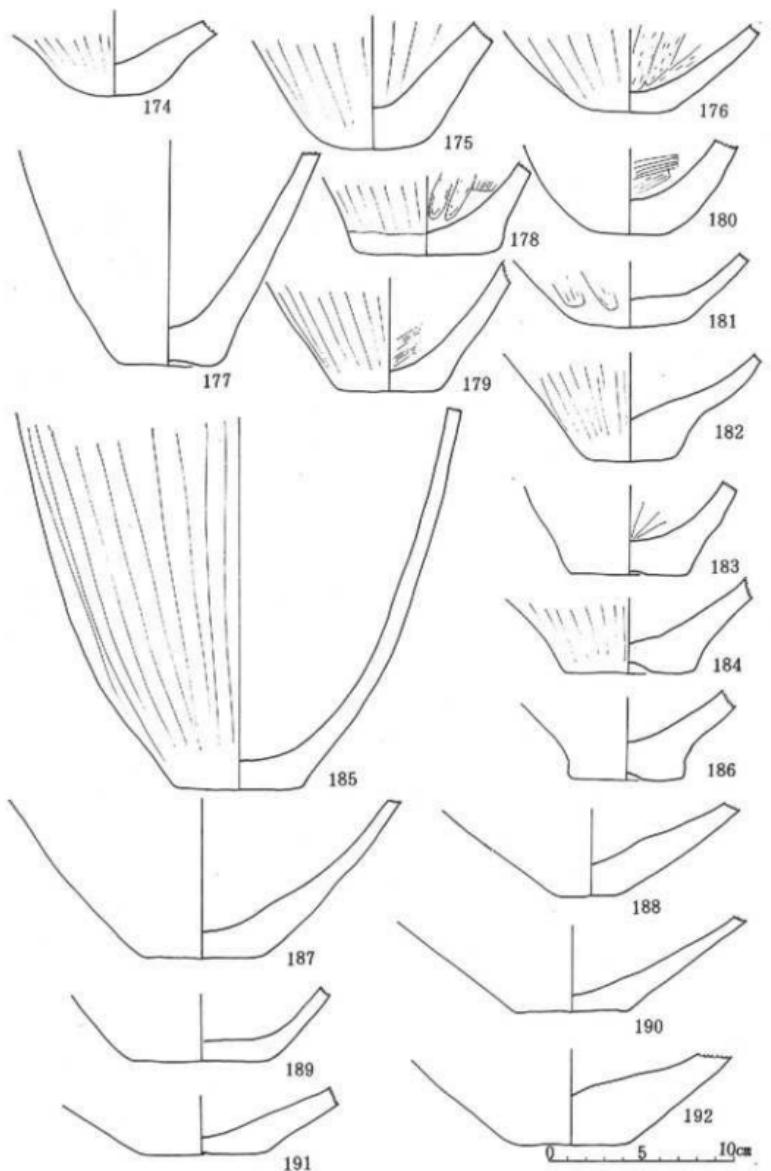
第29図 第5地点の遺物図(9)



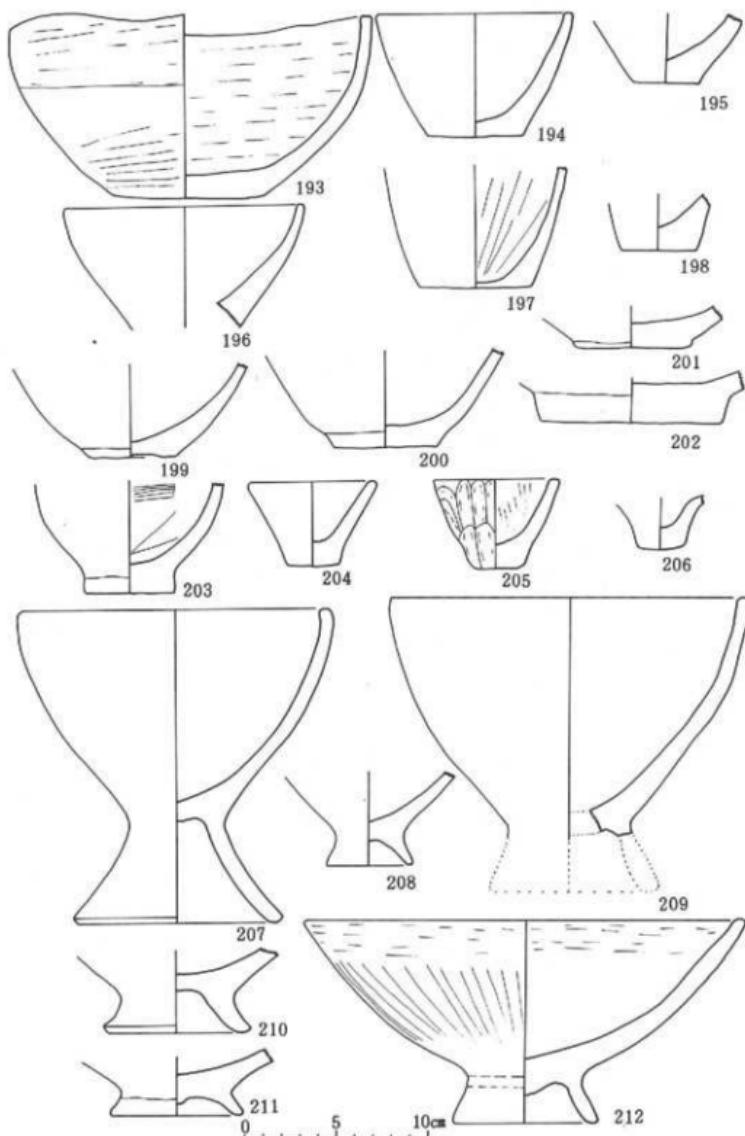
第30図 第5地點の遺物図 (10)



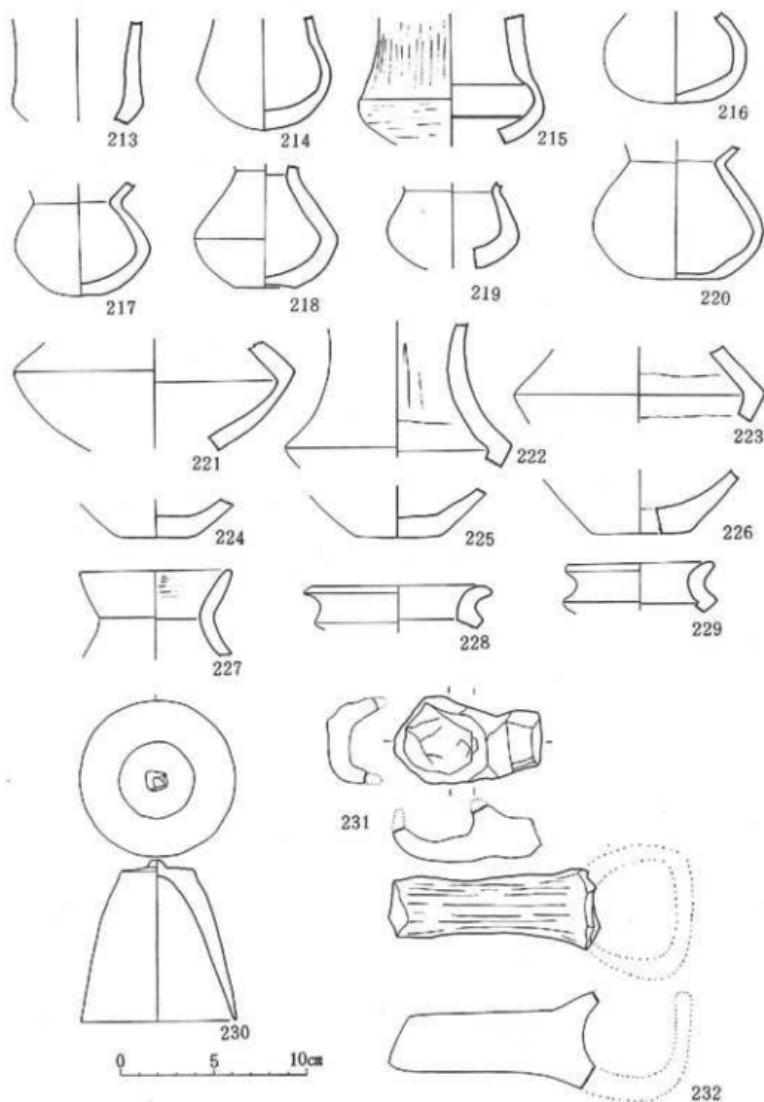
第31図 第5地点の遺物図(11)



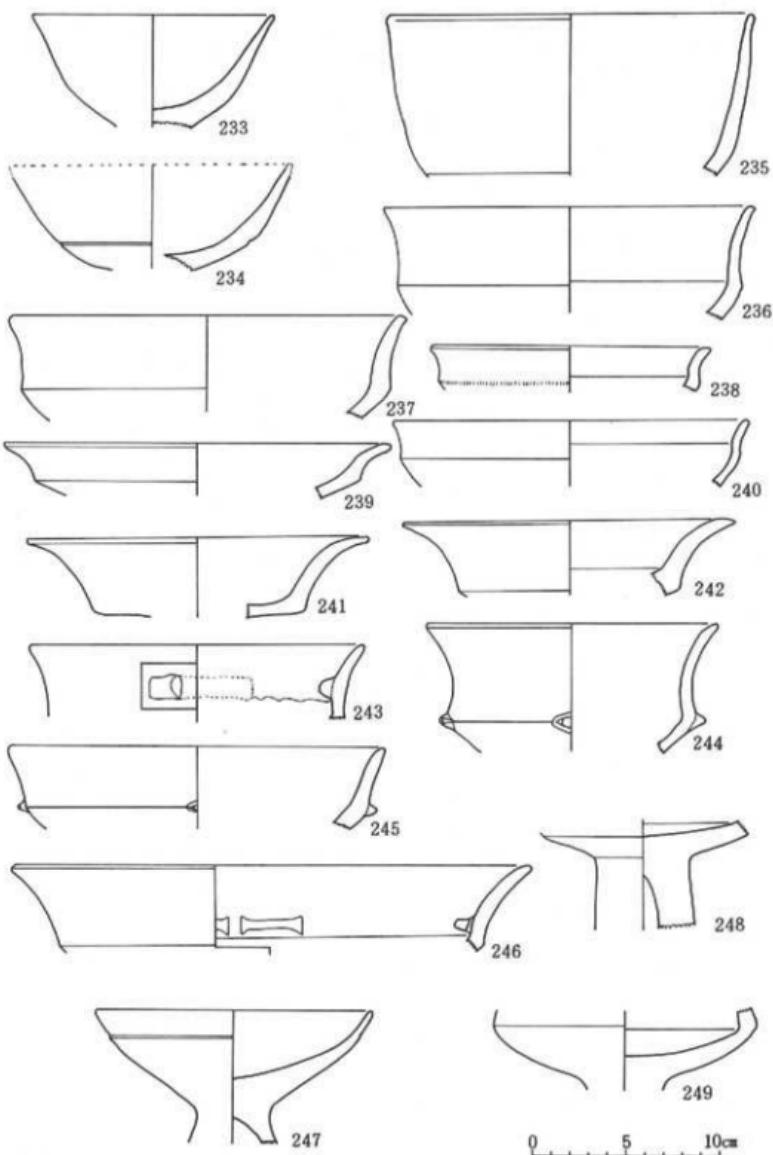
第32図 第5地点の遺物図 (12)



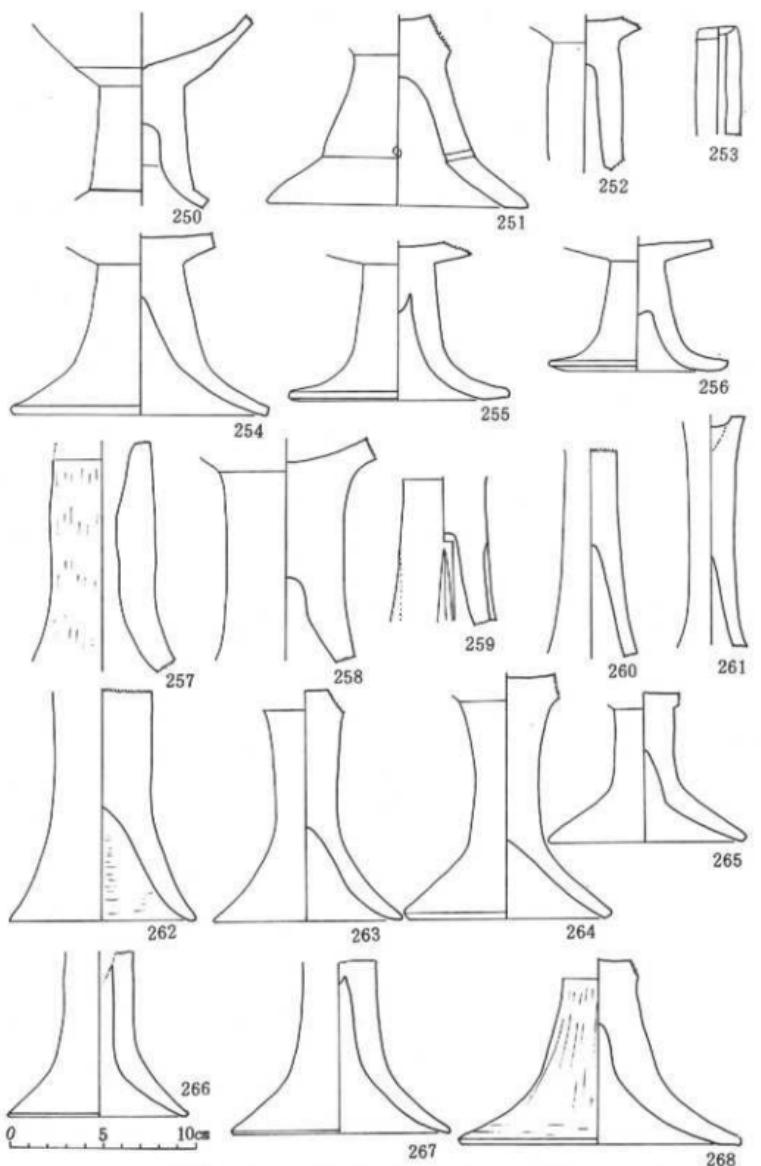
第33図 第5地点の遺物図 (13)



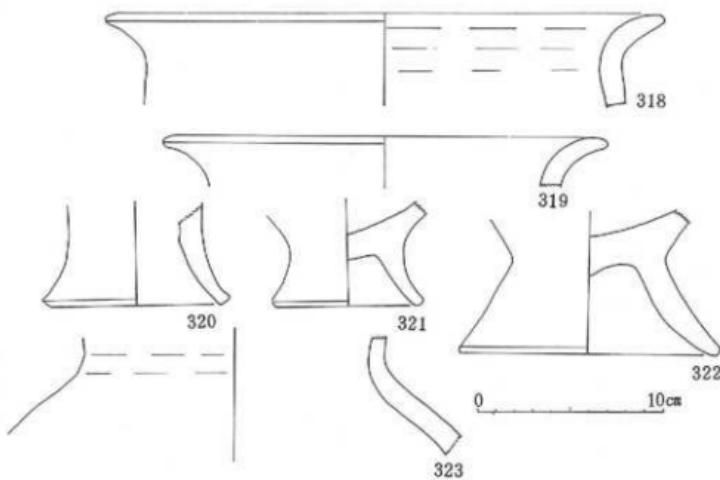
第34図 第5地點の遺物図 (14)



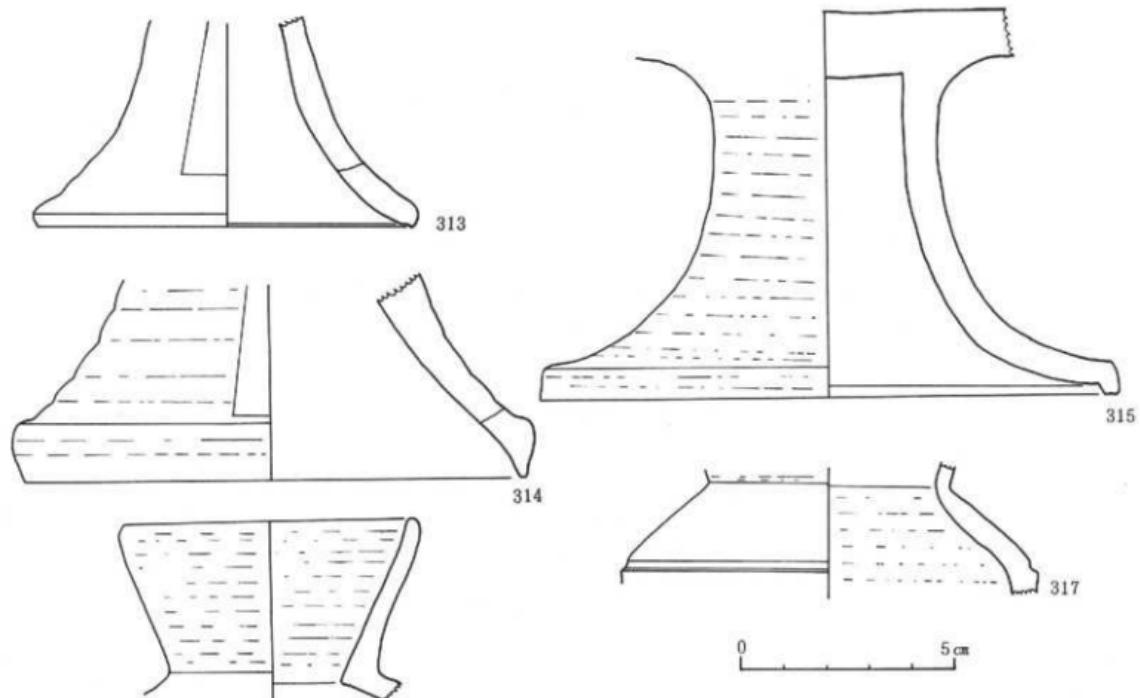
第35図 第5地点の遺物図 (15)



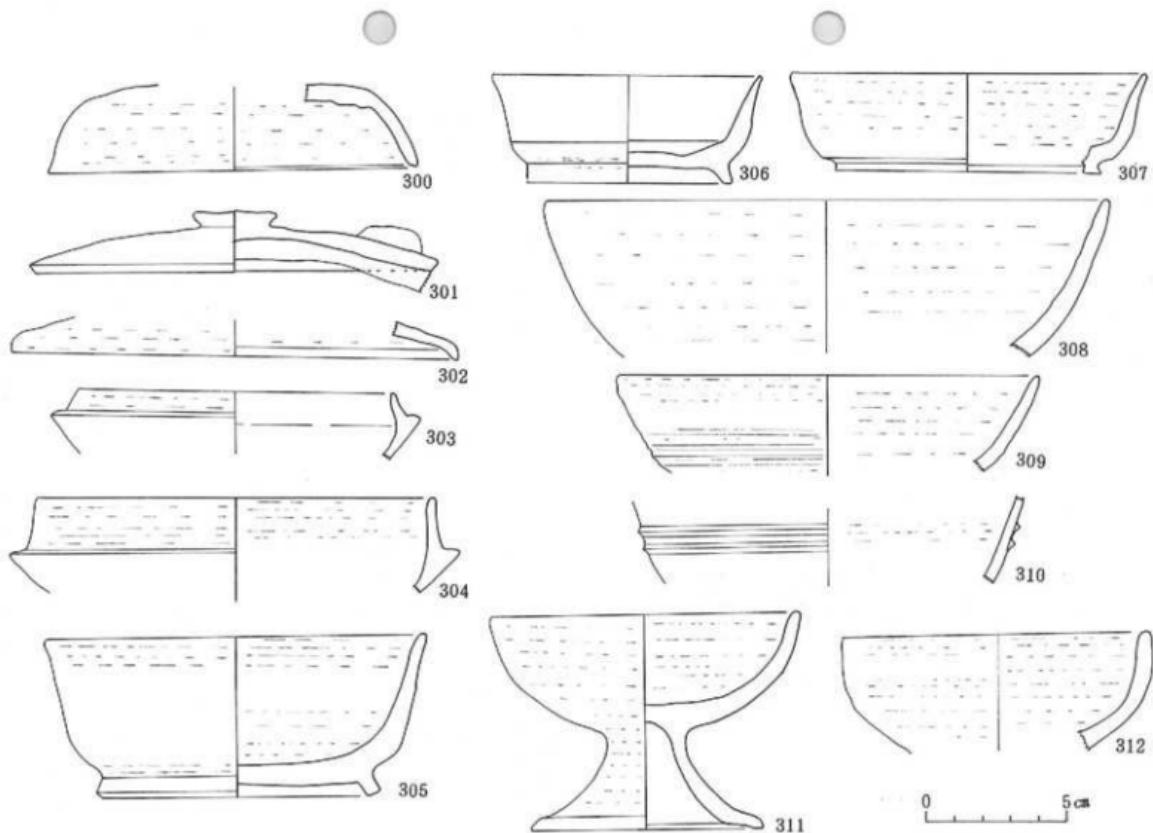
第36図 第5地点の遺物図 (16)



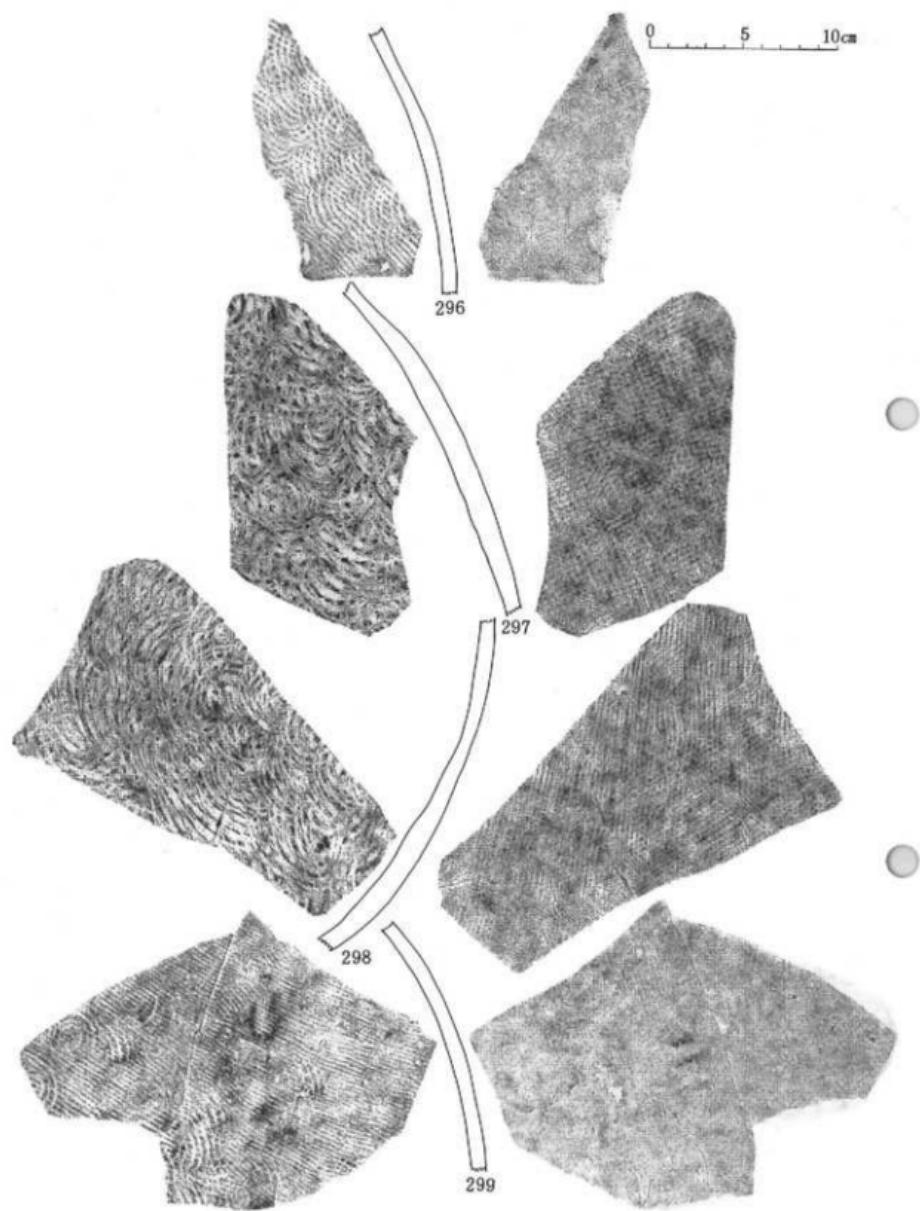
第46図 第8地点の遺物図(1)



第45図 第5地点の遺物図 (25)



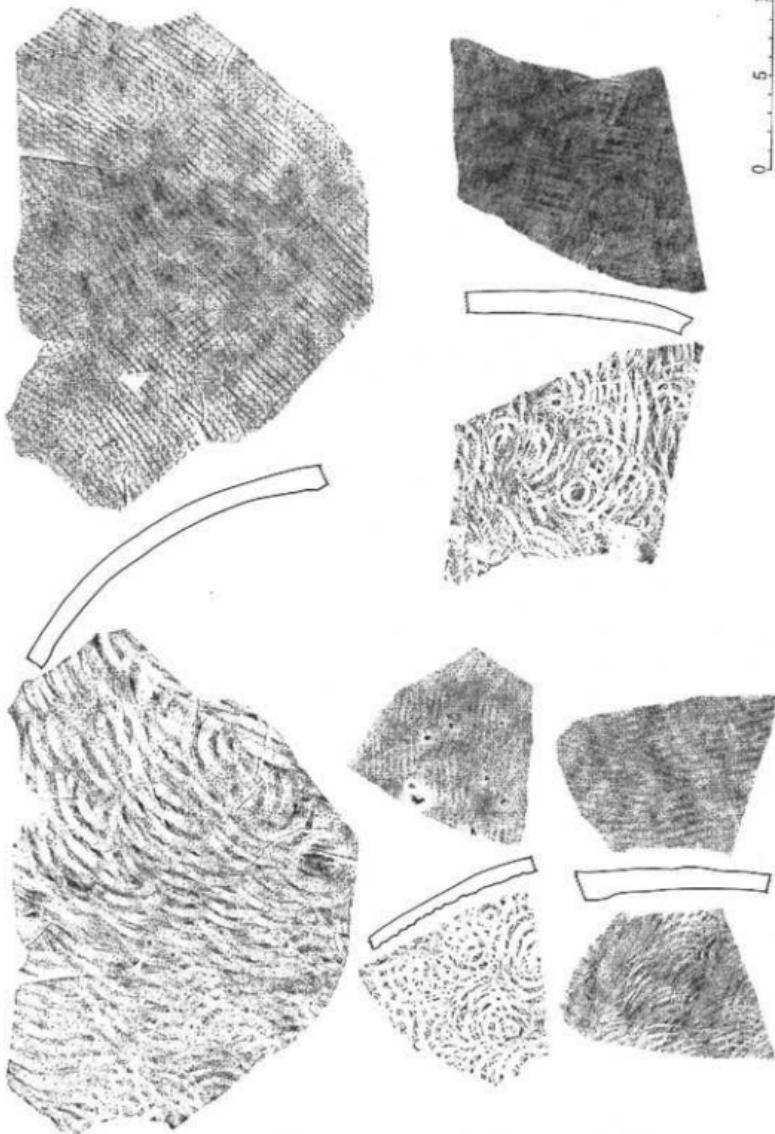
第44図 第5地点の遺物図 (24)

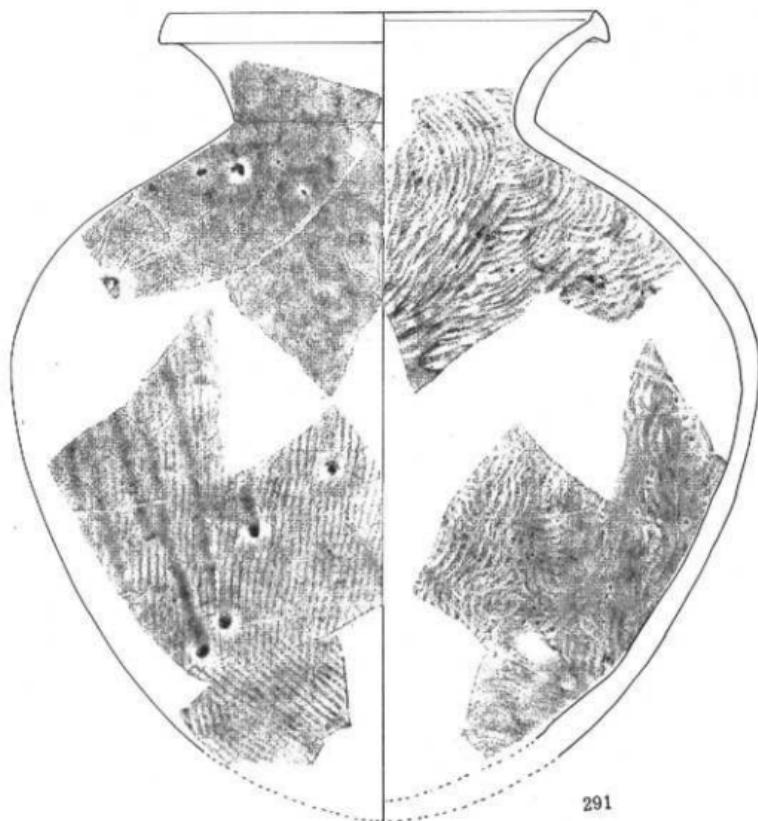
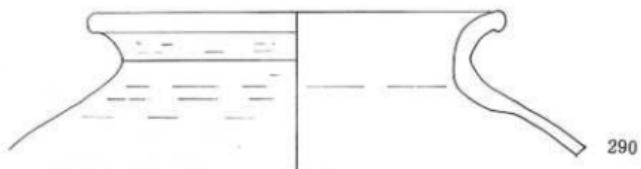


第43図 第5地点の遺物図 (23)

第42図 第5地点の遺物図(22)

0 5 10cm



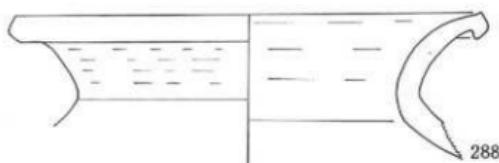


0 5 10cm

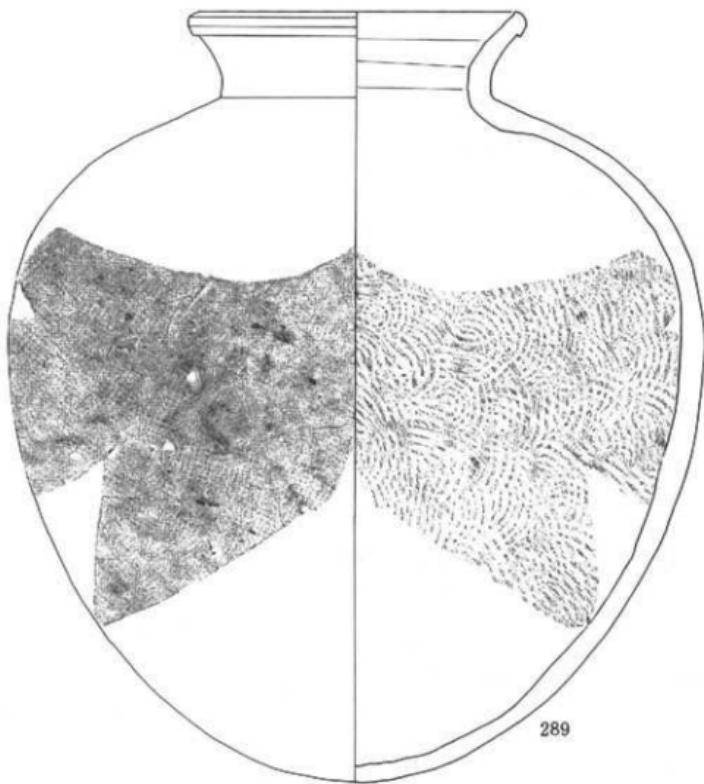
第41図 第5地点の遺物図 (21)



287

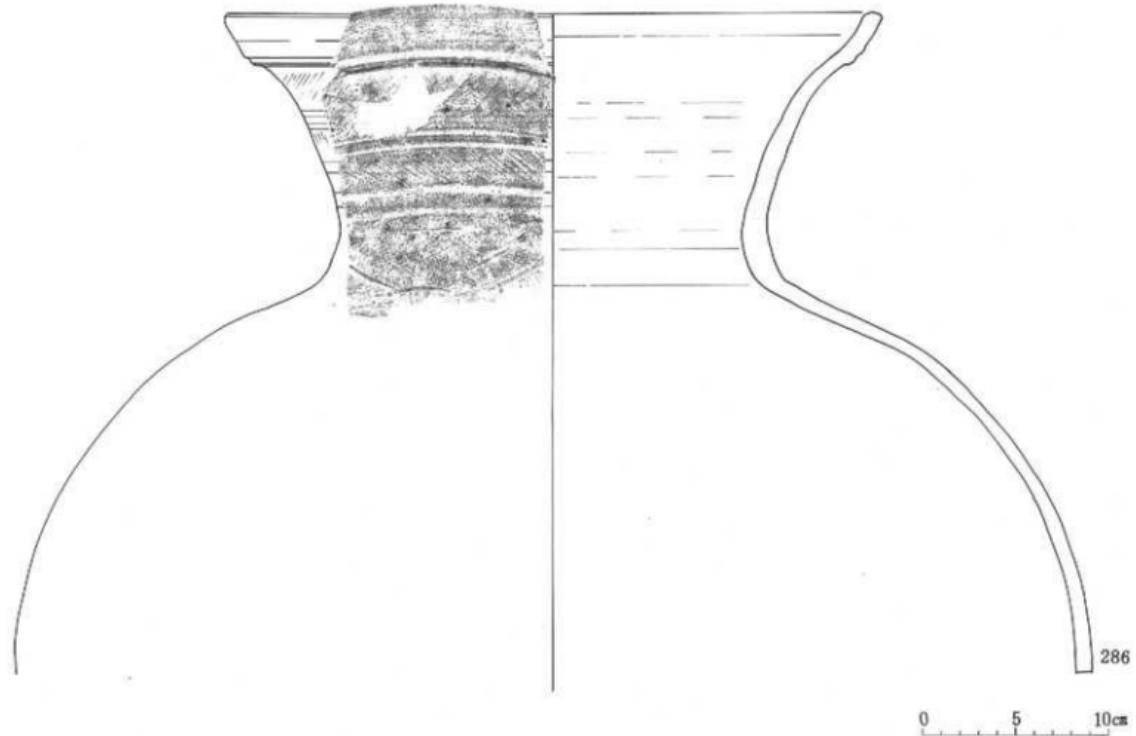


288

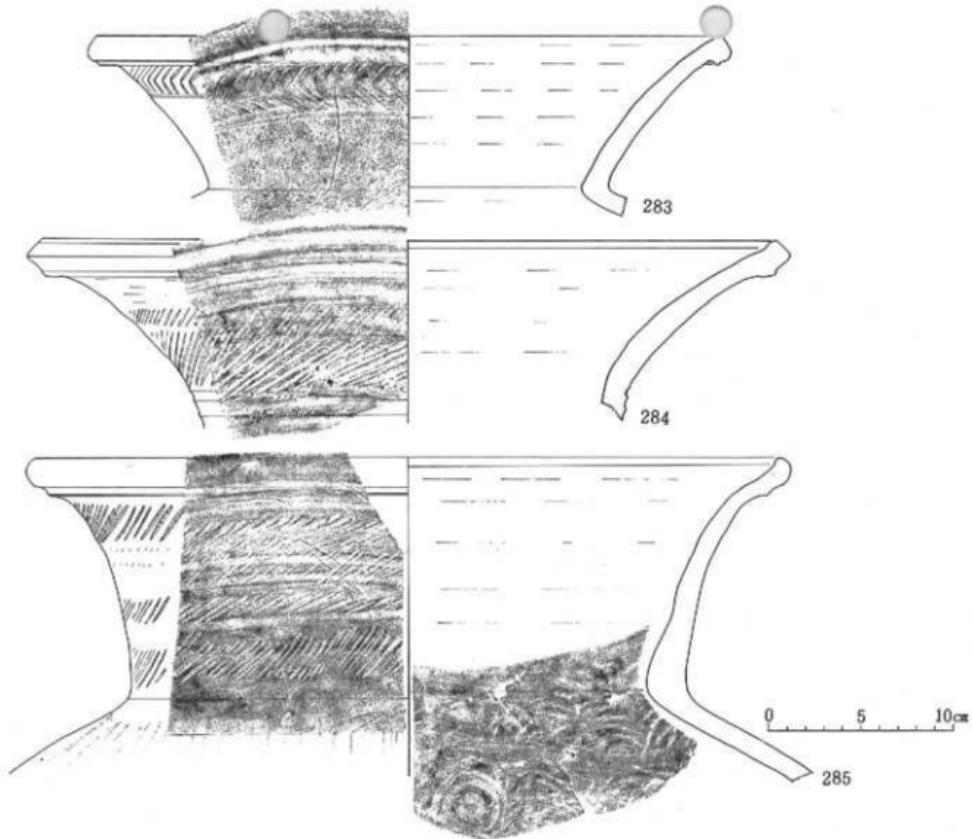


289

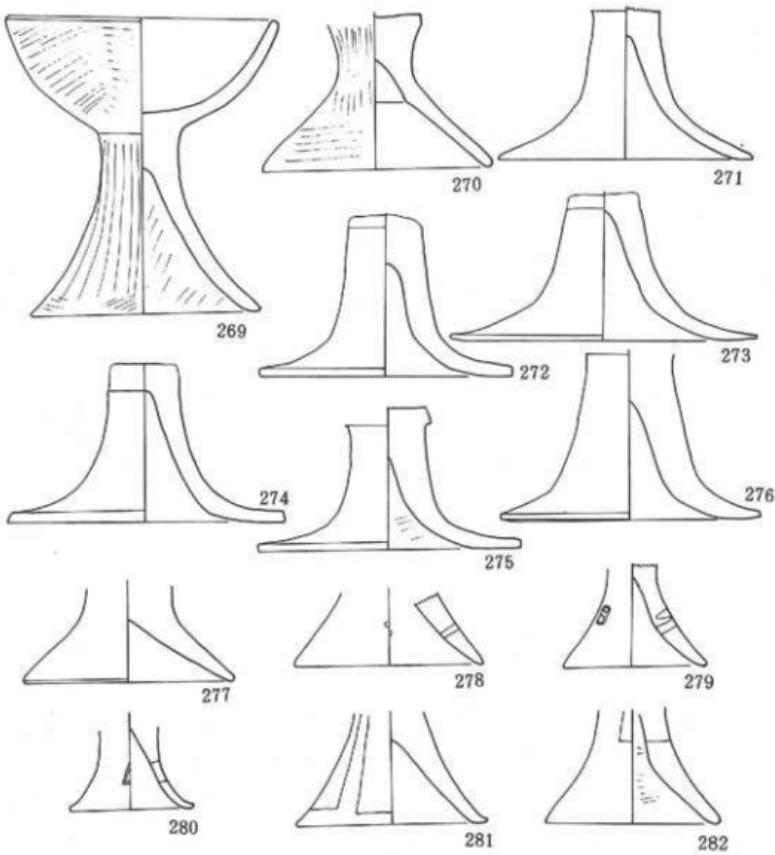
第40図 第5地点の遺物図 (20)



第39図 第5地点の遺物図 (19)

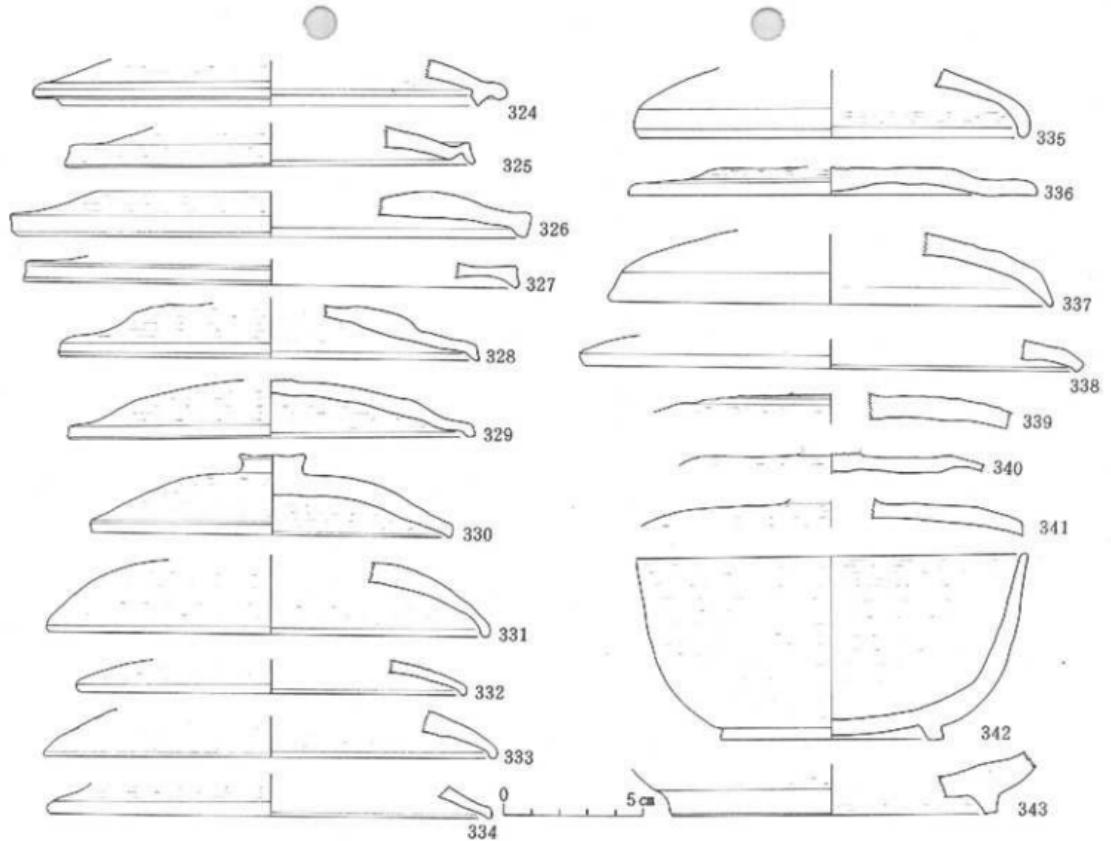


第38図 第5地点の遺物図 (18)

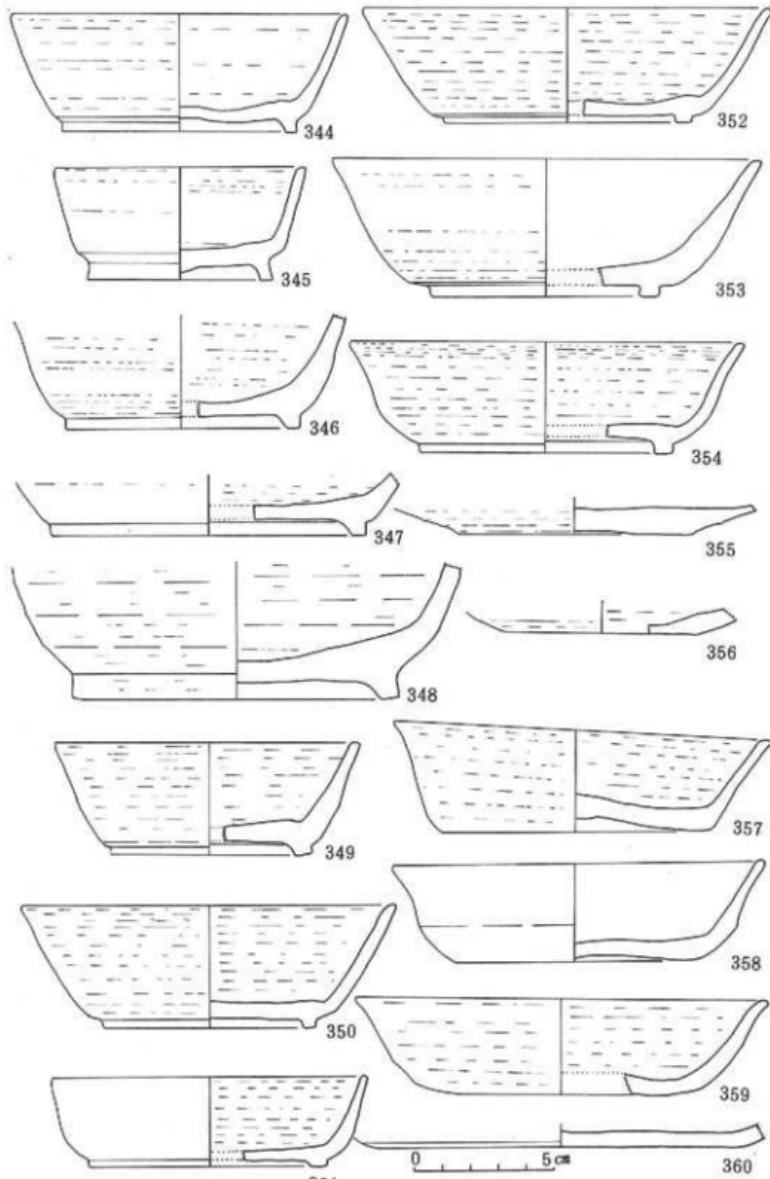


0 5 10cm

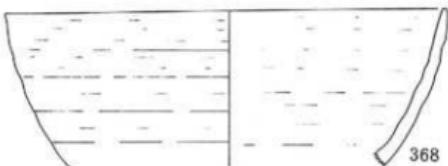
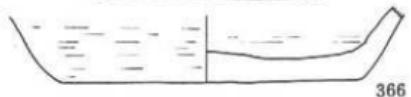
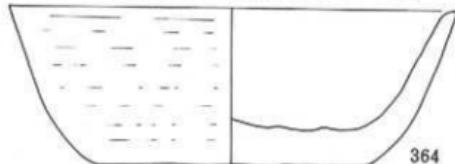
第37図 第5地点の遺物図 (17)



第47図 第8地点の遺物図(2)

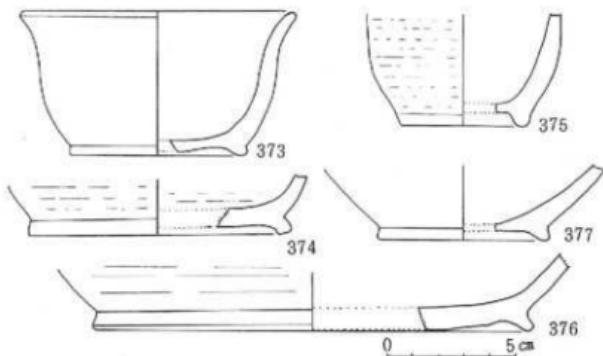


第48図 第8地点の遺物図(3)



0 5 cm

第49図 第8地点の遺物図(4)



第50図 第8地点の遺物図(5)

第3表 土器遺物表

番号	出土番号	地点	部	位	特	徴	番号	出土番号	地点	部	位	特	徴
1	1448	2	甕	口	縁	H-1	22	381	5	甕		9-D	
	1437						23		5	甕		10-E	
2	1399	2	甕	底	部	H-1	24		5	甕		9-D	
3	1413	2	甕	底	部	H-1	25		5	甕		9-E	
4	1463	2	鉢	底	部	H-1	26	912	5	甕		10-E	
5	1438	2	壺	底	部	H-1	27		5	甕		9-D	
6			壺	完	形	H-1	28		5	甕		9-D	
7	1548	2	高坏	坏	部	H-1	29	1913	5	甕	口	縁	9-D
8	1440	2	高坏	坏	部	H-1	30	195	5	甕	口	縁	9-E
9	1428	2	高坏	坏	部	H-1	31	899	5	甕	口	縁	9-D
10	1441	2	高坏	坏	部	H-1	32	189	5	甕	口	縁	10-D
11		2	須恵器	蓋	H-1		33		5	甕	口	縁	9-D
12	1528	2	高坏	脚	部	H-2	34		5	甕	口	縁	9-D
13		2	須恵器	底	H-2		35	1350	5	甕		10-E	
14	1563	2	高坏	坏	部	H-3	36	794	5	甕	口	縁	10-D
15	1593	2	高坏	坏	部	H-3	37	3248	5	甕		9-D	
16	1492	2	甕			H-2	38		5	甕	口	縁	9-D
17	1643	2	甕			H-3	39		5	甕	口	縁	9-D
18	918	5	甕			10-E	40	3361	5	甕	口	縁	9-E
19		5	甕				41		5	甕	口	縁	9-F
20	1356	5	甕			10-E	42	2424	5	甕	口	縁	9-D
21	1913	5	甕			9-E							

番号	出土番号	地点	部	位	特	微	番号	出土番号	地点	部	位	特	微
43	2 4 9 1	5	壺	口 緑	9-D		77	1 7 8 8	5	壺	底 部	9-F	
44	1 8 1 5	5	壺	底 部	9-F		78	7 8 0	5	壺	底 部	10-D	
45	3 1 5	5	壺	底 部	9-D		79	2 4 7 3	5	壺	底 部	9-D	
46	4 5 8	5	壺	底 部	9-D		80	2 3 8 2	5	壺	底 部	9-D	
47	1 2 7 2	5	壺	底 部	10-E		81		5	壺	底 部	9-D	
48	3 1 6	5	壺	底 部	9-D		82	2 3 2 4	5	壺	底 部	9-D	
49	6 8 1	5	壺	底 部	10-D		83	2 7 2	5	壺	底 部	9-D	
50		5	壺	底 部	9-E		84		5	壺	底 部	10-F埋め込み有り	
51	1 6 2 7	5	壺	底 部	H-3		85		5	壺	底 部	10-E埋め込み有り	
52	2 2 1 1	5	壺	底 部	10-F		86		5	壺	底 部	9-D埋め込み有り	
53		5	壺	底 部	9-EベルトA		87		5	壺	口 緑	10-D突帶有り	
54	1 7 7 0	5	壺	底 部	9-F		88					突帶有り	
55	1 8 1 8	5	壺	底 部	9-F		89	2 0 2 9	5	壺	口 緑	10-F突帶有り	
56	3 3 6 6	5	壺	底 部	9-E		90	3 5 8 0	5	壺	口 緑	10-D	
57	3 9 0 2	5	壺	底 部	10-F		91		2	壺	口 緑	突帶有り	
58		5	壺	底 部	9-D		92	1 0 0 5	5	壺	口 緑	10-E突帶有り	
59		5	壺	底 部	10-F		93		5	壺	口 緑	9-F	
60		5	壺	底 部	9-D		94		5	壺	口 緑	10-E突帶有り	
61	5 6 6	5	壺	底 部	9-D		95	2 4 9 9	5	壺	口 緑	9-D突帶有り	
62		5	壺	底 部	10-F		96	2 0 5 9	5	壺	口 緑	10-F突帶有り	
63	6 4 6	5	壺	底 部	10-D突起有り		97	2 1 0 5	5	壺	口 緑	10-F	
64	2 4 7 5	5	壺	底 部	9-D突起有り		98	3 6 3 9	5	壺	口 緑	9-D突帶有り	
65	2 4 6 0	5	壺	底 部	9-F突起有り		99			壺	口 緑	突帶有り	
66		5	壺	底 部	9-D突起有り		100	3 5 4 3	5	壺	口 緑	10-D突帶有り	
67	2 4 4 6	5	壺	底 部	10-E突起有り		101	3 6 8 4	5	壺	口 緑	10-E突帶有り	
68	1 4 8 0	3	壺	底 部	H-2突起有り		102	7 8 9	5	壺	口 緑	10-D	
69	3 3 6 3	5	壺	底 部	9-E突起有り		103		5	壺	口 緑	9-E	
70	2 2 6 5	5	壺	底 部	10-F突起有り		104		5	壺	頸 部	10-F	
71	2 5 3 7	5	壺	底 部	10-F突起有り		105	1 4 2 5	3	壺	口 緑	H-1	
72	1 8 3 1	5	壺	底 部	9-F突起有り		106		5	壺	口 緑	9-E	
73	1 3 0 2 2	5	壺	底 部	9-D突起有り		107	3 9 2 9	5	壺	頸 部	9-E	
74	3 1 9 3	5	壺	底 部	9-D突起有り		108		5	壺	頸 部	9-D	
75		5	壺	底 部	10-E突起有り		109	1 3 6 8	5	壺	頸 部	10-E	
76	2 2 6 7	5	壺	底 部	10-F		110		5	壺	頸 部	9-F	

番号	出土番号	地点	部 位	特 徵	番号	出土番号	地点	部 位	特 徵
111		5	壺 頸 部	9-E	145	2 0 7 1	5	壺 肩 部	10-F
112		5	壺 頸 部	9-D	146	9 0 7	5	壺 肩 部	10-D
113	8 2 5	5	壺 頸 部	10-D	147	2 3 9 5	5	壺 肩 部	10-D
114	8 0 8	5	壺 頸 部	10-D	148	2 1 9 8	5	壺 肩 部	10-F
115		5	壺 頸 部	9-D	149	2 4 1 3	5	壺 肩 部	9-D
116		5	壺 頸 部	9-D	150	8 1 6	5	壺 肩 部	10-D
117	2 0 6 4	5	壺 頸 部	10-F	151		5	壺 肩 部	10-D
118		5	壺 頸 部	9-E	152	2 0 0 3	5	壺 肩 部	10-F
119		5	壺 頸 部	10-D	153		5	壺 肩 部	9-E
120	3 2 5 9	5	壺 頸 部	9-D	154	3 2 1 5	5	壺 肩 部	9-D
121		5	壺 頸 部	9-E	155		5	壺 肩 部	9-D
122	2 0 4 3	5	壺 肩 部	10-F	156	3 2 0 4	5	壺 肩 部	9-D
123		5	壺 肩 部	9-E	157		5	壺 肩 部	9-E
124		6	壺 肩 部	9-E	158		5	壺 肩 部	9-E
125	6 2 9	5	壺 肩 部	10-D	159	3 3 6 0	5	壺 肩 部	9-E
126	2 2 3 2	5	壺 肩 部	10-F	160		5	壺 肩 部	9-D
127		5	壺 肩 部	9-E	161		5	壺 肩 部	9-F
128		5	壺 肩 部	9-E	162		5	壺 肩 部	9-E
129	3 3 5 7	5	壺 肩 部	9-E	163	1 7 8 9	5	壺 肩 部	9-F
130		5	壺 肩 部	9-E	164	1 0 0 6	5	壺 底 部	10-E 丸 底
131	2 2 7 9	5	壺 肩 部	10-F	165	1 4 9 1	3	壺 底 部	H-2 丸 底
132	2 3 6 8	5	壺 肩 部	9-D	166	2 1 1 3	5	壺 底 部	10-F 丸 底
133		5	壺 肩 部	9-F	167		5	壺 底 部	9-E 丸 底
134		5	壺 肩 部	10-E	168		5	壺 底 部	9-E 丸 底
135		5	壺 肩 部	10-F	169	2 2 8	5	壺 底 部	9-D 丸 底
136	1 6 9 4	5	壺 肩 部	9-G	170		5	壺 底 部	9-D 丸 底
137		5	壺 肩 部	10-E	171	1 5 1 9	3	壺 底 部	H-2 丸 底
138	1 8 0 4	5	壺 肩 部	9-E	172	2 4 6 6	5		9-D
139	8 4 9	5	壺 肩 部	10-D	173		5		9-F
140		5	壺 肩 部	9-G	174	3 5 7 3	5	壺 底 部	10
141	3 3 2 7	5	壺 肩 部	9-E	175	3 9 2 6	5	壺 底 部	10-F
142	2 8 1 0	5	壺 肩 部	9-D	176		5	壺 底 部	9-E
143	8 7 2	5	壺 肩 部	10-D	177	3 3 1 9	5	壺 底 部	9-E
144	2 0 3 8	5	壺 肩 部	10-F	178	1 0 0 2	5	壺 底 部	10-F

番号	出土番号	地点	部	位	特	備	番号	出土番号	地点	部	位	特	微
179	1 0 0 4	5	壺	底 部	10-E		213		5	壺		10-D	
180	2 8 0	5	壺	底 部	9-E		214	3 9 3 3	5	壺		10-F	
181	1 2 7 6	5	壺	底 部	10-E		215		5	壺		9-D	
182	3 6 0 3	5	壺	底 部	9-D		216		5	壺		10-F	
183		5	壺	底 部	9-F		217		5	壺		9-D	
184	1 8 4 8	5	壺	底 部	9-F		218	2 2 5 6	5	壺		10-F	
185			壺	底 部			219		5	壺		9-D	
186		5	壺	底 部	9-F		220		5	壺		9-D	
187	3 3 6 4	5	壺	底 部	9-E		221	3 2 8 5	5	壺		10-F	
188	3 3 6 5	5	壺	底 部	9-E		222	2 1 9 6	5	壺		10-F	
189	8 8 5	5	壺	底 部	9-F		223		5	壺		9-E	
190	1 3 3	5	壺	底 部	9-D		224		5	壺 底 部		10-F	
191	1 7 4 7	5	壺	底 部	9-F		225		5	壺 底 部		10-F	
192		5	壺	底 部	9-EベルトA		226		2	壺 底 部			
193	3 1 6 6	5	鉢		10-D完 形		227		5	口	縁	9-E	
194	2 1 7 1	5	鉢		10-F		228		5	口	縁	10-F	
195		5	鉢		9-E		229	2 2 1 0	5	口	縁	10-E	
196	2 1 7 1	5	鉢		10-F		230		5			完 形	
197	1 9 3 0	5	鉢		9-E		231	3 0 8 2	10	匙			
198		2	鉢 底 部				232	4 7 6	5	匙		9-D	
199	1 9 6 4	5	鉢		9-E		233	2 9 2	5	高坏口縁部		9-D	
200	5 3 0 0	5	鉢		9-D		234	1 4 0 5	3	高坏口縁部		H-1	
201		5	鉢 底 部		10-D		235	1 4 1 7	3	高坏口縁部		H-1	
202	5 0 5	5	鉢 底 部		9-D		236	1 7 7 6	5	高坏口縁部		9-F	
203	9 2 8	5	鉢		10-E		237	1 7 6 8	5	高坏口縁部		9-F	
204	2 5 8 3	5	鉢		10-F		238		5	高坏口縁部		9-D	
205		5	手 づくね	10-E ベルト			239	3 3 2	5	高坏口縁部		9-D	
206		5	手 づくね	10-F			240		5	高坏口縁部		9-D	
207	3 1 6 3		鉢		完形, 脚有り		241		5	高坏口縁部		9-EベルトA	
208		5	鉢 底 部		9-D 脚有り		242	1 9 2 4	5	高坏口縁部		9-E	
209	1 8 7 3	5	鉢		9-F 脚 付		243		5	高坏口縁部		10-F	
210		5	鉢 底 部		9-E 脚有り		244	7 6 7	5	高坏口縁部		10-D	
211	1 9 6 3	5	鉢 底 部		9-E 脚有り		245	1 8 7 0	5	高坏口縁部		9-F	
212	1 3 2 7	5	鉢		10-E完形, 脚有り		246		5	高坏口縁部		9-D	

番号	出土番号	地點	部 位	特 徴	番号	出土番号	地點	部 位	特 徴
247	2 4 8 6	5	高坏口縁部	9-D	281	1 4 4 9	3	脚 部	H-1スカシ有り
248		5	高坏口縁部	10-F	282	5 0 0	5	脚 部	9-Dスカシ有り
249		5	高坏口縁部	9-E	283	1 8 0 8	5	須恵器 肩口縁	9-F
250		5	高坏脚部	9-E	284	1 9 6 5	5	須恵器 肩口縁	10-E
251	2 2 7 1	5	高坏脚部	10-F	285	6 0 5	5	須恵器 肩口縁	9-E, F, 9-D
252		5	高坏脚部	9-E	286	1 9 9 7 1 2 6 2	5	須恵器 肩口縁	10-F, 10-E
253	7 1 7	5	高坏脚部	10-D	287	1 6 5	5	須恵器 肩口縁	10-F
254		5	高坏脚部	9-E ベルト	288	3 4 6 9	5	須恵器 肩口縁	9-F
255		5	高坏脚部	9-E	289	1 8 5 1	5	須恵器 肩口縁	9-F
256		5	高坏脚部	9-E	290	2 4 2 1	5	須恵器 肩口縁	9-D
257	2 4 5 9	5	高坏脚部	9-F	291	2 9 8	5	須 惠 器 肩	9-D
258	1 3 3 6	5	高坏脚部	9-P	292	13432102 13432116 1343 ?	5	須 惠 器 肩	10-E, 10-F 10-E10-F
259	4 5 0	5	高坏脚部	9-D	293	8 7 7	5	須 惠 器 肩	10-D
260	3 5 5 4	5	高坏脚部	10-D	294	2 1 6 0	5	須 惠 器 肩	10-F
261	1 2 2 7	5	高坏脚部	10-E	295	1 9 4 1	5	須 惠 器 肩	9-E
262		5	高坏脚部	10-D	296		5	須 惠 器 肩	9-F
263	3 1 9 5	5	高坏脚部	10-D	297	2 0 0 8	5	須 惠 器 肩	10-F
264	5 3 8	5	高坏脚部	9-D	298	2 4 5 0	5	須 惠 器 肩	9-F
265	2 5 3 0	5	高坏脚部	10-F	299	1 9 7 1	5	須 惠 器 肩	9-E
266	2 4 7 0	5	高坏脚部	9-E	300		5	須 惠 器 薩	10-E
267	1 3 9 6	3	高坏脚部	H-1	301	1 3 4 1	5	須 惠 器 薩	10-E
268	2 1 5 1	5	高坏脚部	10-F	302		5	須 惠 器 薩	9-E
269	3 1 6 5	5	高坏	10-D 完形	303	2 4 0 8	5	須 惠 器 坏身	9-D
270	2 1 3 6	5	高坏脚部	10-F	304	3 3 0 7	5	須 惠 器 坏身	9-E
271		5	高坏脚部	9-E	305	8 8 3	5	須 惠 器 坏身	10-D
272		5	高坏脚部	9-E	306	6 7 5	5	須 惠 器 坏身	10-D
273	7 2 2	5	脚 部	10-D	307		5	須 惠 器 坏身	10-F
274	3 8 9 8	5	脚 部	10-F	308	1 8 9 8	5	須 惠 器 坏	9-E
275	2 2 5 9	5	脚 部	10-F	309		5	須 惠 器 坏	10-F
276		5	脚 部	9-E	310		5	須 惠 器 坏	9-D
277			脚 部	スカシ有り	311	1 6 9 8	5	須 惠 器 高坏完形	9-G
278		5	脚 部	10-Fスカシ有り	312	2 1 5 7	5	須 惠 器 高坏	10-F
279	2 2 9 2	5	脚 部	9-Eスカシ有り	313	3 5 8	5	須 惠 器 高坏脚部	9-Dスカシ有り
280	4 1 8	5	脚 部	9-Dスカシ有り	314	3 8 6 6	5	須 惠 器 高坏脚部	10-Fスカシ有り

番号	出土番号	地点	部	位	特	徵	番号	出土番号	地点	部	位	特	徵
315	2388	5	須恵器	高环脚部	9-D		349	2704	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
316		5	須恵器	壺口	縁	9-G	350	2787	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
317		5	須恵器	壺口	縁	9-D	351	2619	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
318		8	壺	口	縁		352	2403	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
319	2629	8	壺	口	縁		353	2902	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
320	2540	8	壺	底	部		354	2679	8	須恵器	坏身	高台が低くて垂直	
321	2850	8	壺	底	部		355	2627	8	須恵器	坏身	高台なし	
322	2838	8	壺	底	部		356	2810	8	須恵器	坏身	高台なし	
323		8	壺	頸	部		357		8	須恵器	坏身	高台なし	
324	2587	8	須	恵	器	蓋	358	2637	8	須恵器	坏身	高台なし	
325	2859	8	須	恵	器	蓋	359	2699	8	須恵器	坏身	高台なし 赤焼	
326	2633	8	須	恵	器	蓋	360		8	須恵器	坏身	高台なし	
327	2753	8	須	恵	器	蓋	361	2651	8	須恵器	坏身	高台なし	
328	2713	8	須	恵	器	蓋	362	2603	8	須恵器	坏身	高台なし	
329		8	須	恵	器	蓋	363	2606	8	須恵器	坏身	高台なし	
330	2792	8	須	恵	器	蓋	364	2896	8	須恵器	坏身	高台なし 赤焼	
331		8	須	恵	器	蓋	365	2773	8	須恵器	坏身	高台なし	
332		8	須	恵	器	蓋	366	2636	8	須恵器	坏身	高台なし 赤焼	
333	2672	8	須	恵	器	蓋	367	2790	8	須恵器	坏身	高台なし 赤焼	
334	2727	8	須	恵	器	蓋	368	2822	8	須恵器	坏身	高台なし	
335	2839	8	須	恵	器	蓋	369	2731	8	須恵器	坏身	高台なし	
336	2841	8	須	恵	器	蓋	370	2646	8	須恵器	坏身	高台なし	
337		8	須	恵	器	蓋	371	2740	8	須恵器	坏身	高台なし	
338	2640	8	須	恵	器	蓋	372	2634	8	須	惠	器口縁	
339	2693	8	須	恵	器	蓋	373	2696	8	坏		須恵器に類似	
340	2700	8	須	恵	器	蓋	374		8	坏		須恵器に類似	
341	2820	8	須	恵	器	蓋	375	2902	8	坏		須恵器に類似	
342	2848	8	須	恵	器	坏身	376	2586	8	坏		須恵器に類似	
343	2860	8	須	恵	器	坏身	377	2869	8	坏		須恵器に類似	
344	2708	8	須	恵	器	坏身							
345	2590	8	須	恵	器	坏身							
346	2736	8	須	恵	器	坏身							
347	2719	8	須	恵	器	坏身							
348	2816	8	須	恵	器	坏身							

## 2 石器

本遺跡より出土した石器には、石斧（打製石斧、局部磨製石斧）すり石、凹石（両面・片面3面）石皿、台石、敲石、石包丁、紡錘車、砥石などがある。

### 石斧（第51図378～382 図版）

全て打製石斧であるが、381のように剥離痕を残し局部的に研磨したものもある。

378は、残存全長9.4cmで、片面に自然面を残す。側面を交互剥離により調整している。柄部近くで欠損している。379は、残存全長8.4mで、片面に自然面を残し、側面の調整は荒い。刃部付近で欠損している。378、379とも硬化の頁岩・砂岩互層の石材である。380は、ほぼ原形をとどめ全長12.2cmである。石器中央部が両側面より抉られており、刃部は荒く剥離されている。381は偏平な局部磨製石斧で、側面を交互剥離により調整したのち、刃部を中心に磨かれている。380、381は粘板岩の石材を用いている。382は安山岩の剥片を利用し、a面がスキ状に反っている。全面を磨いており、刃部は鋭利さがない。

### 石皿（第51図383 図版）

今回の調査で唯一の石皿である。石材は多孔質・ガラス質の安山岩を利用しておらず、風化のためか、もろくなっている。片面を利用しており、弧状に凹んでいる。

### スリ石・敲石（第51図384、387 図版）

スリ石は384～387で、いずれも自然縫を利用している。385は、安山岩の扁平な小円礫で両側が磨られている。386は安山岩を利用し上下二面にスリ痕跡が見られる。387は敲石で安山岩の縫を利用している。上下二面に敲き痕跡が見られる。

### 台石（第52図388～394 図版）

台石と思われるものは7点出土している。全て角縫を利用している。敲石と組み合せで利用するものと思われ、中央部が若干凹んでおり敲かれた痕跡が見られる。石材は、玄武岩質安山岩輝石安山岩等の安山岩を利用しているが、394はラミナ状の砂岩を利用している。

### 凹石（第53・54・55図395～407、図版）

いずれも輝石安山岩、角セン石安山岩の円縫および角縫を利用したものである。395を除いては両側あるいは、404、405、407のように3面を使用し、凹状の痕跡が現れる。凹みの深さは一定ではないが、浅いもので1mm～2mmで、深いものは7mm～8mmである。395は、一面しか使用していないものである。398は、亜円礫で両面に凹が見られるもので、両側に打ち欠いた痕跡がある。

405は不安定な、三角形の縫であるが、三面を良く利用しており、凹みがはっきり残っている。

### 紡錘車（第59図439、図版）

439は、軟質の凝灰岩製の紡錘車で、中央部で割れているが復元直径48cmを計る。中央部に有孔を施しており、中央部がやや厚みを増しており、両面および外周が丁寧に磨かれている。表面はやや風化を受けている。

### 砥石（第59図440、441 図版）

9-D区V層で2点出土している。440は、粘板岩を利用し、中央部で割れているが、残存

全長 5.2 cm で、最大厚 2 cm、中央部の厚さが 0.9~5 cm である。両面とも砥痕が顕著にみられる。側面も砥痕が見られる。441 は、微粒子の砂岩を用いている。これも中央部で割れているが、残存全長 6.7 cm で、最大厚 2.9 cm、中央部の厚さが 1.3~2 cm である。両面、側面も使用した痕跡がある。

#### 石包丁（第59図 442、図版）

粘板岩製の石包丁で、良く磨かれており、特に刃部は丁寧に研磨している。背部付近に小孔を両面より穿いており、その部分より割れており全形をつかむことはできないが、刃部は弧状をなし、背部は直線的になる。

第4表 石器の計測

( 単位cm, g )

番号	区	層	石 器 名	全長 (長径)	最大幅 (短径)	厚さ	重さ(g)	石 材	備 考
378	10-F	V	打製石斧	9.4	5.4	2.0	110	硬化砂岩	全長は残存計測
379	"	"	"	8.4	4.6	2.4	110	"	"
380	9-D	"	"	12.2	5.6	2.0	180	粘板岩	
381	"	"	局部磨製石斧	14.4	6.7	1.4	207.5	"	
382	"	"	"	12.8	7.7	1.8	240	安山岩(玄武岩質)	風化のため鋭利さがない。
383	10-D	"	石皿	8.3	14.2	4.5	720	安山岩	残存計測
384	10-E	"	スリ石	13.4	7.4	3.3	542.5	輝石安山岩	
385	9-E	"	"	5.1	4.7	1.8	35	安山岩	
386	10-F	"	"	7.6	4.1	2.8	125	"	
387	"	"	敲石	8.6	5.1	3.4	140	"	
388	10-E	"	台石	1.5	15.7	4.7	1770	安山岩(玄武岩質)	
389	9-D	"	"	13.2	12.6	4.9	1430	"	
390	"	"	"	15.7	16.0	8.1	3200	安山岩	
391	10-E	"	"	8.6	10.2	4.0	490	"	
392	10-F	"	"	14.5	12.4	4.3	1580	輝石安山岩	
393	"	"	"	17.6	11.4	5.3	1745	安山岩(玄武岩質)	
394	9-E	"	"	13.2	9.0	4.3	547.5	砂岩(ラミネ状)	
395	10-F	"	凹石	6.3	5.4	3.9	180	輝石安山岩	
396	"	"	"	9.5	7.9	5.7	557.5	"	
397	"	"	"	8.6	7.4	4.3	440	"	
398	10-D	"	"	10.0	7.5	3.9	415	角セン石安山岩	
399	9-E	"	"	9.6	9.1	3.5	485	安山岩	
400	10-F	"	"	9.0	6.9	2.9	255	輝石安山岩	
401	10-D	"	"	7.8	5.7	3.5	235	安山岩	
402	10-F	"	"	10.4	11.0	5.4	775	"	
403	"	"	"	9.2	6.3	3.4	267.5	輝石安山岩	

番号	区	磨石器名	全長(長径)	最大幅(短径)	厚さ(g)	重さ(g)	石材	備考
404	10-F	V凹石	8.6	7.1	4.6	500	安山岩	
405	"	"	9.0	9.0	6.1	647	"	
406	10-D	"	9.6	6.5	3.3	338	輝石安山岩	
407	9-E	"	8.2	5.9	3.6	235	安山岩	
399	9-F	紡錘車	2.4		1.5	1225	凝灰岩	残存計測・有孔径約1.5cm
400	9-D	砥石	5.2	3.7	1.9	4825	粘板岩	直徑は残存計測
441	"	"	6.7	5.6	2.8	13125	砂岩	"
442	9-E	石包丁				1275	粘板岩	残存計測・有孔径約0.1cm

### 3 輻石加工品

本遺跡からは、輻石および軽石を素材として加工したと思われるものが数多く出土している。片面あるいは側面を磨ったもの、石棒状のもの、有孔を施したもの、沈線を施したものなどがある。これらの加工品は、大型・中型・小型の輻石を利用して加工を行っている。

#### 大型加工品（第55・56図408～412、図版）

軽石の原石をそのまま利用し加工したもので、両側あるいは、片面を磨ってあるものである。408、411は、片面を丁寧に磨って、平坦面を作り出している。409、412は、両側に磨った痕跡が見られるもので、輝石・石英粒を含んだ気泡の多い軽石を使用している。410は、第2地点の1号住居址の床面近くで出土したもので、全長4.16cm、最大幅9.4cm、厚さ3.9cmの片面に弧状に凹んだ部分がある。

#### 側面加工品（第56・57図413～426、図版）

中型および小型の軽石を素材として、側面の一方だけを磨ってその他の部分は自然面を残すもので、側面は縦面を利用している。本遺跡では、側面加工のものが数多く出土している。そのほとんどが、軽石全体の約 $\frac{1}{3}$ ほど磨っており、磨った面は平坦面をなしている。大きいものは415のように直徑1.02cm、残存短径6.6cmを計るものや小さいもので、426のように直徑4.9cm、残存短径3.4cmを計る。これらの軽石は、椭円形のものを使用している。

#### 全面加工品（第58図427、428、図版）

全面を磨った痕跡があるもの。427は不定形な軽石を全面磨っている。428は、方形状のもので、磨った痕跡が全面に見える。製品か未製品かは不明である。

## 特殊加工品（第58・59図 429～438、図版）

全面あるいは一部を磨ったのち、二次的に加工したもの、あるいは定形化したものである。429は、全面を磨っているが特に側面を平坦面にしたのち、約1mm前後の沈線を施している。欠損部分があるため全形をつかめないが、沈線は背の部分に縦に1条、横に2条見られ、平坦面では、縦1条。横に1条施している。縦に施したのちに横に施している。430、431は、円錐状の加工品で、底面部分を良く磨っている。431は先端部が欠損している。432は、6面を磨っており、軽石は余り不純物を含まないものである。433は、6角柱のもので一辺が一定でないが、全面良く磨ってある。434は、全面を磨ったのち、片面を平坦にし孔を穿いている。有孔の径は1cmである。435は、上部に鋭利なもので沈線を施している。沈線を1条めぐらすつもりであったと思われるが、a面では右上りになり、b面では、その沈線が交差しており、複数の沈線の施しである。436は、石棒状のもので全面を円柱状に磨っている。下面は平坦面をなす。437は最大厚0.9cm、最小厚0.5cmの薄手の橢円形をなすもので、両面とも良く磨ってある。a面の右上りが弧状に抉ってある。438は、ほぼ中央部で割れた形で出土した。両面あるいは外周とも磨っているが、雑である。中央部に孔が穿いてあり、その径は1.3cmである。

第5表 軽石加工品の計測

(単位cm, g)

番号	区	層類	別	全長	最大幅	厚さ	重さ(g)	石材	備考
				(長径)	(短径)				
408	9-D	V	大型加工品	1.2.2	1.1.1	2.9	113.0	軽石	
409	10-F	"	"	1.7.5	1.3.5	5.1	608.25	"	
410	2-G	"	"	4.1.6	9.4	3.9	318.0	"	1号住居址埋土
411	10-E	"	"	9.9	8.2	3.5	65.0	"	計測は残存計
412	10-F	"	"	8.7	1.2.2	3.7	222.0	"	
413	10-E	"	側面加工品	1.0.8	4.5	3.7	51.5	"	
414	10-F	"	"	5.0	3.5	3.5	16.0	"	計測は残存計
415	9-E	"	"	1.0.2	6.6	5.0	133.5	"	
416	10-F	"	"	8.4	5.2	3.4	66.25	"	
417	10-E	"	"	6.1	3.4	1.8	11.75	"	
418	9-D	"	"	7.2	3.6	3.1	35.25	"	
419	10-F	"	"	7.9	4.6	3.5	56.75	"	
420	10-E	"	"	8.5	5.1	3.2	58.0	"	
421	9-E	"	"	6.8	4.8	3.8	60.75	"	
422	9-D	"	"	5.8	3.2	3.4	11.75	"	
423	10-F	"	"	9.0	5.0	3.7	70.25	"	
424	10-F	"	"	9.2	4.4	3.4	11.60	"	
425	10-F	"	"	9.4	4.3	3.9	71.25	"	

番号	区	属類	別	全長	最大幅	厚さ	重さ(g)	石材	備考
				(長径)	(短径)				
426	9-F	V		4.9	3.4	2.5	12.5	軽石	
427	9-E	"		6.9	6.3	4.9	72.25	"	
428	10-E	"		9.2	6.7	4.2	61.0	"	
429	"	特殊加工品		9.2	4.4	3.4	71.0	"	全長は残存計
430	3-F	"	"	4.3	4.3	3.8	13.0	"	3号住居址の埋土
431	9-D	"	"	7.9	4.6	3.9	48.5	"	
432	9-G	"	"	4.0	3.0	2.9	5.25	"	
433	9-E	"	"	4.7	2.7	2.7	14.0	"	
434	"	"	"	3.7	2.7	1.9	3.75	"	
435	10-E	"	"	8.8	5.1	3.1	62.75	"	
436	"	"	"	6.6	2.8	2.7	15.0	"	
437	2-G	"	"	3.6	3.1	1.0	3.75	"	1号住居址の埋土
438	10-E	"	"	7.9	6.5	2.1	24.25	"	

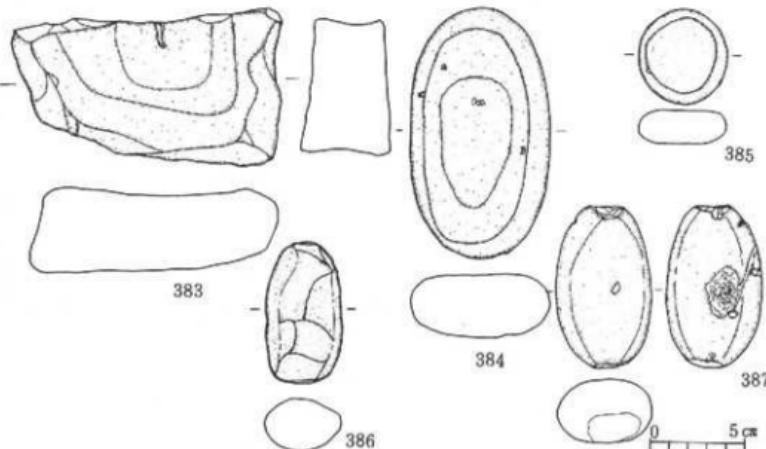
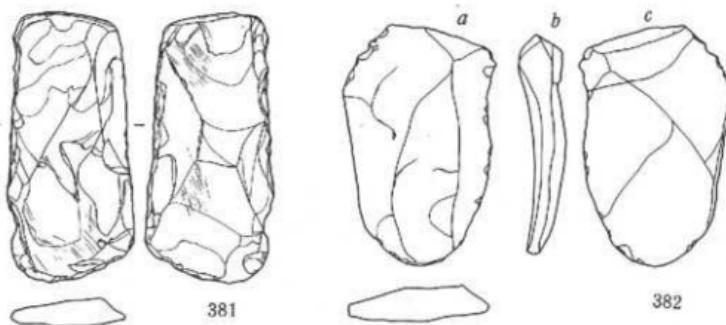
#### 4 鉄器・金銅製品

本遺跡において鉄片および鉄製品は、約38点出土している。そのほとんどが5地点に集中して出土し、2地点1号住居址内に刃子片と思われる鉄片が出土している。これらのものは、腐植化が進み、原形をとどめるものは少なく、判別できるものは鉄鎌のみであった。

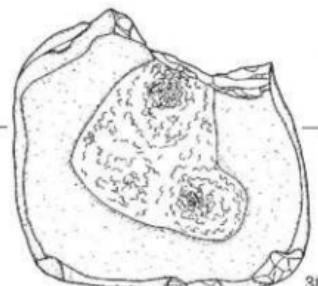
##### 鉄鎌(第60図 443～448 図版)

鉄鎌として判別できるものは6点出土している。これらのものはいずれも5地点5層より出土したもので、それぞれ形態の違いが見られる。

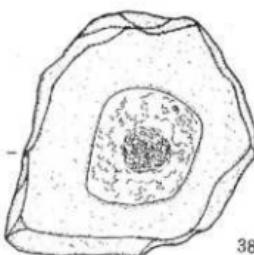
443は、10-Fで出土したもので一般的に菱形式と呼ばれ、身が菱形を呈し、刃が鋒だけにしか付けられておらず、逆刺はない。茎の断面が長方形なす平根式で、菱形部の身幅が22cmで、全長10.7cmである。全体的にやや弓なりの状態での出土であり、菱形部下で折れており、茎部の末端部分は欠損している。444は10-Dより出土し、鋒の刃の中央部がくぼみ、逆三角形をなす雁股式の鉄鎌である。身の両側面には刃ではなく、茎の方が身より短いものである。茎の断面は四角形をなす。全長7.05cmで身の最大幅が4.1cmである。445は、10-Fより出土し平根斧式と呼ばれ、全長の割合に鋒の刃が幅広く逆三角形をなすものである。鋒には刃がつけられており、身の両側面には刃の痕跡はなく、刃部は直線的になっている。全長7.0cm、最大幅が3.55cmである。断面は茎部が四角をなす。446は10-Dより出土し、鉄鎌としては普通的なものである。鋒が尖があり逆刺を有する。茎の断面は長方形をなす。全長11.8cm、身幅2.4cmのもので薄手で精巧な作りである。一般的に狭鋒平造縫抉長三角形式、あるいは平根有刺長三角形式とも呼ばれているものである。



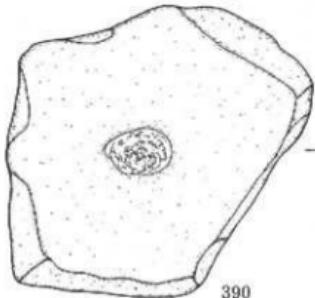
第51図 石器実測図 (1)



388



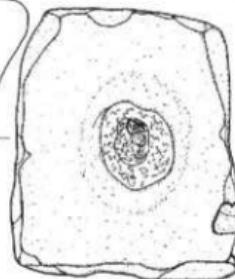
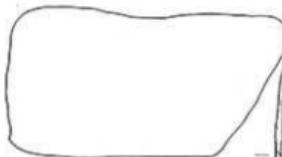
389



390



391

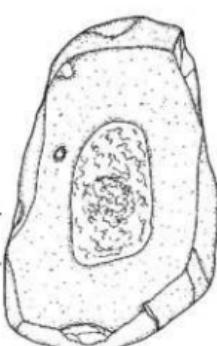
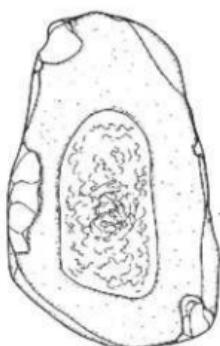


392



0 5 cm

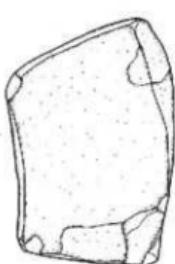
第52図 石 器 実 測 図 (2)



395



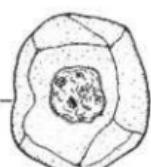
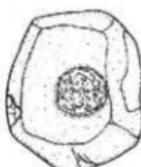
393



396



394



397

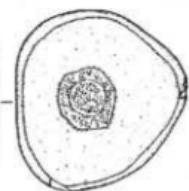
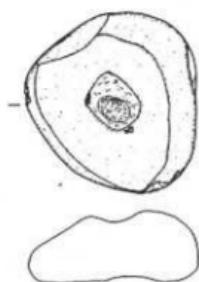


398

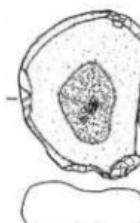


0 5 cm

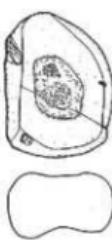
第53図 石 器 実 測 図 (3)



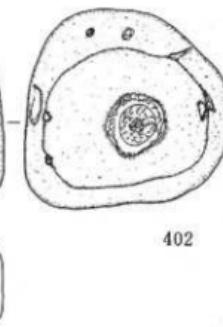
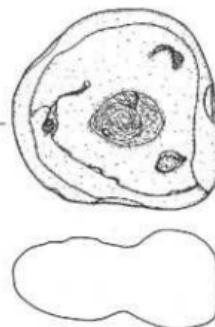
399



400



401



402



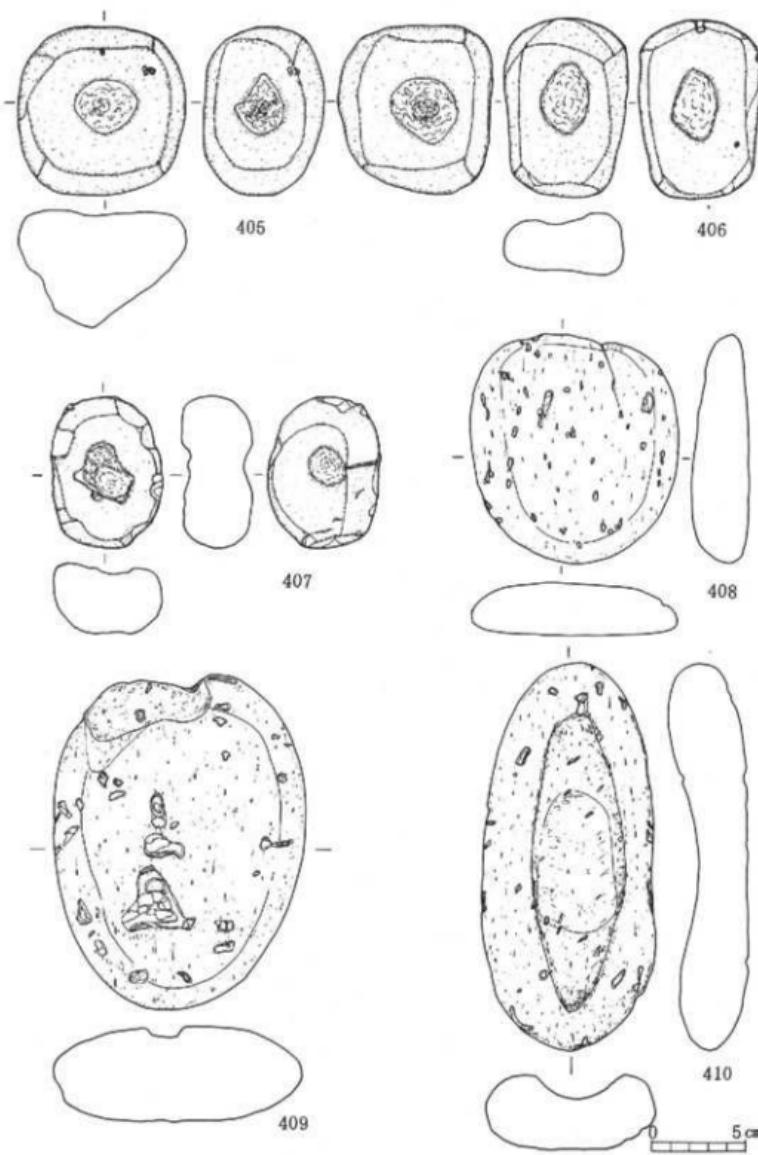
403



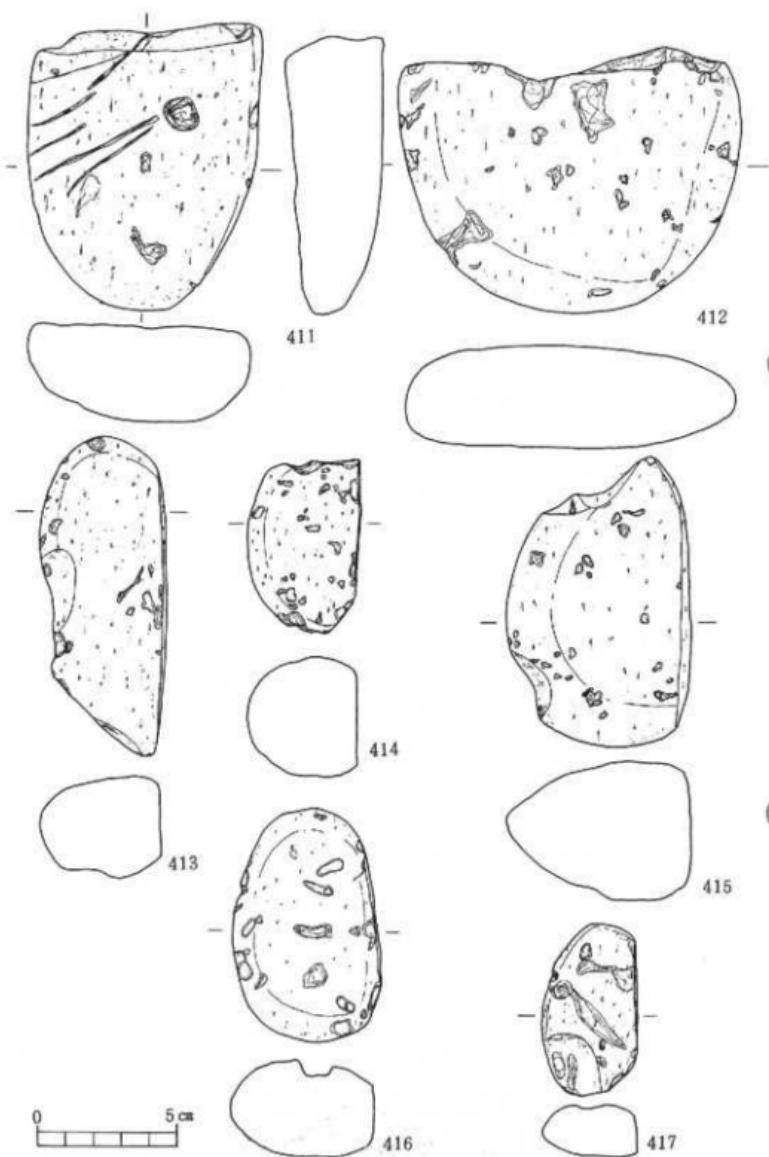
404

0 5 cm

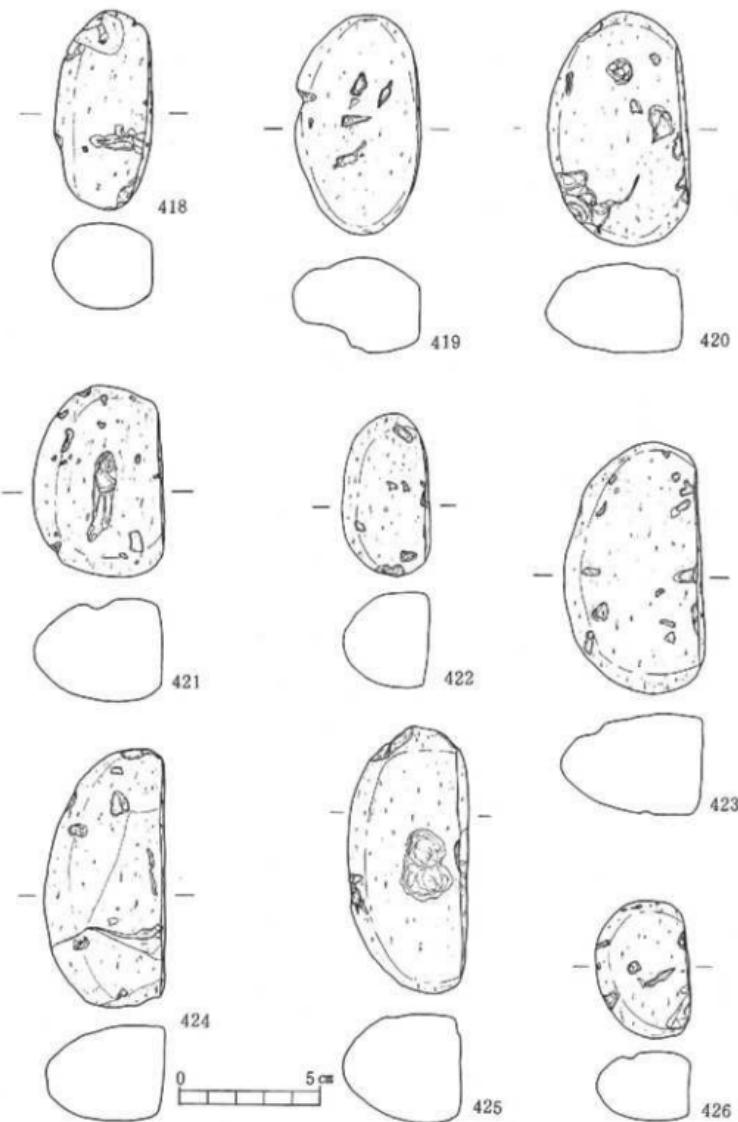
第54図 石 器 実 測 図 (4)



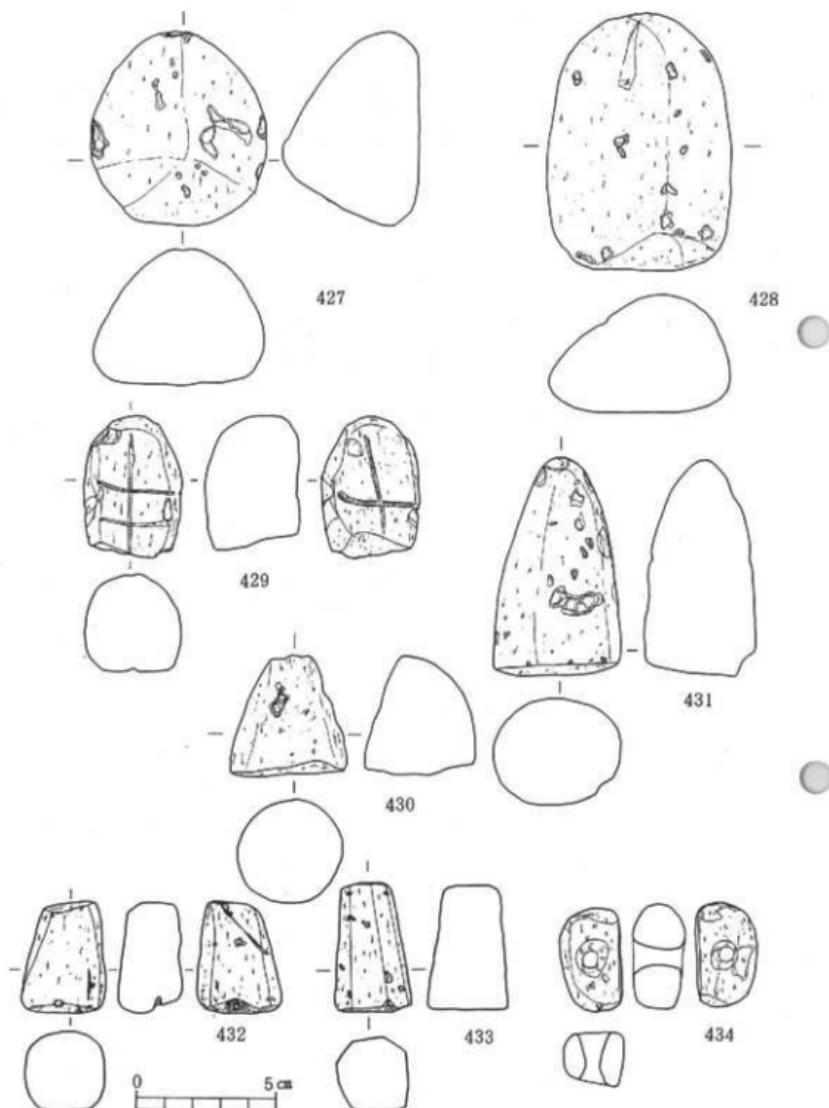
第55図 石器実測図(5)・軽石加工品実測図(1)



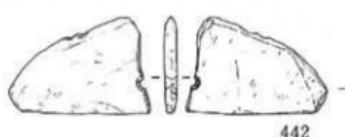
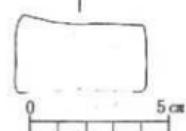
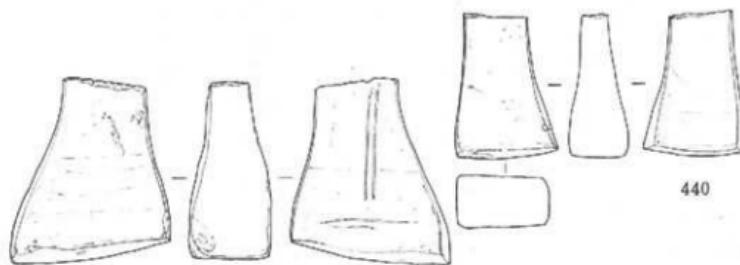
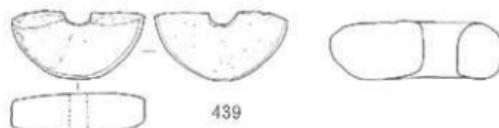
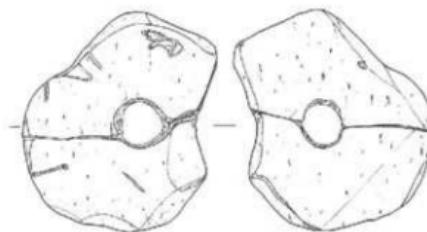
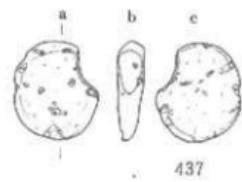
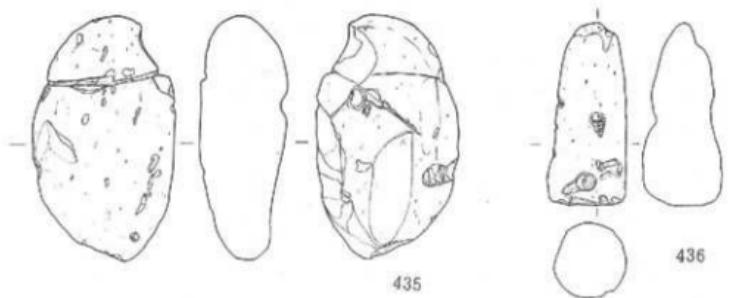
第56図 軽石加工品実測図 (2)



第57図 軽石加工品実測図 (3)

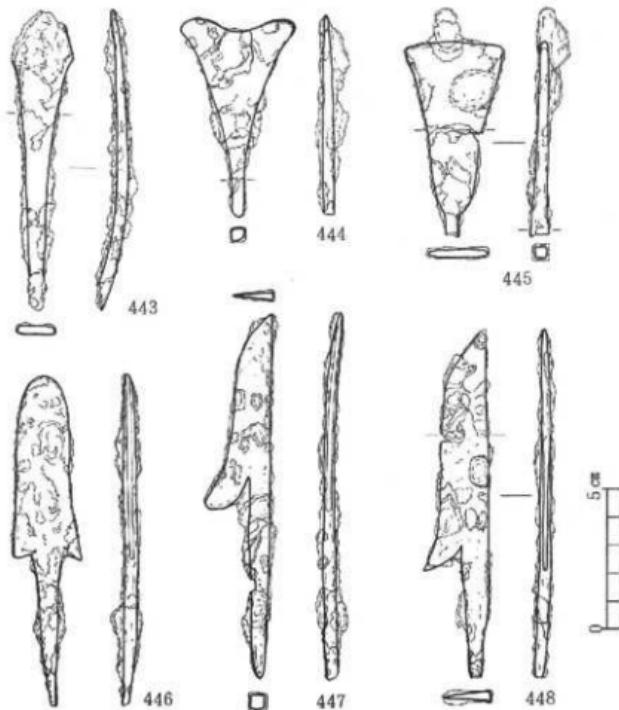


第58図 磨石加工品実測図 (4)



第 59 図 経石加工品実測図 (5)・石器実測 (6)

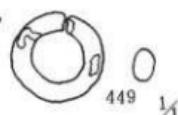
447, 448は、一見小形の刀子を思わせるが、片刃の逆剣付の鉄鑓である。鋒が著しく尖があり、銳利である。刃は鋒と身の片側だけにあり、刃を有する側に逆剣がある。447は9-Dより出土し、全長13.0cm身幅2.4cmであり逆剣が深く切れ込み、薄手のものである。茎の断面は四角形をなす。448は10-Fより出土し、全長12.4cm身幅2.4cmである。逆剣の切れ込みは447ほど深くない。身幅の断面は三角形をなす。



第60図 鉄 鑓

金銅製環 (第61図 449, 図版)

449は、8地点のV層より出土している。縦外径1.5cm, 横外径1.6cm, 厚さ0.6cm, 模重量3.95gである。合わせ目は狭く、全体は腐植されており淡緑を呈している。



第61図 金銅製品

### 第 III 章 まとめ

本調査地区での遺跡確認調査の結果、遺物は 45000m<sup>2</sup> に広がる規模であることが判明した。遺跡の位置は宇九玉原で、県道頬桂・宮ヶ浜線より南側にあたり、西側公民館脇の道路まで、南側は湊川まで東側は赤崎の部落までである。地形は大きく 2 段にわかれており、下段は傾斜があり段々畝状になっている。

遺跡は最上段に住居址が 8 基確認されているほか遺物が多量に出土し、下段にも遺物が多く出土している。

遺物は古墳時代～奈良時代の壺・壺・鉢・高环・坏等の土器類と軽石・石の石器類、鐵鐵・青銅製の環等の金属類の三つが出土している。

土器類は大きく成川式土器といわれる南九州独特の土器と須恵器に分けられる。

成川式土器は甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高环形土器・坏形土器が出土している。

甕形土器（1～3、16～86）は細い突帯をもち口縁部が直行ないし内行し、底部は脚台をもつ。器面は 状の施文具でナデ調整や、若干の研磨調整がみられる。底部の脚は高いものから低いものまである。底部は脚部の中央部に突起のないもの（44～62）、あるもの（63～75）、底いもの（76～83）、埋め込みのあるもの（84～86）に分けられる。

壺形土器は（87～192）口縁部が短かく、直行ないし、若干外反し、肩部は張り、底部は丸底ないし、平底を呈す土器である。頭部は突帯があるものと、ないものがあり、竹管等の文様を施すものもある。肩部は太形の突帯をもち、竹青、沈線文を施している。その文様は沈線だけのもの（122～137）、沈線と竹管の組み合せ（138～159）、竹管のみのもの（160～163）に分けられる。器面調整は ヘラナデならびに研磨である。

鉢形土器（193～212）は脚付のものとでないものとに分けられる。脚付は 207～212 である。器面調整は ヘラナデならびに研磨である。

壺形土器は 213～227 である。全体的に丹ぬりである。

高环形土器は 233～282 である。内側に横状突起があるもの（243・245）や、外側に突起をもつもの（245・245）が特徴的である。全体的に丹ぬりである。また脚部には円・三角スカシがあるもの（279・280・282）や、281 のように刻線のあるものがある。

須恵器は壺（283～299）・壺（316・317・372）・坏（303～310、342～371）・蓋（300～302、324～341）・翫（13）に分けられる。

翫は 6 世紀末（238）と 7 世紀末（284）～8 世紀にかけてのものが主体となっている。

坏身は 6 世紀末（303～304）と 8 世紀とに分けられる。高环は 7 世紀前半（311）と 313 や 315 等の 7 世紀末～8 世紀初頭に分けられる。

蓋は 8 世紀が主である。翫は 6 世紀初頭と考えられる。なお坏には赤焼もみられる。

遺構は文形堅穴住居址だけであり、中央部に円形の堅穴をつくっている。

本遺跡より出土した石器は、石斧（打製石斧・局部磨製石斧）・すり石・凹石・石皿・蔽石

石包丁・紡錘車・砥石などがあるが、これらの遺物は第5地点より集中的に出土したものである。石器の中で多量に出土したものは、凹石である。輝石安山岩・角閃石安山岩等の石材を利用したもので、片面・両面あるいは三面に凹状の使用痕の見られるものである。これらの凹石は、10cm内外の掌ぐらいの円盤あるいは角盤を使用している。石斧は380のように石器中央部が両側面より抉られており、この部分が柄付け部になると思われる。このような石器は鳥山調査区でも出土しており、石材も同質のものを使用している。石包丁・紡錘車が各一点ずつ出土しているが、これらの出土により生産的生活の場としての機能を持つ遺跡ではないかと思われる。ところで、本遺跡の調査において地理的に満足する所であるにもかかわらず石鍤・土鍤等の漁撈具の出土は見られなかった。

軽石加工品についても、そのほとんどが第5地点からの出土である。軽石加工品について特記するならば、側面加工の軽石製品である。これは、7cm内外の楕円形の軽石を用いて、長径となる側面の片面だけを磨っているものである。軽石の原形約<sup>1</sup>ほど磨っており、磨った面は平面をなしている。以上のように、これらの軽石は統一性があり、磨った段階で製品化して使用したのではないかと思われる。使用については不明であるが、磨り面が平面をなしているため平面的なものに対して使用したのではないかと思われる。その他の軽石の中には特殊な加工も見られ、429・435には線刻が施され、434・438は孔が貫かれている。436は石棒と思われる。

鉄器は、原形をとどめるものは鉄鎌のみで、他に刀子片と思うものがあるが、そのほとんどが腐植化しており、判別しにくいもの多かった。全体で、64点出土し、これらは第5地において多くの出土を見た。鉄鎌は、菱形式・雁股式・平根斧矢式・狹峰平造脇抉長三角形（平根有刺長三角形式）、片刃逆刺付鉄鎌の5タイプに分けられ、その違いが見られる。これらの鉄鎌は、成川遺跡においても同類のものが出土している。本県においての鉄鎌の出土は、地下式板石積石室や地下式土壙の副葬品としての出土例はあるが、住居址等の生活の場においての出土例は少なく、吹上町辻堂原、始良町萩原遺跡、根占町千束遺跡で報告されている。

註1 「鳥山調査区」 指宿市教育委員会 昭和55年

註2 「上古時代鉄鎌の年代研究」 人類学雑誌 第54巻第4号 後藤守一 昭和14年

註3 「成川遺跡」 文化庁（鉄鎌） 乙益重隆 昭和49年

註4 註3に同じ

註5 「辻堂原遺跡」 吹上町教育委員会 昭和52年

註6 「萩原遺跡」 始良町教育委員会 昭和55年

註7 「千束遺跡」 根占郷土誌 河口貞徳 昭和49年

註8 日本陶磁全集4 「須恵器」 田中琢、田中昭三、昭和52年 中央公論社

# 図 版



識



○

○



宮ノ前遺跡全景



遺跡説明会

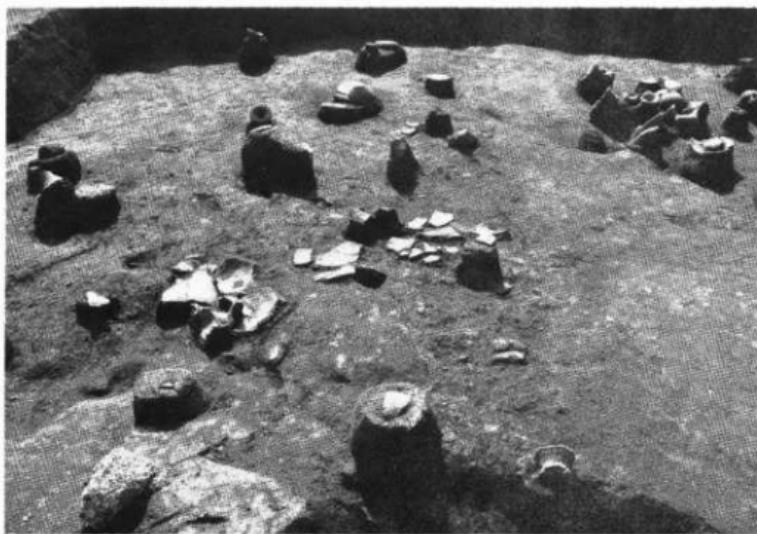
図版 2



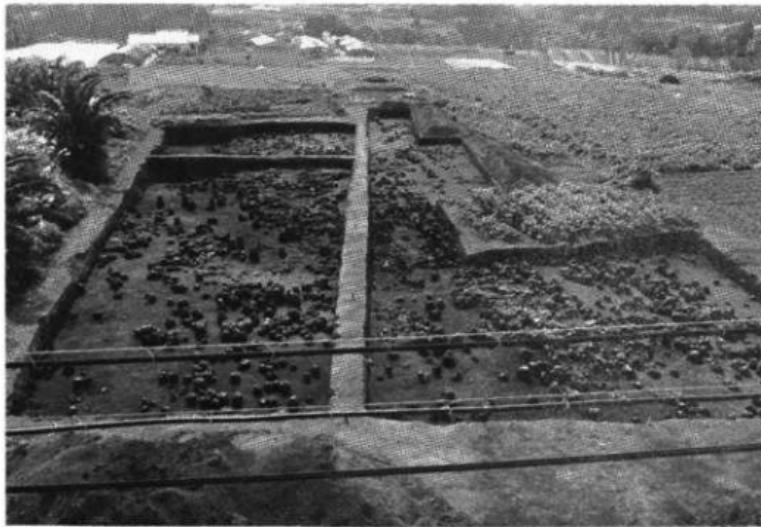
第 1 地 点 の 土 層



第 11 地 点 の 土 層



第 2 地点の 1 号住居址の遺物出土状況



第 5 地点の出土遺物全景

図版 4



5 地点の出土遺物状況



5 地点の出土遺物状況



8 地点の遺物出土状況

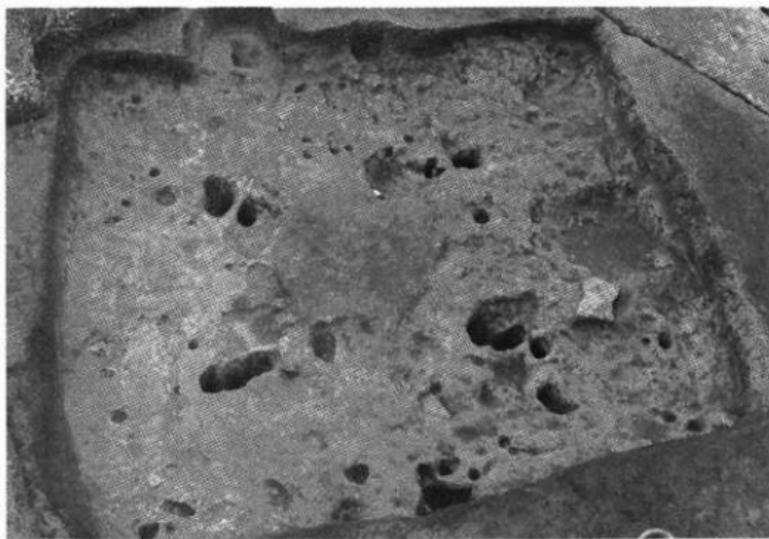


10 地点の遺物出土状況

図版 6



第 2 地点の住居址検出全景



1 号 住 居 址

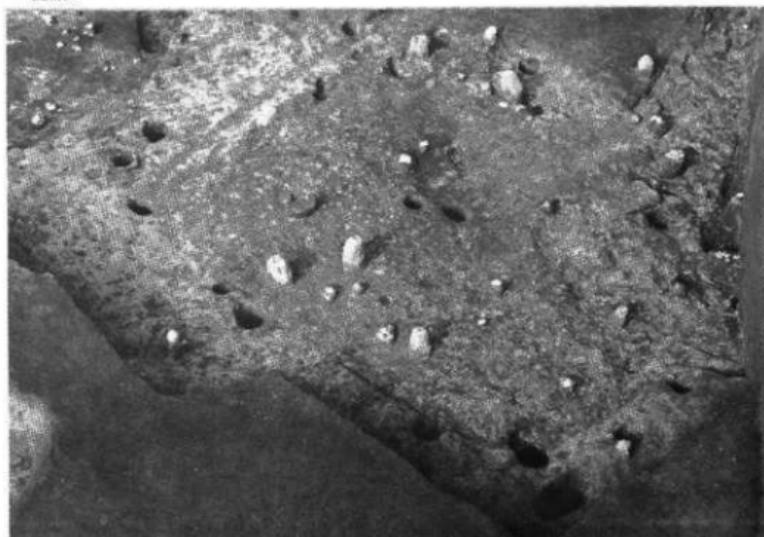


2 号住居址



3号住居址（中央）

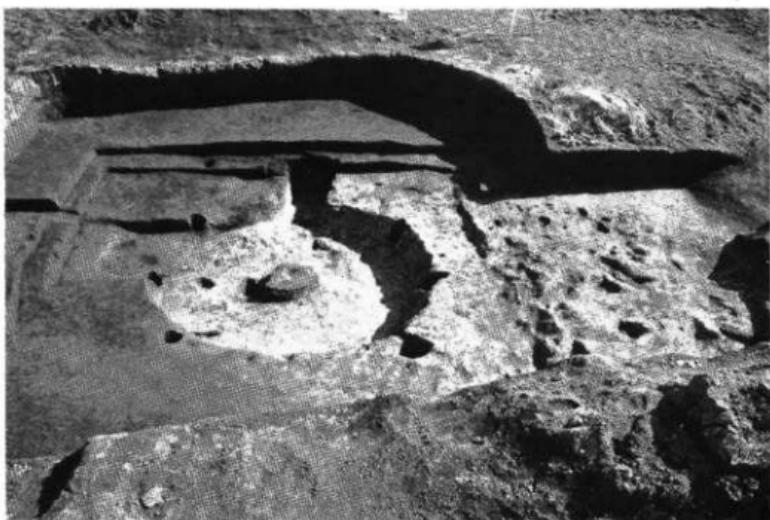
图版 8



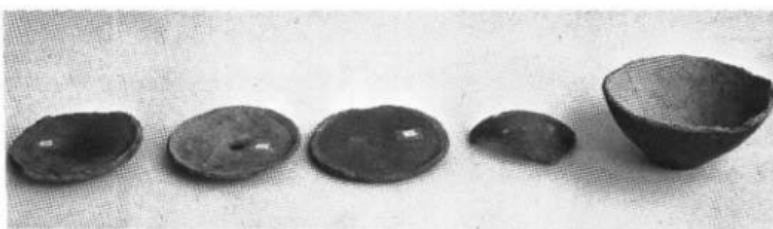
4号住居址(中央), 5号住居址(右)



6号住居址



7号住居址



1号住居址の出土遺物

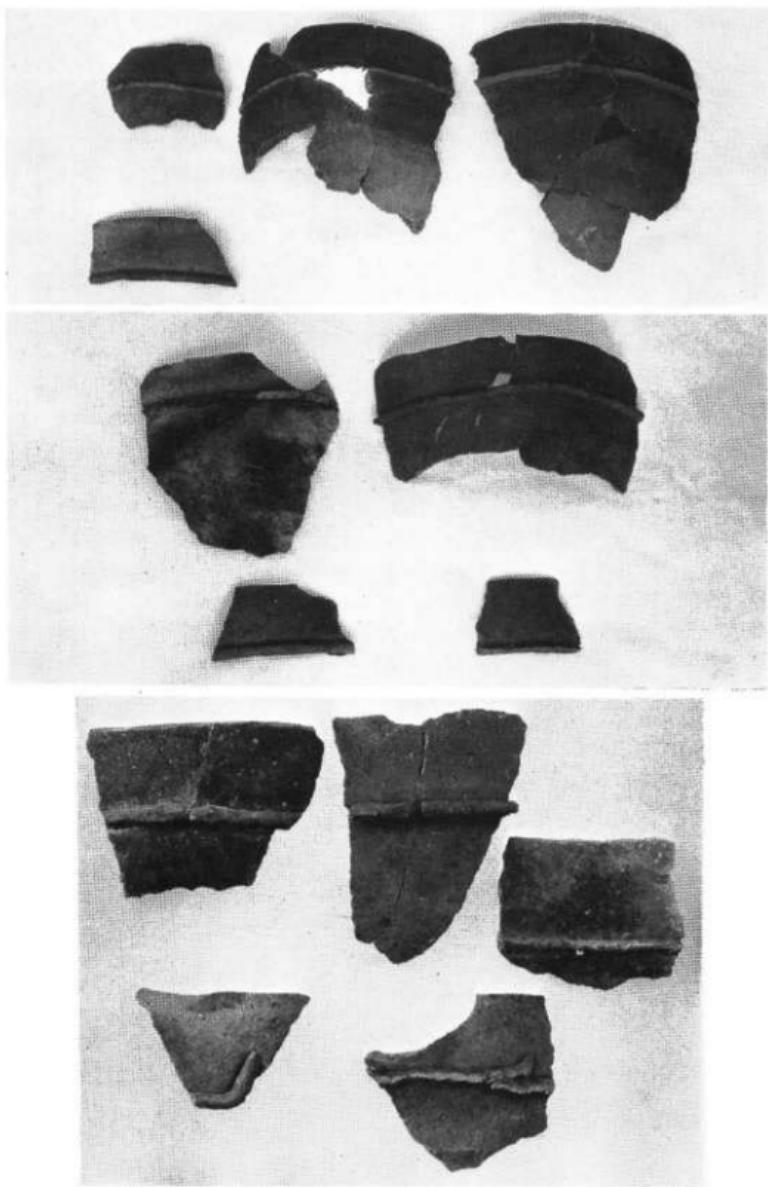
図版 10



1号住居址の出土遺物

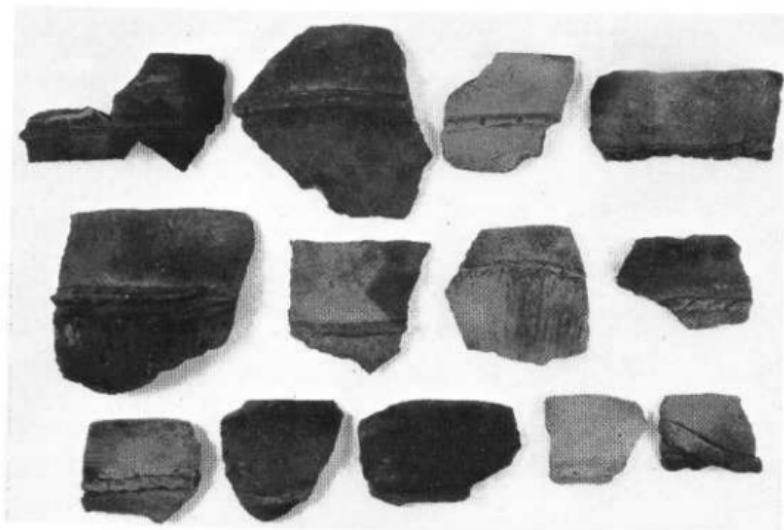


1号住居址の出土遺物

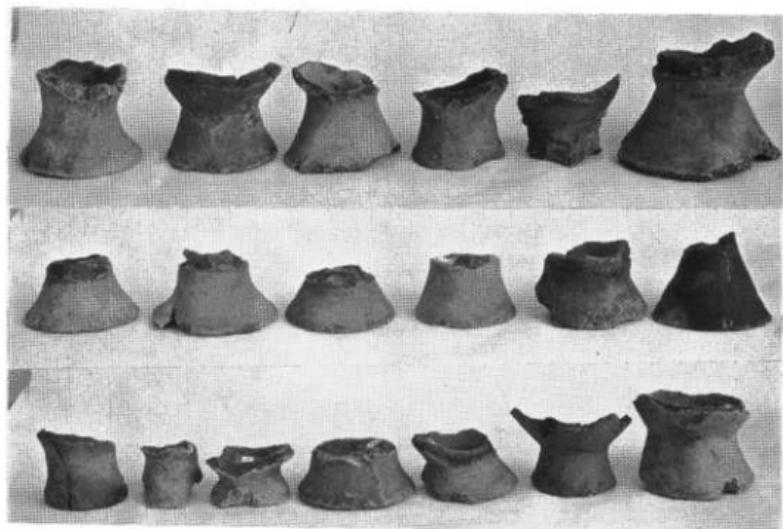


5 地点の出土遺物 瓦形土器

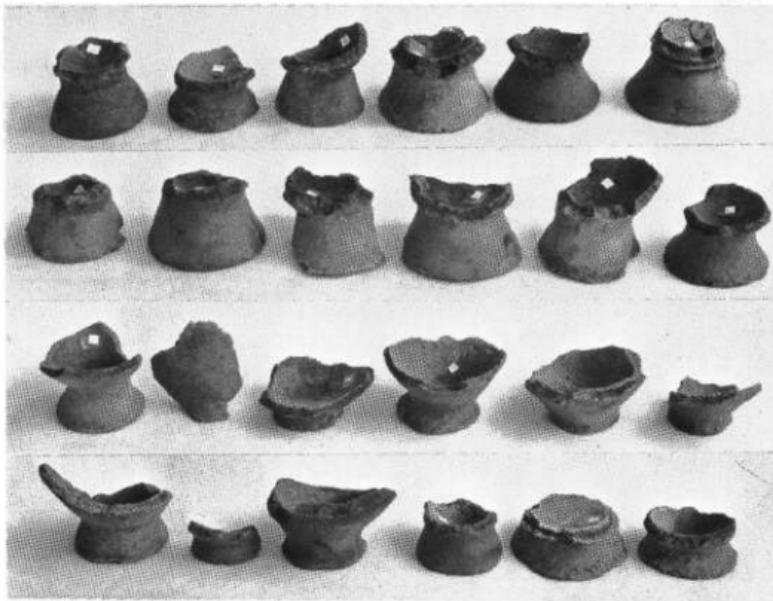
図版 1 2



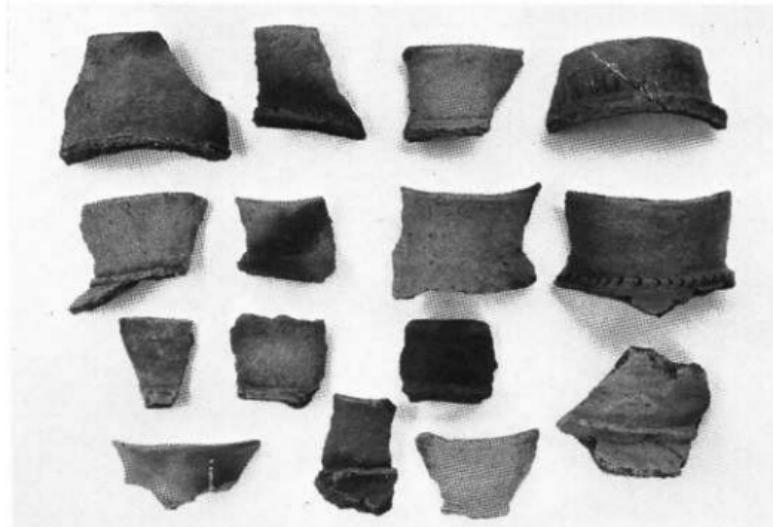
5 地点出土遺物 麋



5 地点の出土遺物 麋 底部



5 地点の出土遺物 壺 底部

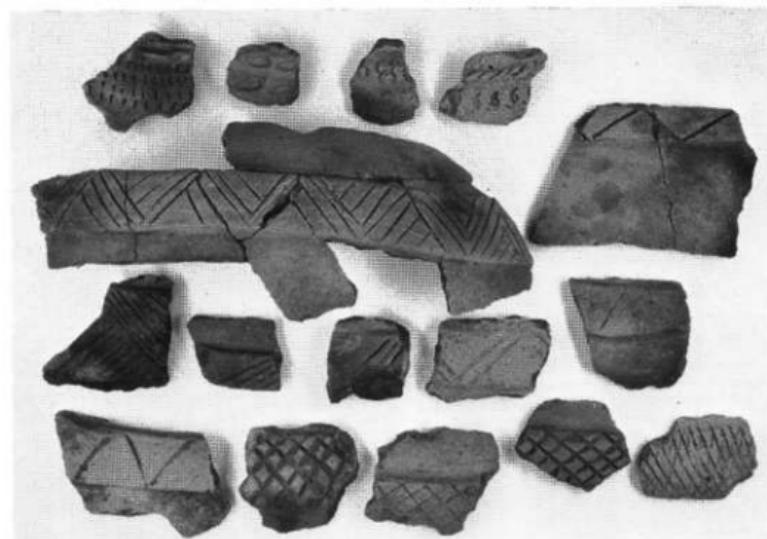


5 地点の出土遺物 壺 口縁

図版 14



5 地点の出土遺物 突帯



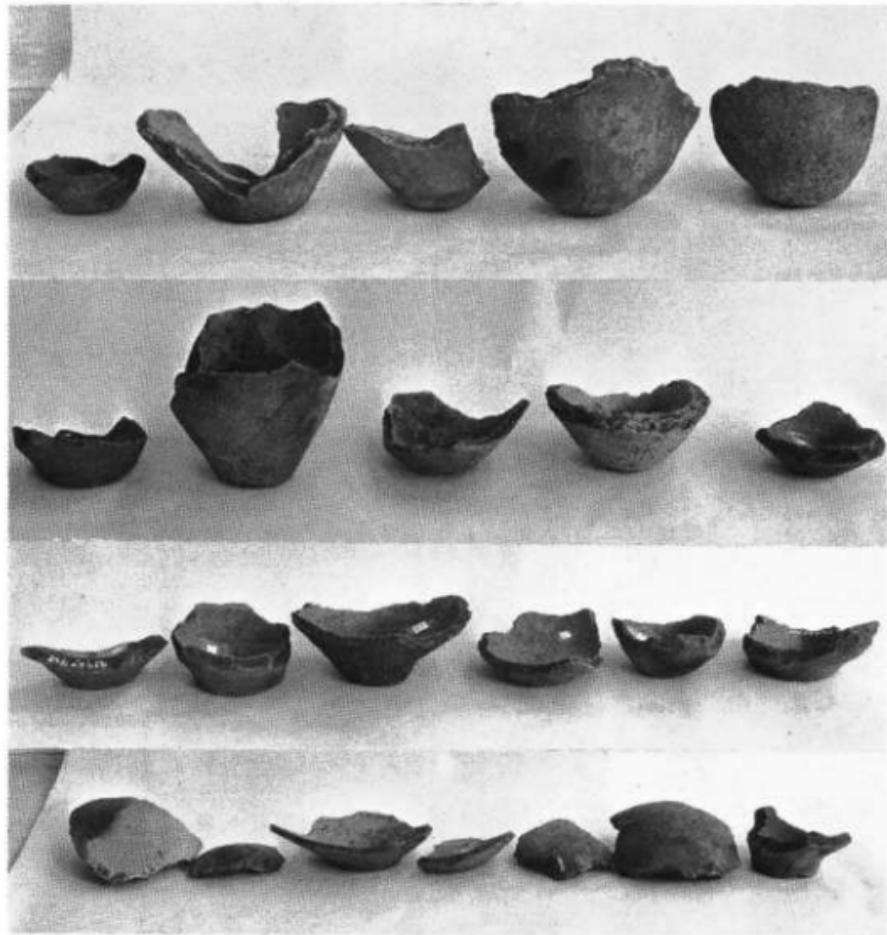
5 地点の出土遺物 突帯



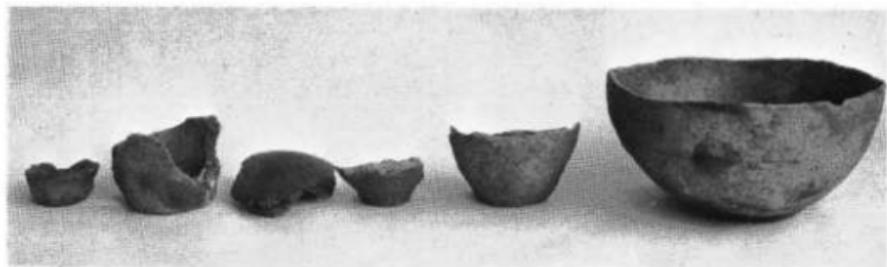
5 地点の出土遺物 突帯



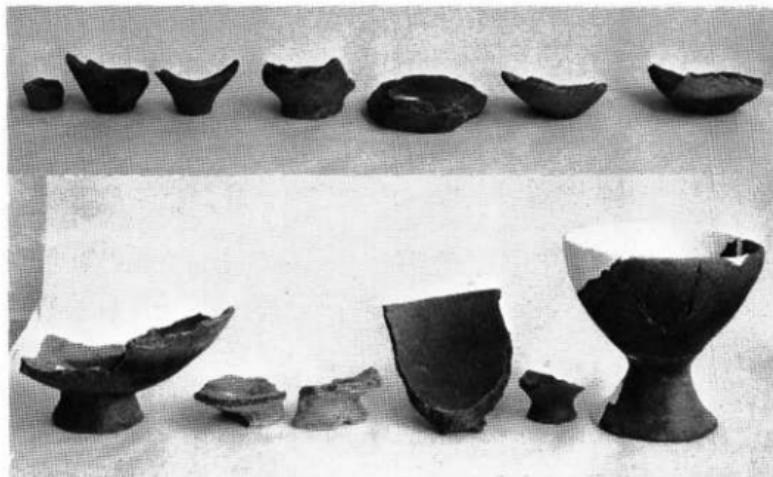
5 地点の出土遺物 突帯と壺底部



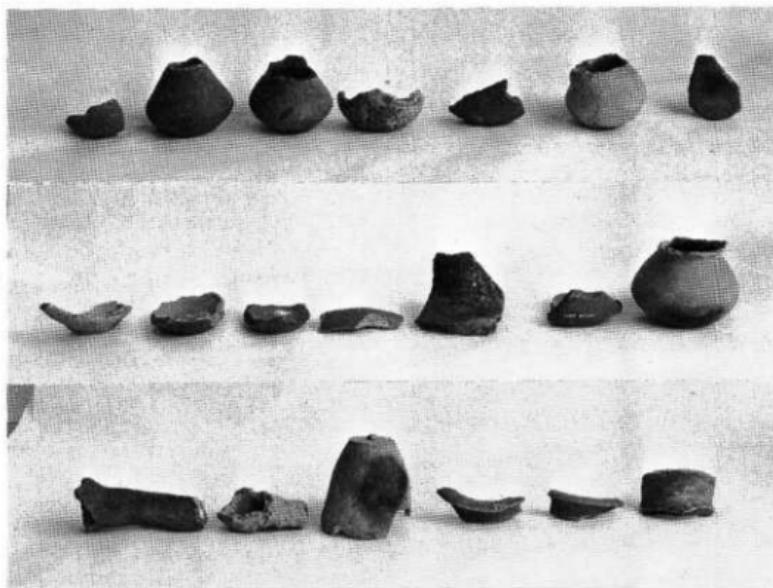
5 地点の出土遺物 壺 底部



5 地点の出土遺物 鉢



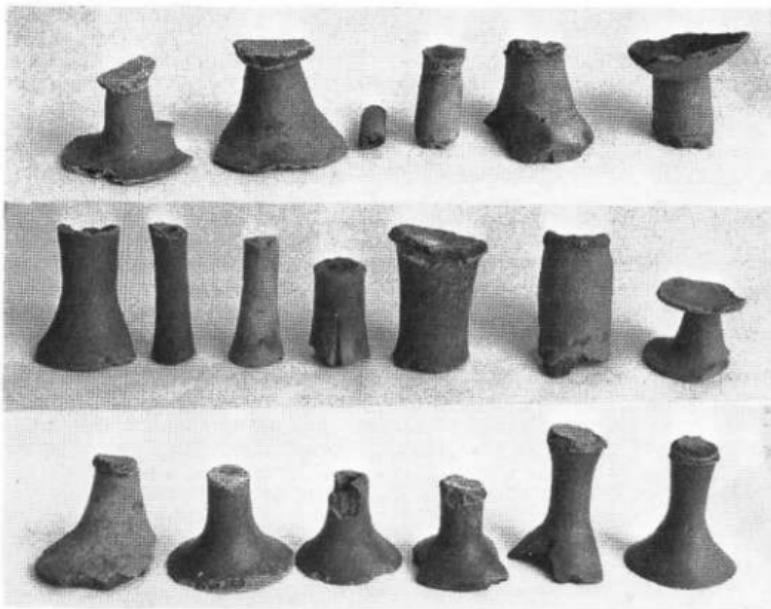
5 地点の出土遺物 鉢



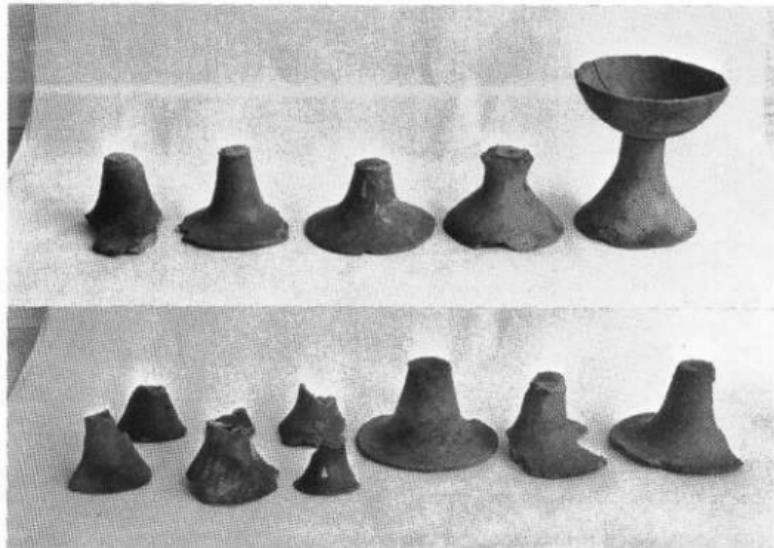
5 地点の出土遺物 壺と土製品



5 地点の出土遺物 高坏



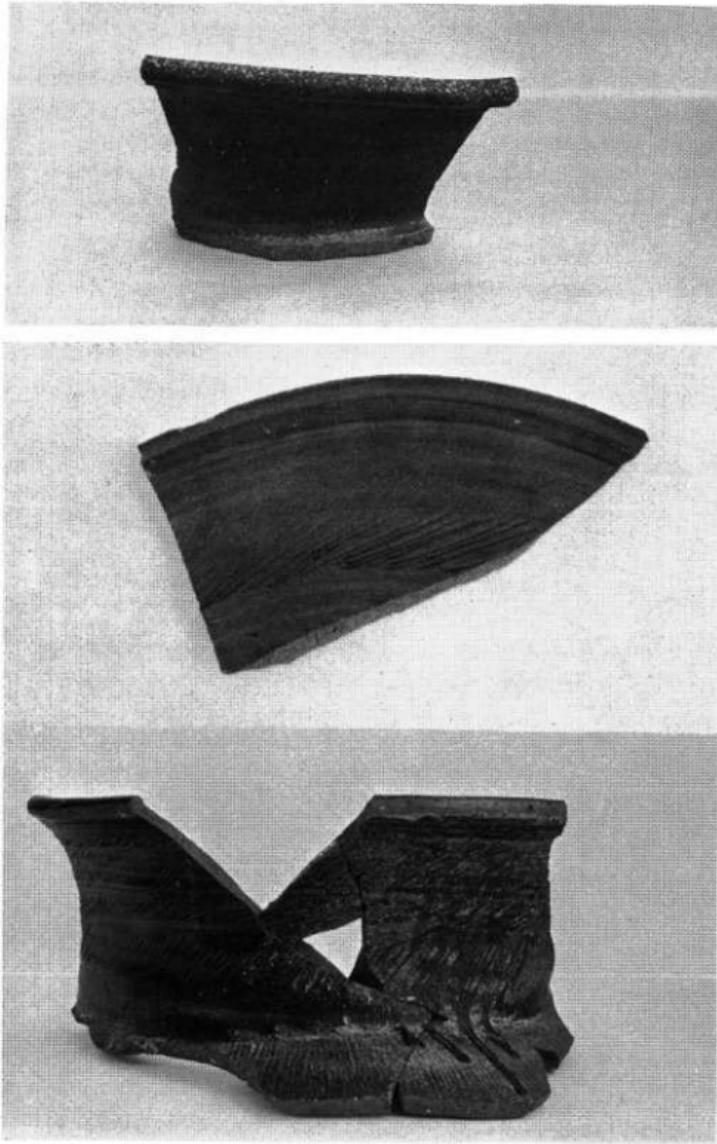
5 地点の出土遺物 高坏



5 地点の出土遺物 高坏



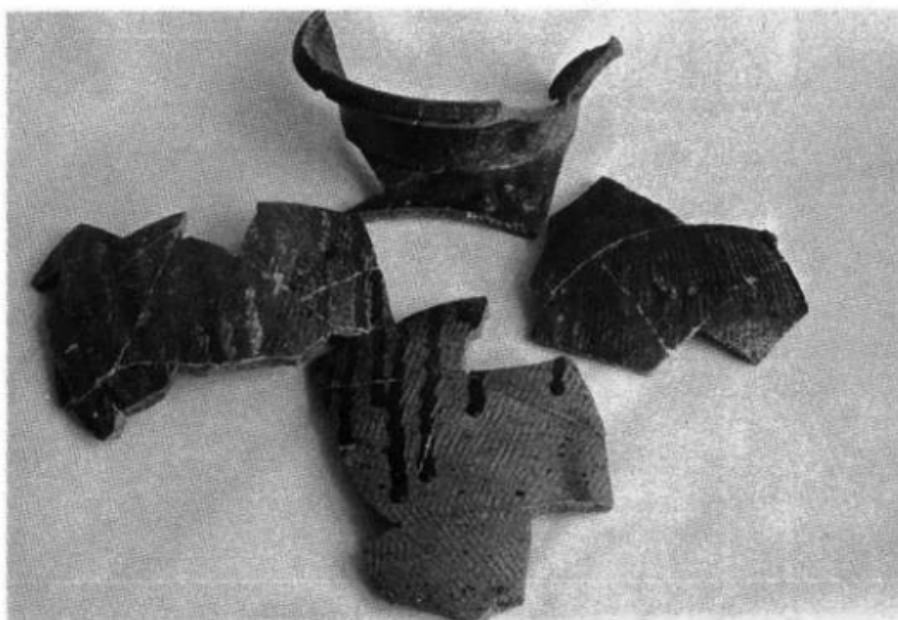
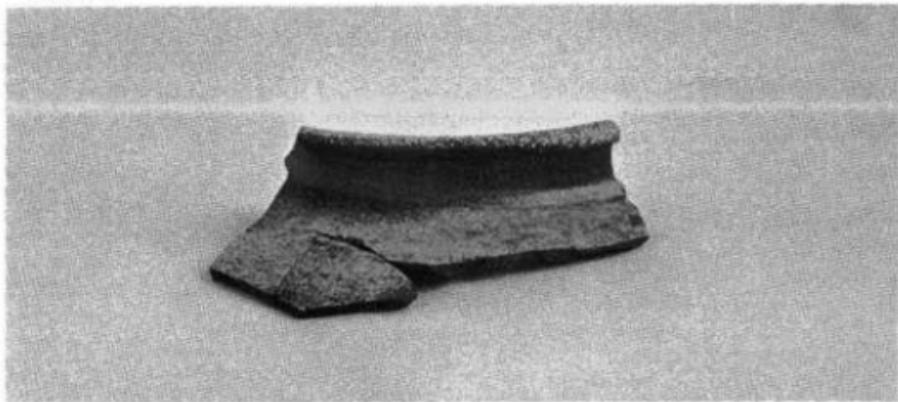
5 地点の出土遺物 壺



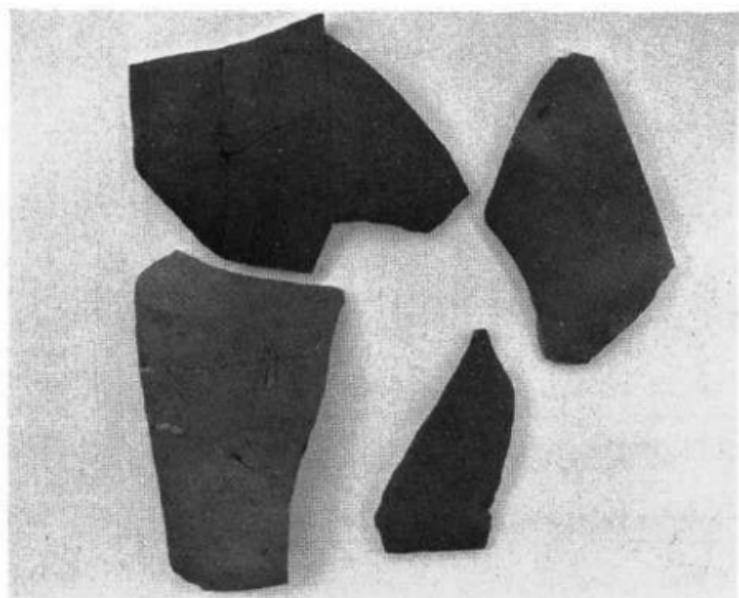
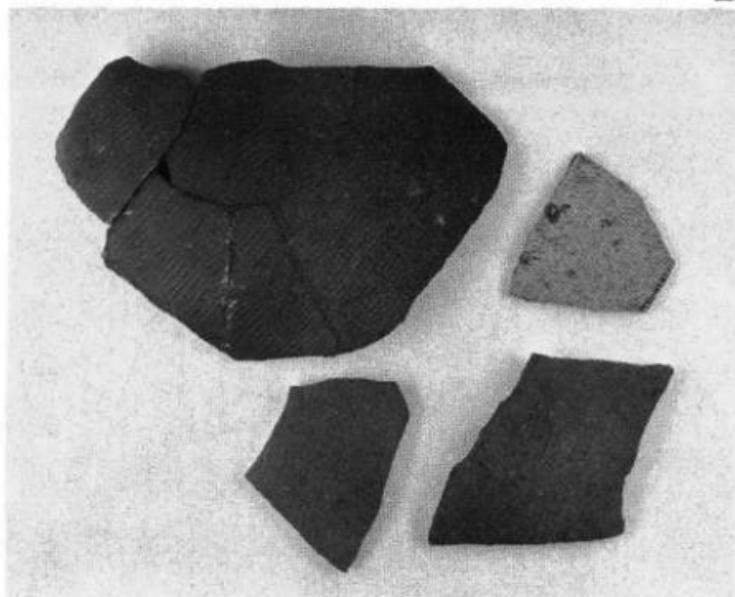
5 地点の遺物 須恵器



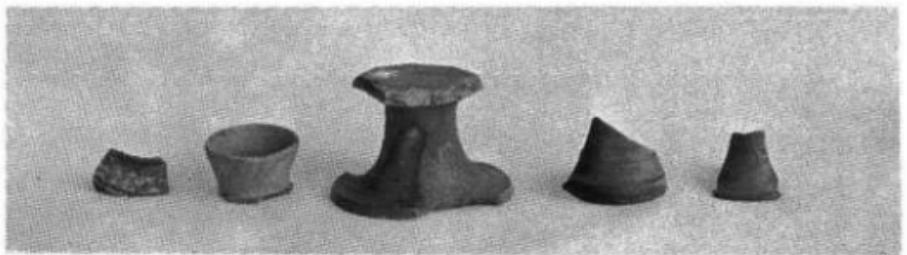
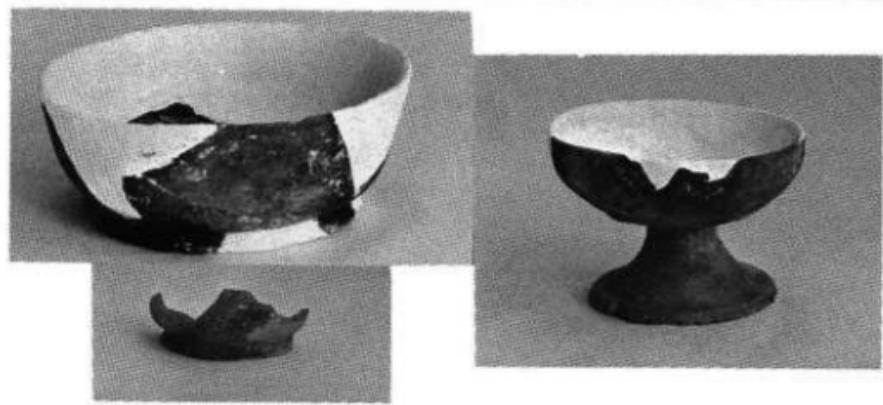
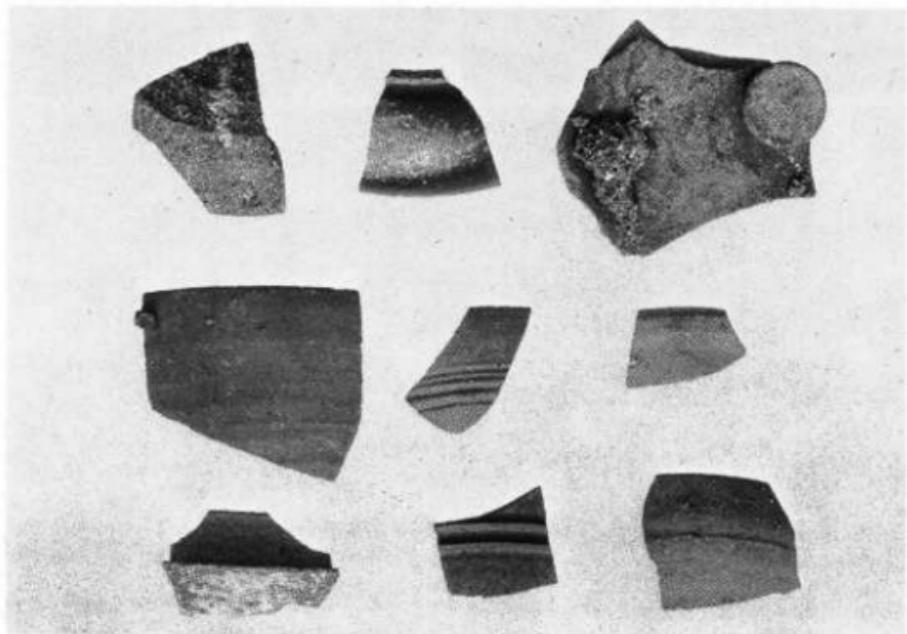
5 地点の遺物 須恵器 壺



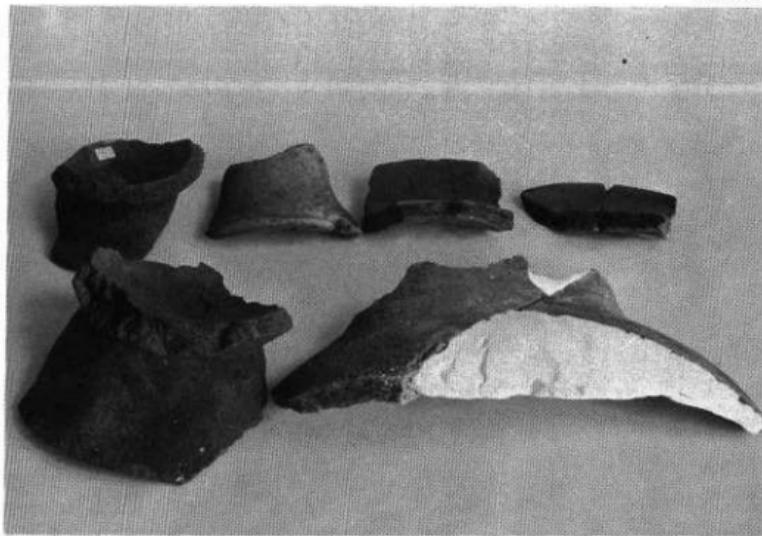
5 地点の遺物 須恵器 瓦



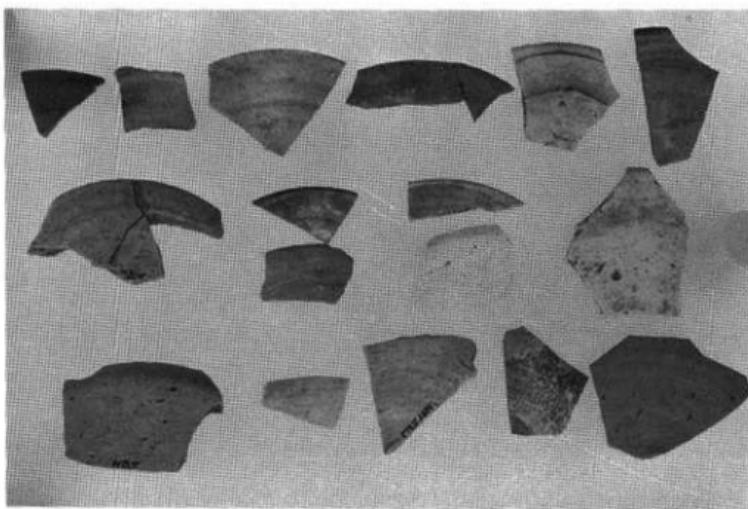
5 地点の遺物 須恵器 壺



5 地点の遺物 須恵器

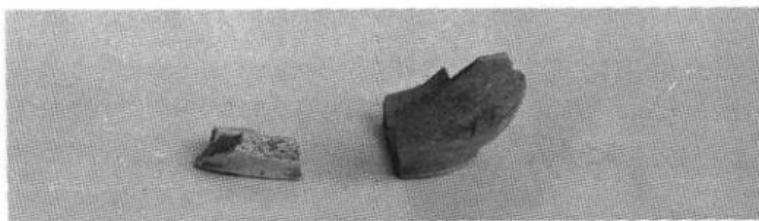
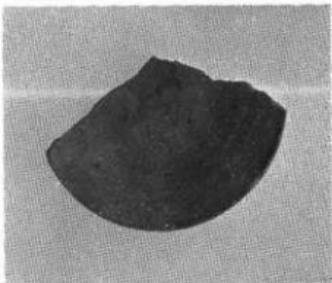


8 地点の遺物　甕・壺

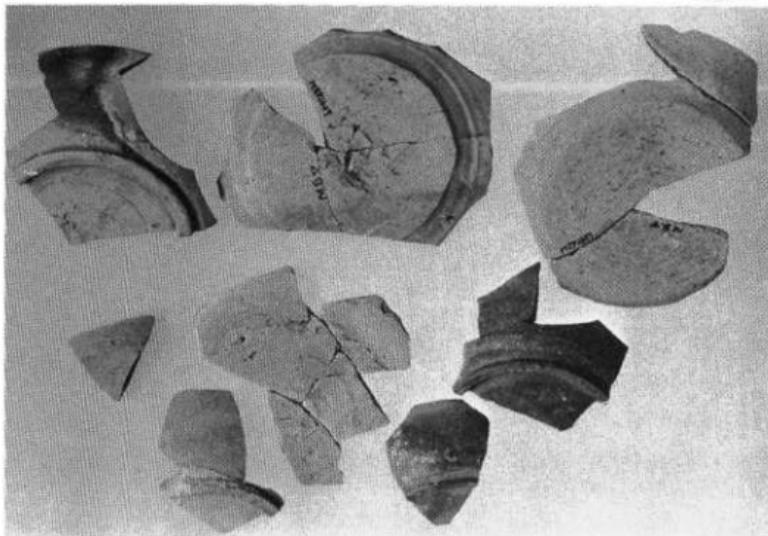


8 地点の遺物　須恵器 壊蓋

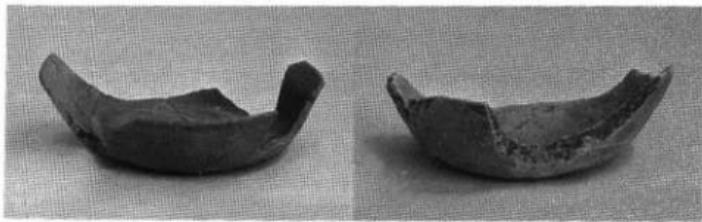
図版 26



8 地点の遺物 須恵器

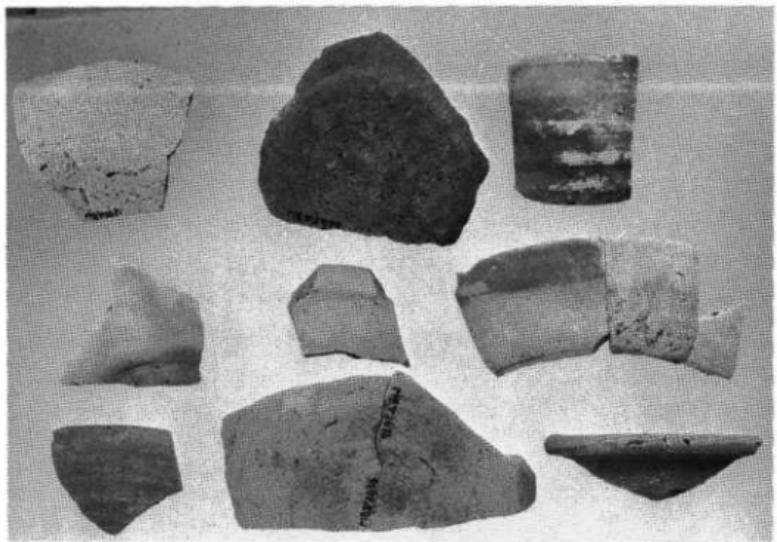


8 地点の遺物 須恵器 壊

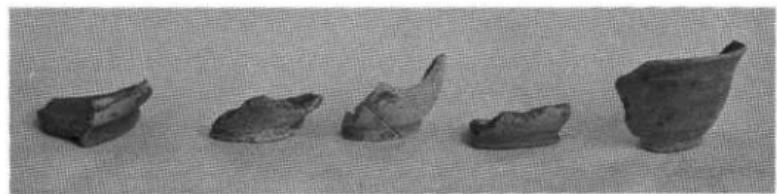


8 地点の遺物 須恵器

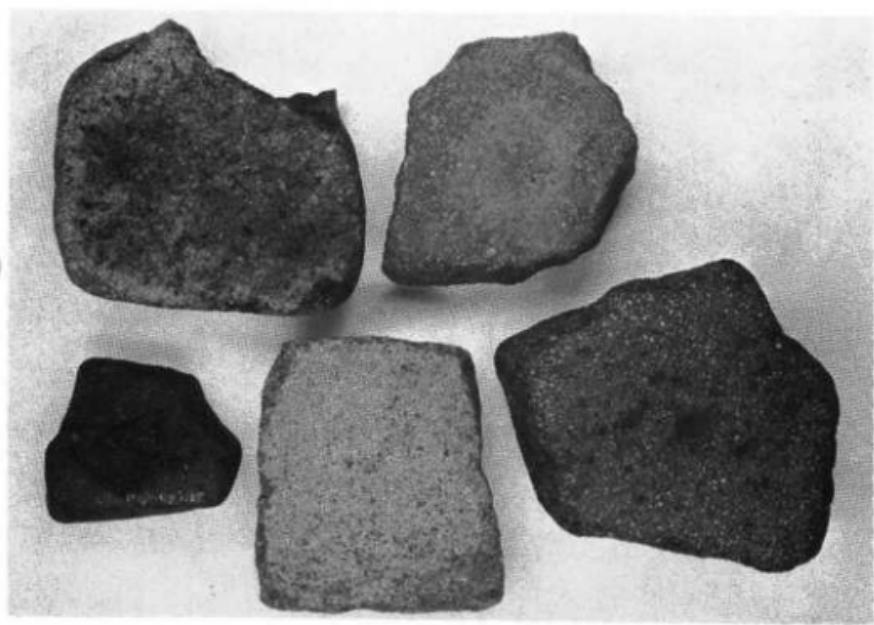
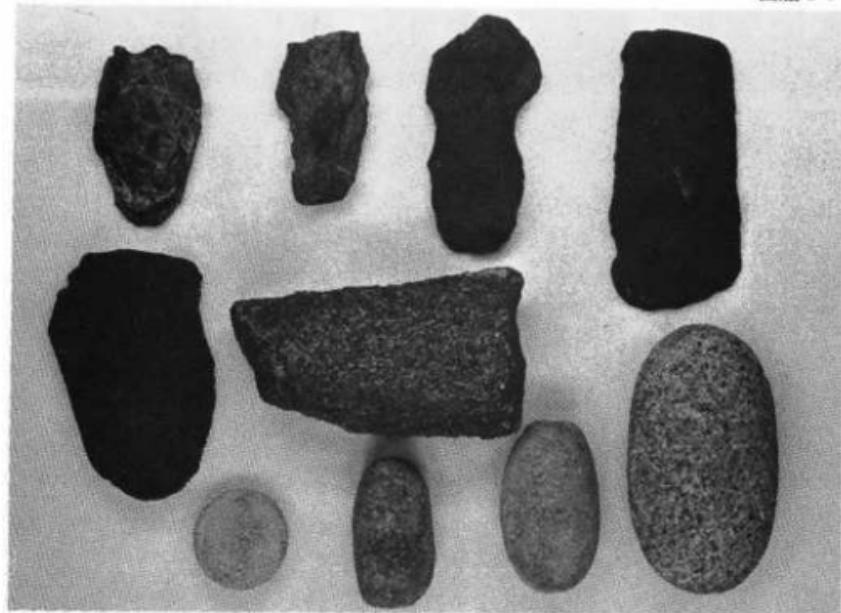
図版 28



8 地点の遺物 須恵器 壊・臺

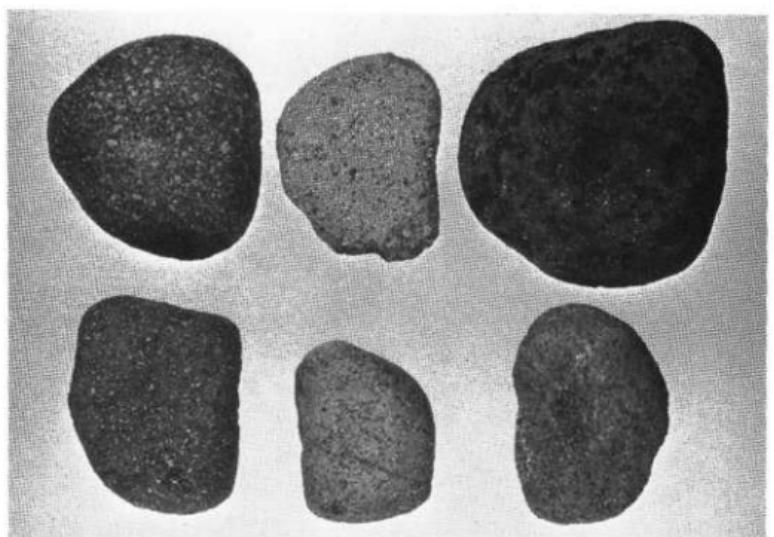
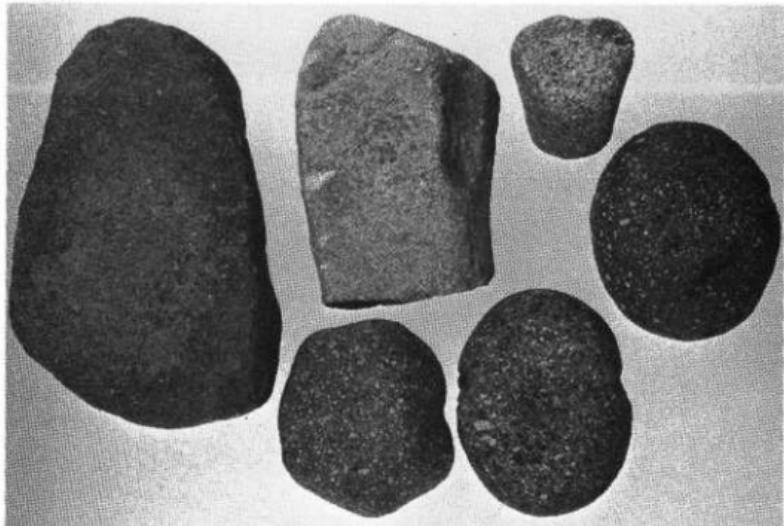


8 地点の遺物

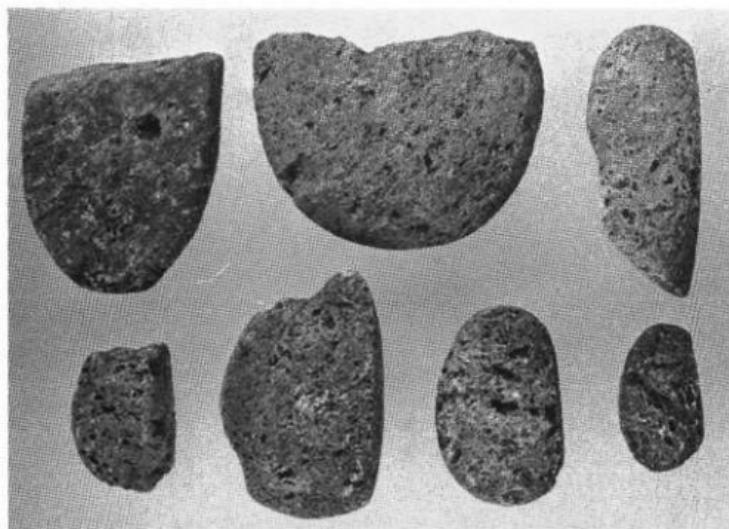
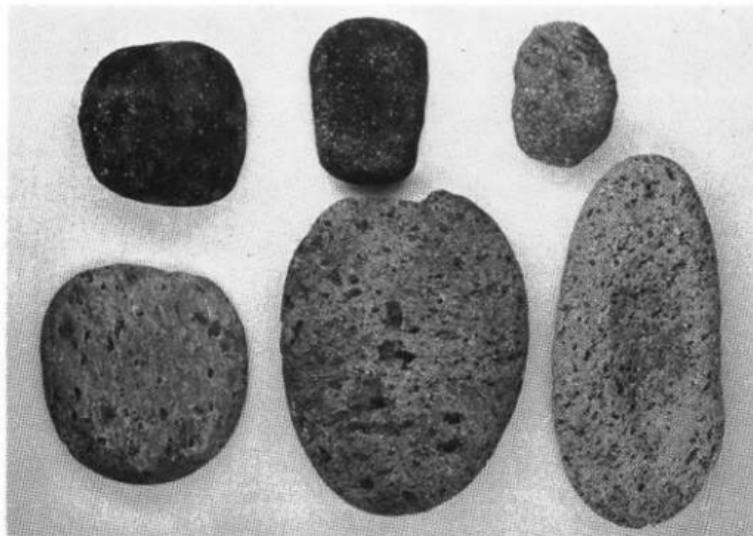


5 地点の遺物 石器(1)

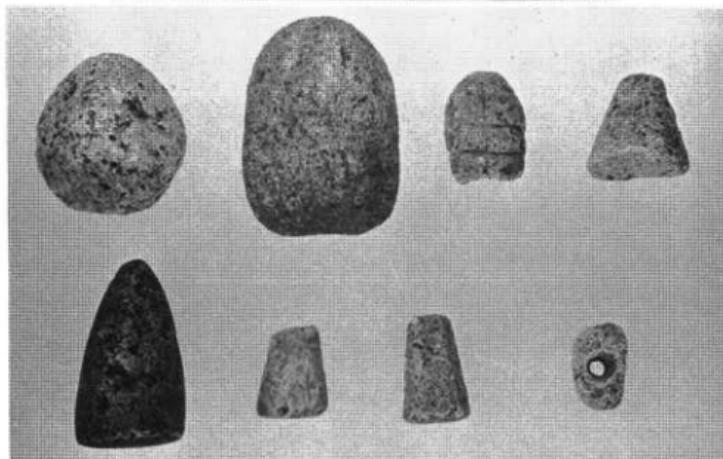
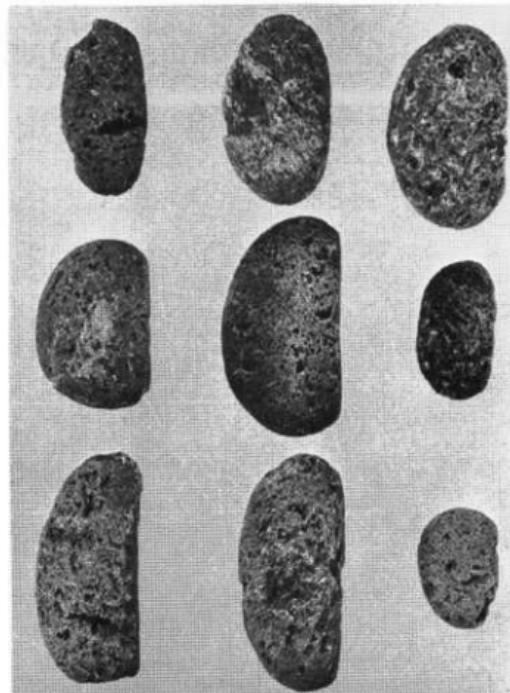
図版 3 0



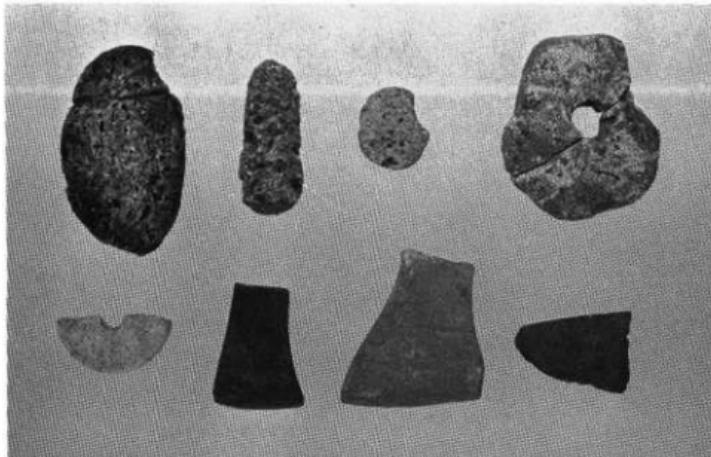
5 地点の遺物 石器 (2)



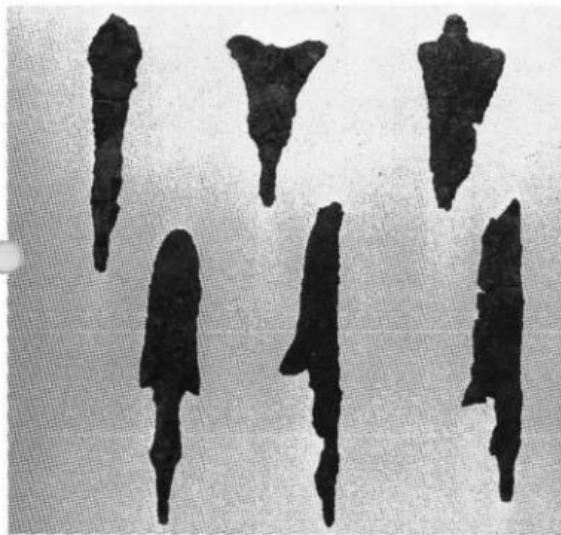
5 地点の遺物 軽石加工品



5 地点の遺物 軽石加工品



軽石加工品・石器(3)



環

鉄 錫

5・8 地点の置物

指宿市埋蔵文化財報告書（5）

宮之前遺跡

発行日 昭和56年3月

発行 指宿市教育委員会

印刷所 有限 朝日印刷

住所 鹿児島市上荒田町854～1

